

バレット写本現代訳（4）

浜島 敏 訳*

ヨハネによる福音書

1 章

19 ジュデウ ゼルザレンより
サセルドーテ、レビタをジョアンに遣
わし、御身はいかなる人ぞ」と問い申
しければ、

20 真を表わし諍い給わず、「我キリシ
トにあらず」と真に表わし、答え給う。

21 「されば、エリヤスにて在すか」と
問う。それにて、「なし」とあり。
「然ればポロヘエタにて在すか」と問
う。それにて、「なし」とあり。

22 「されば、我を遣わしける人に返事
を申すために、御身は誰にて在すぞ。

何と顕わし給うぞ」と問いければ、

23 ジョアン答えて曰く、「我はこれイ

19 さて、ヨハネの証しはこうである。
エルサレムのユダヤ人たちが、祭司や
レビ人たちをヨハネのもとへ遣わして、
「あなたは、どなたですか」と質問さ
せたとき、

20 彼は公言して隠さず、「わたしはメ
シアではない」と言い表した。

21 彼らがまた、「では何ですか。あな
たはエリヤですか」と尋ねると、ヨハ
ネは、「違う」と言った。更に、「あな
たは、あの預言者なのですか」と尋ね
ると、「そうではない」と答えた。

22 そこで、彼らは言った。「それでは
いったい、だれなのです。わたしたち

* Bin HAMAJIMA 本学名誉教授

ザイヤス・ポロヘエタもう申されけるごとく、『御主おんあるじの道みちを直すぐになせ』とデゼルトよに呼よばこえわる声こえなり」とありけるなり、

24 遣つかいはハリゼウうちの内うちなり。

25 この遣つかい重かさねて申もうしけるは、「キリスト、エリヤス、ポロヘエタあらずんば、何なにをもつてパウチズモさずを授さげらるるぞ」申もうしければ、

26 ジョアンいわの曰いわく、「我われはこれ水みずのパウチズモさずを授さぐるなり。御ご辺へん達たちの中なかに見み知られぬ御おんあるじ主じあり。

27 その御おんあるじ主われな我まえ無おかつし前わより御お座わしませども、我わが後あとに來きたり給たまうべし。我われはかおんくつの御おん靴おの御お緒と解もき申もうすほどの功力くりきをも持もたず」と申もうされけるなり。

28 ジョルダンかわの川むの向むかいベタニヤさずにおいて、ジョアン、パウチズモさずを授さげ給たまうところにて、この事ことありけるなり。

を遣つかわした人々ひとびとに返かえ事をしななければなりません。あなたは自分を何なにだと言うのですか。」

23 ヨハネは、預よ言ご者しやイザヤの言葉ことばを用もちいて言いった。「わたしは荒あれ野ので叫こゑぶ声こゑである。『主しよの道みちをまっすぐにせよ』と。」

24 遣つかわされた人々ひとびとたちはファリサイ派ぱいに属ぞくしていた。

25 彼らかれらがヨハネに尋たずねて、「あなたはメシアめしやでも、エリヤえりやでも、またあの預よ言ご者しやでもないのに、なぜ、洗せん礼れいを授さけるのですか」と言うとき、

26 ヨハネは答こたえた。「わたしは水みづで洗せん礼れいを授さけるが、あなたあなたがたの中なかには、あなたあなたがたの知しらない方かたがおられる。

27 その人ひとはわたしわたしの後あとから來きられる方で、わたしわたしはその履はき物もののひもを解とく資格しきかくもない。」

28 これは、ヨハネが洗せん礼れいを授さけていたヨルダン川がわの向むこう側がわ、ベタニアべたにやでの出来でき事ごとであった。

Dominica tertia aduentus (待降節第三主日) p.5

19 Judeu Jerusalem yori sacerdote, Leuita vo João ni ccuauaxi, "Von-mi va ycanaru fito zo?" to toy moxi quereba, 20 macoto vo arauaxi, aragay tamauazu. "Vare Xe. ni arazu." to macoto ni arauaxi cotaye tamo. 21 "Sareba Helias nite maximasu ca?" to tō. Sore nite mo, "Naxi." to ari. "Xicareba profeta nite maximasu ca?" to tō. Sore nite mo "Naxi." to ari. 22 "Sareba vare vo ccuauaxi queru fito ni fenji vo mosu tame ni, vō-mi ua tare nite maximasu zo? Nani to arauaxi tamo zo?" to toi quereba, 23 João cotayete iuaqu, "Vare va core Isaia profeta mōsare-queru gotocu, 'Von-Aruji no michi vo *sugui ni naxe.' to deserto ni yobauaru coye. nari." to ariqueru nari. 24 Ccucay ua Phariseo no vchi nari. 25 Cono ccucay cassanete moxiqueru ua, "Christo, Helias, Profeta ni arazumba, nani vo motte baptismo vo sazzuque raruru zo?" moxi

quereba, 26 João no yuacu, "Vare va core mizzu no baptismo vo sazzucuru nari. Gofen tachi no naca ni mi-xirarenu von-Aruji ari. 27 Sono von-Aruji, vare nacaxxi (macarixi, nacata) maye yori vouaxi maxe domo, vaga ato ni quitari tamo bexi. Vare ua cano von-cuccu no vō-vo toqui mosu fodo no curiqui vomo motazu." to mōsare queru nari. 28 Jordão no caua no mucay (mucōni) Bethania ni uoyte João Baptismo vo sazzuque tamo tocoro nite, cono coto ariqueru nari.

20 X^o=Xpisto=Christo; 23 *sugui → sugu; 27 vō-vo → von-vo;

1 9 **サセルダウテ** (発音は「サセルドーテ」と思われる): 葡 sacerdote. 「祭司」。

レピタ: 「レピ人」。ユダヤ教の神殿に奉仕する職務を持った一族。

2 0 **諍い**: 「争う、また言い争う。抵抗する」(『新潮』)。

キリシト: ローマ字表記で X^o とあるのは、ギリシア語の Xpistos に由来している。ラテン語では Christus と表記されるので、X は用いない。

エリヤス: 葡羅 Helias. ポルトガル語では h は無音。当時の日本語では [jeriasu] と読んだ可能性がある。預言者の一人。

2 2 **ポロヘクタ**: 葡 profeta. 「預言者」。16世紀の日本語では「へ」は(「フェ」)であった。

2 3 **イザイヤス**: 葡 Isaias. 預言者の一人。

直ぐ: ローマ字表記は sugui (スギ) で、誤字と思われる。

デザート: 葡 deserto. 「砂漠、荒れ野」。

2 4 **ハリゼウ**: 葡 fariseus, 伯 Phariseus. 「ファリサイ人」。

2 6 **バウチズモ**: 原文はこの場所は動詞。葡 batizo, 伯 baptizo. 「バプテスマ(洗礼)を受ける」。

29 **ゼズス、ジョアン**の許へ御幸なる
を見られ、「世界の咎を赦し給うデウ
スのコルデイロなり。

30 我無かつし前より御座しませども、
我が後に来たり給うべしと言ひしは、
これにて在すと雖も、

31 見知り奉らざるなり。イスラエル
に現し申さんために、我水のバウチズ
モを授けに来たる」と申されたるなり。

32 さればジョアン証擧を表し申さん
ために、スピリト・サント鳩のごとく
にして、天より下り給ひ、御上に御座

します見奉ると雖も、

33 見知り申さぬなり。さりながら水

29 その翌日、ヨハネは、自分の方へ
イエスが来られるのを見て言った。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。

30 『わたしの後から一人の人が来られ
る。その方はわたしにまさる。わたし
よりも先におられたからである』とわ
たしが言ったのは、この方のことであ
る。

31 わたしはこの方を知らなかった。
しかし、この方がイスラエルに現れる
ために、わたしは、水で洗礼を授けに
来た。」

32 そしてヨハネは証した。「わたし
は、“霊”が鳩のように天から降って、

のバウチズモを授け^{さず}んために遣^{つか}わし給^{たも}
^{おんあるじ}う御主、^{われ}我に^{のたま}宣^{たま}わく、スピリト・サン
^きト来^{うえ}たり、^{まし}その上^まに在^ます人^{ひと}を^{なんじみ}汝見^{とき}ん時、
^{すなわ}即^{もつ}ちスピリト・サントを以てバウチズ
^{さず}モを授^{たも}け給^{ひと}う人^しはこれなり、と知^しらせ
^{たも}給^{たも}うなり。

34 我見^{われみ}奉^{たて}り、デウス・ヒイリヨにて
^{ましま}在^{しょうこ}す証^た拠^{もう}に立^たち申^{もう}しけるなり。

お
 終^おわり、デウスに栄光あれ。

この方の上にとどまるのを見た。

33 わたしはこの方を知らなかった。

しかし、水で洗礼を授けるためにわたしをお遣わしになった方が、『“霊”が降って、ある人にとどまるのを見たら、その人が、聖霊によって洗礼を授ける人である』とわたしに言われた。

34 わたしはそれを見た。だから、この方こそ神の子であると証したのである。」

Dominica in octava Epiphaniae (御公現の第八日) p.48

29 IESVS Ioão no moto ye gocô naru uo mirare, xecay no toga no yuruxi tamo D's no cordeiro nari.
 30 Vare nacaxi maye yori vouaxi maxe domo, vaga ato ni qitari tamo bexi to iyxi ua core nite maximasu to iyedomo, 31 mixiri tatemaccurazaru nari. Israel ni arauaxi mosan tame ni, vare mizu no bautesimo uo sazuqe ni qitaru to mosaretaru nari. 32 Sareba João xoco uo arauaxi mosan tame ni S. Sancto fato no gotocu ni xite ten yori qudari tamay, von-vye ni vouaxi masu uo mi tatemaccuru to iyedomo, 33 mixiri mosanu nari. Sarinagara, mizu no baptismo uo sazuquen tame ni ccucaxi tamo von-Aruji vare ni notamauaqu, Spu S quitari, sono vye ni maximasau fito uo nanji min toqui, sunauachi Spu S. uo motte baptismo uo sazuqe tamo fito ua core nari. to xiraxe tamo nari. 34 Vare mi tatemaccuri D's Filho nite maximasu xôco ni tachi moxi qeru nari.

29 D's=Deus; 33 Spu S=Spiritu Sancto; 34 D's=Deus;

2 9 御幸：「みゆき。年老いた国王、あるいは、すでに退位した国王（上皇）の外出、他行」。『日葡』。

デウス： 葡羅 Deus。「神」。キリシタンは最初「神」を「大日」と呼んだが、仏教徒の混乱が生じ、ラテン語に倣って「デウス」と呼ぶことにした。

コルデイロ： 葡 cordeiro。「子羊」。「デウスのコルデイロ」、羅 Agnus Dei。「神の子羊」はイエスを表す。

3 0 なかつし： 「なかりし」の音便か。『新潮』に「なかつせば」があり、「なかりせばの音便」と説明されている。

3 1 Bautesimo： 参1.26注。葡 baptismo [bati:zmo]。「バウチズモ」と音訳されているので、そのままをローマ字表記したものと思われる。

3 2 スピリト・サント： 「聖霊」。原文では Espirito (霊) のみ。

3 4 デウス・ヒイリヨ： 葡 Filho de Deus. filhoは「息子」。

終わり、デウスに栄光あれ： この部分は、聖書の本文ではない。

2章

1 ガリレアの国の中カナと言う所に祝儀あるに、ゼズスの御母その所に到り給えば、

2 ゼズスを始め奉り、ヂシポロをもその祝儀に請じ申さるなり。

3 酒足らざれば、御母ゼズスに、「酒なき」と宣えば、

4 「いかに、女人、その身と我にそのこと当たりけるや。我が時来たらず」と宣えば、

5 御母使われける者共に、「御言葉のままに従え」と言うなり、

6 さればジュデアの慣いに、身を淨むるために、器物ニメトレタ三メトレタ入るほどの壺、その所にあるに、

7 ゼズス、「水を一杯入れよ」と宣えば、仰せに従い余りほど入れけるなり。

8 ゼズス、「汲み出だして総の司に奉れ」と宣えば、御詔の如く致しけるなり。

9 司、水の酒になるを飲み試みて、何処より来ることを知らねども、使われる者共は水を入れければこれを知るなり。その時、司スポンソを呼び出だし、申されけるは、

10 「人毎に先ず良き酒を出だし、沈酔の後に悪しき出だすに、御身は今まで

1 三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。

2 イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。

3 ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。

4 イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」

5 しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。

6 そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあった。いづれも二ないし三メトレテス入りのものである。

7 イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。

8 イエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで行った。

9 世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは

よ ^{さけ} ^{ひか}
 良き酒を控えらるるなり」とありける
 なり。

11 これガリラヤのカナにおいてゼズ
 ス ^{あら} ^{たも} ^{さいしょ} ^{おんきどく}
 躰 ^{もつ} ^{おんみ} ^ゴ ^{ロー} ^{リヤ} ^{あら} ^{たま}
 を以て、御身のゴラウリヤを躰し給え
 ば、ヂシポロいよいよゼズスをヒイデ
 ス ^う ^{たてまつ}
 に受け奉るなり。

知っていたが、世話役は知らなかった
 ので、花婿を呼んで、

10 言った。「だれでも初めに良いぶど
 う酒を出し、酔いがまわったところに劣っ
 たものを出すものですが、あなたは良
 いぶどう酒を今まで取って置かれました。
 ）」

11 イエスは、この最初のしるしをガ
 リラヤのカナで行って、その栄光を現
 された。それで、弟子たちはイエスを
 信じた。

Dominica secunda post Epif. (御公現後の第二主日) p.11v

1 Galilea no cuni no vchi, Cana to yu tocoro nite xūgui aru ni, JESVS no von-faua sono tocoro ni ytari tamayeba, 2 Jesus vo fajime tatemaccuri, discipolo vo mo sono xūgui ni xōji (yobaruru) mosaruru nari. 3 Saque tarazareba, von-faua JESVS ni, "Saque naqui." to notamayeba, 4 "Ycani, nhonin, sono mi (vō-mi) to vare ni sono coto atari queru ya? Vaga toqui quitarazu." to notamayeba, 5 von-faua ccucauare queru mono-domo ni, "Von-cotoba no mama ni xitagaye." to notamo nari. 6 Sareba, Judeu no naray ni mi vo quiyomuru tame ni vccuamono 2m. 3m. iru fodo no ccubo sono tocoro ni aru ni, 7 JESVS, "Mizu vo yppay ireyo." to notamayeba, vōxe ni xitagay, amari fodo ire queru nari. 8 JESVS "Cumi idaxite (facari), sō no ccucassa ni tatemaccure (agucyo)." to notamaye ba, gojjo (guioy) no gotocu, itaxi queru nari. 9 Ccucassa mizu no saque ni naru vo nomi cocoromite, yzucu yori quitaru coto vo xiranedomo, ccucaururu mono-domo ua, mizzu vo yrequereba core vo xiru nari. Sono toqui ccucassa spōso vo yobi idaxi mōsare queru ua, 10 "Fito-goto ni, mazzu yoqui saque vo idaxi, chinsui (chinxizumi, suy, yoy) no nochi ni, axiqui idasu ni, von-mi ua imamade yoqui saque vo ficaye (todome) raruru nari." to ariqueru nari. 11 Core Galilea no Cana ni uoyte JESVS arauaxi tamo saixo no von-qui ~docu nari. Core vo motte, von-mi no gloria vo arauaxi tamayeba, discipolo yyo yyo JESVS uo fides ni vque tatemaccuru nari.

6 2m.=2 *meteri*; 9 spōso=spozso;

1 祝儀：「祝い、または、婚礼」(『日葡』)。

4 当たり：「当たり」の中に「ある人に属する、適合する、また関係するの意」(『日葡』)がある。

6 メトレタ：羅 *metreta*。「液体の分量」。古代ローマの1 *metreta* は約54リッター。元になるギリシア語の容量単位の *metretes* は約40リッターということになり、差がある。

7 水：ローマ字表記は *mizu*。この章には *mizu* と *mizzu* が混用されている。「ず」と「づ」が明確に

発音し分けられていないことが分かる。

8 御掟：「貴人の命令」(『日葡』)。

9 スポンソ：葡 sponso。「花婿」。

10 沈酔：「深く酔うこと」(『日葡』)。

11 御奇特：「奇特」は「不思議、または、奇跡」(『日葡』)。

ゴラウリヤ： gloria。「栄光」。発音は「ゴローリヤ」であったと思われる。

ヒイデス： fides。「信仰」。「ヒイデスに受ける」は「信じる」の意。

3 章

1 ハリゼウの^{なか}中にニコデムスとて^{つかさ}ジュ
デウの司あり。

2 夜^よ更^ふけてゼズスへ^{まい}参^{もう}りて申^まさるる
は、「御身^{おんみ}デウスより出^いで給^{たま}う師匠^{ししょう}に
て在^{まし}すと弁^{わか}え奉^{たま}るなり。そのゆえは顯^{あら}
わし給^{たま}う御奇特^{おんきどく}は誰^{たれ}にてもあれ、その
身^みにデウス在^{まし}さずんば、叶^かうべしと覺^{おぼ}
えぬ」とありければ、

3 ゼズス、「真^{まこと}に真^{まこと}に人間^{にんげん}今^{いま}一度^{いちど}生^うま
れずんばデウスの御国^{おんくに}を見^み奉^{たま}ることあ
るべからず」と宣^{のたま}えば、

4 ニコデムス、「老^{ろう}したる人^{ひと}はいかで
か再^{ふた}び生^たまるべきぞ。もし、母^はの胎内^{たいない}
に還^{かえ}り、再^{ふた}び生^たまるべきや」と申^{もう}され
ければ、

5 ゼズス宣^{のたま}わく、「真^{しんじつ}実に言^ゆうなり。
諸^{しよにん}人^{にん}スピリト・サンチの水^{みず}より生^うまれ
ずんば、デウスの御国^{おんくに}に到^{いた}ることある
べからず。

6 骨^{こつ}肉^{にく}より生^うまるる者^{もの}は骨^{こつ}肉^{にく}なり。

1 さて、ファリサイ派に属する、ニコデモという人がいた。ユダヤ人たちの議員であった。

2 ある夜、イエスのもとに来て言った。「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行ふことはできないからです。」

3 イエスは答えて言われた。「はっきり言っておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」

4 ニコデモは言った。「年をとった者が、どうして生まれることができましよう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか。」

5 イエスはお答えになった。「はっきり言っておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ること

スピリトより生まるる者はスピリトなり。

7 新しく生まるべきこと専らなり、
と言いつることを驚かすべからず。

8 スピリト思し召すままに、御身の善を遷り給えば、御言葉を弁ゆると雖も、いづくより来り、いづくに帰り給うと言うことを知らず。スピリト・サントより生まるる者はかくの如くなり」と宣うに、

9 ニコデムス、「如何にしてかその如く叶い奉るべきぞ」と申されければ、

10 ゼズス、「御辺はイスラエルの師匠たる身として、この事を知られざるや。

11 我真実に言う。知る事を証拠に立つと雖も、汝達真に受けられざるなり。

12 今言ひ表したる地上の理をさえヒイデスに受けられざるに、天上の事を言うにおいては、如何にかヒイデスに受けらるべきや。

13 天に上る事は天より降り、天に住するビルゼンの子より他になし。

14 モイゼス、デゼルトにセルペンテを挙げられし如く、ビルゼンの子挙げらるべきこと専らなり。

15 これをヒイデスに受くる輩は悪道に墮ちずして、終わりなき一命を遂ぐべきため」と宣うなり。

はできない。

6 肉から生まれたものは肉である。

霊から生まれたものは霊である。

7 『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。

8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」

9 するとニコデモは、「どうして、そんなことがありえましょうか」と言った。

10 イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなことが分からないのか。

11 はっきり言うておく。わたしたちは知っていることを語り、見たことを証しているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れない。

12 わたしが地上のことを話しても信じないとすれば、天上のことを話したところで、どうして信じるだろう。

13 天から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者はだれもない。

14 そして、モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。

15 それは、信じる者が皆、人の子に

よって永遠の命を得るためである。

Dominica Trinitatis. (聖三位一体の主日) p.28v

1 Phariseu no naca ni Nicodemus tote Judeu no ccucasa ari. 2 Yo fuquete, JESVS ye mayrite, mosaruru va, "Von-mi Deus yori ide tamo xixo nite maximasu to vaquimaye tatemaccuru nari. Sono yuye va arauaxi tamo *vo-qũidocu va tare nite mo are, sono mi ni D's maximasazũba, cano bexi to voboyenu." to ari quereba, 3 JESVS, "Macoto ni macoto ni ninguẽ ima fito-tabi, vmarezũba, Deus no von-cuni vo mi tatemaccuru coto aru becarazu." to notamayeba, 4 Nicodemus, "Roxitaru fito ua ycadeca futatabi vmaru bequi zo? Moxi faua no taynay ni cayeri, futatabi vmaru bequi ya?" to mosare quereba, 5 JESVS notamauacu, "Xinjit ni yu nari. Xonin Spirito Sancti no mizu yori vmarezũba, Deus no von-cuni ni ytaru coto aru becarazu. 6 Cotnicu yori vmaruru mono va cotnicu nari. Spirito yori vmaruru mono va spirito nari. 7 Ataraxiqu vmaru bequi coto moppara nari, to yycuru coto vo vodorocar becarazu. 8 Spirito voboximesu mama ni von-mi no jen vo vccuri tamayeba, von-cotoba vo vaquimayuru to yyedomo, yzzucu yori quitari, izzucu ni cayeri tamo to yu coto vo xirazu. Spirito Sancto yori vmaruru mono ua caqu no gotocu nari." to notamo ni, 9 Nicodemus, "Ycani xite ca sono gotocu canay tatemaccuru bequi zo?" to mosare quereba, 10 JESVS, "Gofen ua Israel no xixo taru mi toxite, cono coto vo xirare zaru ya? 11 Vare xinjit ni yu, xiru coto vo xoco ni tacu to yyedomo, nãdachi macoto ni vque rare zaru nari. 12 Yma iy arauaxitaru ccuchi no cotouari vo saye fides ni vquerarezaru ni, tenjo no coto vo yu ni uojteua, ycadeca fides ni vqueraru bequi ya? 13 Ten ni noboru coto ua ten yori qũdari ten ni jjiusuru virgẽ no co yori foca ni naxi. 14 Moises deserto ni serpente vo ague-rarexi gotocu, virgen no co agueraru bequi coto moppara nari. 15 Core vo fides ni vquru tomogara ua aqudo ni vochizu xite, voari naqui ichimej vo togu bequi tame." to notamo nari.

2 *vo-qũidocu=von-quindocu; D's=Deus; maximasazũba=maximasazumba; 3 ninguẽ=ningueu; vmarezũba=vmarezumba;

5 vmarezũba=vmarezumba; 11 nãdachi=nãdachi; 13 qũdari=qundari; virgẽ=virgem;

2 弁え：「了解する、または、弁別する」(『日葡』)。

5 スピリト・サンチの水：「スピリト・サンチと水」の誤りか。

7 専ら：「必要で重要なもの」(『日葡』)。

1 3 上る事：「上る者」の誤訳か。

1 4 セルペンテ：葡 serpente。「蛇」。(民数記21：9) 参照。

挙げ：ここでは、「(十字架に) 掲げる」ことを表している。

ビルゼンの子：「ビルゼン」は葡 virgem (処女)。「ビルゼンの子」は「キリスト」を表している。

原文では「人の子」。

1 5 悪道に墮ちずして：この部分は、原文にはない。

1 ハリゼウなかの中にニコデムスとてジュ
デウつかさの司あり。

1 さて、ファリサイ派に属する、ニコデモという人がいた。ユダヤ人たち

2 夜更けてゼズスに参り申されけるは、「御身デウスより出で給う師匠にて在すと弁え奉るなり。そのゆえは、顕し給う御奇特は、誰にてもあれ、その身にデウス在さずば、叶うべからず」と申されければ、

3 ゼズス、「真に真に人間今一度新しく生まれずんば、デウスの都を見奉ることあるべからず」と宣えば、

4 ニコデムス、「老いたる人は、いかにか再び生まるべきぞ。もし母の胎内に還り、再び生まるべきや」と申されければ、

5 ゼズス宣わく、「真に言うなり、諸人スピリト・サントと水より、再び生まれずんば、デウスの御国に至ること叶うべからず。

6 骨肉より生まるる者は骨肉なり。スピリトより生まるる者はスピリトなり。

7 新しく生まるること専らなりと言いつることを驚かるべからず。

8 スピリトは思し召すところに、御身の精を移し給えば、御言葉を聞くと雖も、いづくより来たり、いづくに帰り給うと言うことを知らず。スピリトより生まるる者は皆かくの如くなり」と宣えば、

9 ニコデムス、「いかにしてか、その如く叶い奉るべきぞ」と申されければ、

の議員であった。

2 ある夜、イエスのもとに来て言った。「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。」

3 イエスは答えて言われた。「はつきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」

4 ニコデモは言った。「年をとった者が、どうして生まれることができましょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるのでしょうか。」

5 イエスはお答えになった。「はつきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。

6 肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。

7 『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。

8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」

9 するとニコデモは、「どうして、そんなことがありえましょうか」と言っ

10 ゼズス、「御^ご邊^{へん}はイスラエルの^{なか}中に
て師匠^{ししやう}たる身^みとして、このことを弁^わえ
られぬや。
11 我^{われ}真^{しん}實^{じつ}に言^いう。知^しることを言^いい出^{いだ}
し、見^みることを証^{しやう}拠^こに立^たつと雖^{いえど}も、
汝^{なんだち}達^わ我^{ししやう}が証^{まこと}拠^うを真^{まこと}に受^うけられぬなり。
12 今^{いま}言^いい表^{あらわ}しつる地^{つち}の理^{ことわり}さえヒイデ
スに受^うけられざるに、天^{てん}の^ゆことを言^いう
において、いかにしてかヒイデスに受^う
けらるべきや。
13 天^{てん}へ上^{のぼ}ることは、天^{てん}より降^{くだ}り天^{てん}に
至^{いた}るピルゼンの子^こより他^{ほか}になし。
14 モイゼス、デゼルトにおいて、セ
ルペンテを^{あん}挙げられけるごとく、ピル
ゼンの子^こ挙^あげらるべきこと専^{もっぱ}らなり。
15 これをヒイデスに^う受^{ともがら}くる輩^うは、失^う
せずして、終^おわりなき一^{いち}命^{めい}を遂^とぐべき
ためなり」と宣^{のたま}うなり。アメン。

た。
10 イエスは答えて言われた。「あなたは
イスラエルの教師でありながら、こ
んなことが分からないのか。
11 はっきり言っておく。わたしたち
は知っていることを語り、見たことを
証しているのに、あなたがたはわた
したちの証しを受け入れない。
12 わたしが地上のことを話しても信
じないとすれば、天上のことを話した
ところで、どうして信じるだろう。
13 天から降って来た者、すなわち人
の子のほかには、天に上った者はだれ
もいない。
14 そして、モーセが荒野で蛇を上
げたように、人の子も上げられねばな
らない。
15 それは、信じる者が皆、人の子に
よって永遠の命を得るためである。

In festo inuentionis Sancta Crucis (聖十字架発見の祝日) p.87

1 Phariseu no naca ni Nicodemus tote Judeu no ccucassa ari. 2 Yo fuquete, IESVS ni mayri mosare queru ua, "Von-mi D's yori yde tamo xixo nite maximasu to vaquimaye tatemaccuru nari. Sono yuye ua arauaxi tamo vō-quidocu ua tare nite mo are, sono mi ni Deus maximasazu *ua, cano becarazu." to mosare quereba, 3 IESVS "Macoto ni macoto ni ninguen ima fitotabi ataraxiqu vmarezumba, Deus no Miacō vo mi tatemaccuru coto aru becarazu." to notamayeba, 4 Nicodemus, "Voytaru fito va ycadeca futatabi vmaru bequizo? Moxi faua no taynay ni cayeri, futatabi vmaru bequi ya?" to mosare quereba, 5 IESVS notamauaqu, "Macoto ni yu nari, xonin Spirito Santo to mizzu yori futatabi vmarezumba, D's no von-cuni ni ytaru coto cano becarazu. 6 Cotnicu yori vmaruru mono ua cotnicu nari. Sp'u yori vmaruru mono va sp'u nari. 7 Araraxiqu vmaruru coto moppara nari to yycuru coto uo vodorocarū becarazu. 8 Sp'u va vōboximesu tocoro ni, von-mi no xej uo vccuxi tamayeba, mi-cotoba vo *quiqui to *yedomo, yzzuqu yori quitari, yzzucu ni cayeri tamo to yu coto uo xirazu. Sp'u yori vmaruru mono ua mina caqu no gōtocu

nari." to notamayeba, 9 Nicodemus, "Ycani xiteca, sono gotocu canaj tatemaccuru bequi zo?" to mosare quereba, 10 IESVS "Gofen ua Israel no naca nite xixo taru mi toxite, cono coto vo vaquimayerenu ya? 11 Vare xinjit ni yu, Xiru coto uo yy ydaxi, miru coto uo xôco ni taccu to yyedomo, nandachi vaga xôco vo macoto ni vquerarenu nari. 12 Ima yyarauaxi ceuru ccuchi no cotouari saye fides ni vque rarezaru ni, ten no coto vo yu ni uoyte, ycani xite ca fides ni vqueraru bequi ya? 13 Ten ye noboru coto ua ten yori cūdari ten ni ytaru virgen no co yori foca ni naxi. 14 Moises deserto ni uojte serpente vo ãguerare queru gotocu, virgem no co agueraru bequi coto moppara nari. 15 Core uo fides ni vquru tomogara ua vxezu xite vouari naqui ichimey uo togu bequi tame nari." to notamo nari. Amen.

2 D's=Deus; vō-quidocu=von-quidocu; *ua → ba; 5 D's=Deus; 6-8 sp'u=spiritu;

8 vōboximesu=vonboximesu; *quiqui → quiqu; *yedomo → yyedomo; gōtocu=gontocu; 13 cūdari=cundari;

14 ãguerare=anguerare;

この記事は、直前と同じ場所であるが、微妙に翻訳が異なっている。

2 在さずば：ローマ字表記は maximasazu ua/ uo と見えるが、ba の誤記と考える。

4章

5 ヘブライカの言葉にキカルと言え
るサマリヤと言いは、ジャコブ、ジョ
ゼフに譲られ給う領地の辺なる在所へ
ゼズス近づき給えば、

6 ジャコブの水あり、ゼズス行路に
草臥れ給い彼の井に立ち寄られ給いけ
るに、暮天に及ぶ、

7 サマリヤの女房一人水汲まんと歩
み来たれり。ゼズス、「水を飲ませよ」
と宣うなり。

8 さるほどに、御弟子達は御食事を
求めんとて件の所在へ赴き給う。

9 その時、サマリヤの女房、「御辺は
ジュデウなれば、如何にしてか、『我
に水を飲ませい』とは宣う」とぞ申し

5 それで、ヤコブがその子ヨセフに
与えた土地の近くにある、シカルとい
うサマリヤの町に来られた。

6 そこにはヤコブの井戸があった。
イエスは旅に疲れて、そのまま井戸の
そばに座っておられた。正午ごろのこ
とである。

7 サマリヤの女が水をくみに来た。
イエスは、「水を飲ませてください」
と言われた。

8 弟子たちは食べ物を買うために町
に行っていた。

9 すると、サマリヤの女は、「ユダヤ
人のあなたがサマリヤの女のわたしに、
どうして水を飲ませてほしいと頼むの

ければ、

10 ゼズス、「^{なんじ}汝ら、^{ごおん わきま}デウスの御恩を弁え、^{たれびとみず}また誰人水^のを飲ませよと^{こい}請ける音^{おと}を^し知らば^し必ず^{かなら}汝^{なんじの}飲むべき間、^{あいだ}活きたる^い水を^{みず}汝に^{なんじ}給わぶるべし」と^{のたま}宣えば、

11 ^{にようぼう}この女房、「^{おんあるじ}いかに、御主、^{みず}水をのぶき^{うつわもの}器物を持ち^も給わず。井底は^{たまた}深ければ、^{いづく}何処に^い活きたる^{みず}水を持ち^{もち}給うぞ、

12 ^{われ}ジャコブ我らに^{みず}この水を^あ宛て^{たまた}給わ^たる。されば、その身^み一族^{いちぞく}を先として^{さき}獣^{けだもの}以下^{いげ}に至るまで^{いた}この水^{みず}を飲ませぬ。^{おんみ}御身は^{こうじよう}ジャコブよりも^{いな}高上なりや否や」と^{もう}申しければ、

13 ゼズス、「^{みず}この水を^の飲める^{もの}者は^{かさ}重^{のどかわ}くて^{のどかわ}喉渴き、

14 ^{みづか}また^{あと}自らが^{みず}与うる^の水を^{もの}飲まん者は^{なが}永く^{のどかわ}喉渴くべからず、^{わん}我が^{あた}与ゆべき^{みず}水は、^{うち}そのもの^{しみず}の内に^{じゆみよう}清水となり、^{なが}寿命も^{おだ}永く^{のたま}穏やかなるべし」と^{のたま}宣えば、

15 ^か彼の^{にようぼう}女房、「^{おんあるじ}いかに、御主、^{みず}水を飲^{のどかわ}まんために、^{ところ}この所^きに来たらず、^{のどかわ}喉渴^{とど}きを^{とど}止めんがために^{みず}この水^{あた}を与え^{たま}給え」と^{もう}申しけるに、

16 ゼズス、「^{なんじ}汝が^{おっと}夫を^ぐ具して^き来たれ」と^{おお}仰せければ、

17 ^{にようぼう}女房、「^{おっと}夫^もを持たず^{そうろう}候」と^{もう}申す。その^{とき}時^よゼズス、「^よ善きかな、^よ善きかな、^{おっと}夫^いを持たず^いと言^いいけること。

18 ^{ゆえ}その^{まえ}故は、^{おっと}前に^{ごにん}夫を^も五人^{いえど}持つと雖^いも、^{いま}今の^{おっと}夫は^みその^{おっと}身の^{おっと}夫にあらず。

ですか」と言った。ユダヤ人はサマリヤ人とは交際しないからである。

10 イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」

11 女は言った。「主よ、あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。」

12 あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」

13 イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渴く。」

14 しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」

15 女は言った。「主よ、渴くことがないように、また、ここにくみに来なくともいいように、その水をください。」

16 イエスが、「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言われると、

しんじつ い のたま
 19 真実を言^いいける」と宣^{のたま}えば、
 19 かの女房^{にようぼう}、「我が眼見^{わ がんけん}のおよぶ如^{ごと}く、
 御^ご辺^{へん}はポロヘタにて在^{まし}すなり。

20 我^{われ}らが曩^{のう}祖^そはこの山^{やま}にて尊^{そんしゆ}主^{しゆ}を拝^{おが}
 み申^{もう}されけれども、御^ご辺^{へん}たち宣^{のたま}いける
 拝^{はい}所^{しよ}の本^{ほん}寺^じはゼルザレ^{おお}ンなりと仰^{おほ}せけ
 るよ」と申^{もう}しければ、

21 ゼズス、「いかに、女^{にょにん}人^{みづか}、自^{みづか}らをヒ
 イデス^うに受^{やま}くべし。この山^{やま}とゼルザレ
 ン^{おんが}においてもデウス・パアレ^{おんが}レを拝^{おんが}
 申^{もう}さざる時^じ刻^{こく}到^{とう}来^{らい}すべし。

22 汝^{なんじ}らは知^しらざることを礼^{らい}しけれど
 も、我^{われ}らは礼^{らい}することを知^しれり。ジユ
 デウより助^{すけ}くることあるべし。

23 また実^{じつ}に礼^{らい}するものデウス・パア
 デレをスピリト^{じつ}、実^{もつ}を以^{おが}て拝^{おが}み奉^{たてまつ}らん
 時^じ刻^{こく}到^{とう}来^{らい}すべし。これただ今^{いま}なり。そ
 の故^{ゆえ}はデウス・パアレ^{らい}かように礼^{らい}す
 る者^{もの}を望^{のぞ}み給^{たま}う。

24 それをいかにと^ゆ言うに、デウス、
 スピリトにて在^{ましま}せば、拝^{おが}み奉^{たてまつ}る者^{もの}はス
 ピロト^{じつ}実^{もつ}を以^{らい}て礼^{もう}し申^{かん}すこと肝^{かん}要^{によう}なり
 と宣^{のたま}えば、

25 かの女^{にょにん}人^{みづか}、「キリシトと申^{もう}す御^{おん}扶^{たす}け
 手^て出^いで給^{たま}わんことを存^{ぞう}じ候^{そうら}えば、来^き
 たり給^{たま}うべき時^{とき}、皆^{みな}頭^あわ^らるべし」と申^{もう}
 ければ、

26 ゼズス、「それこそ汝^{なんじ}と語^{かた}る自^{みづか}らな
 り」と宣^{のたま}う刻^きみ、

27 御^み弟^{でし}子^{まか}たち罷^{かえ}り帰^{にょにん}られ、女^{にょにん}人と

17 女は答^{こた}えて、「わたしには夫^{おとこ}はいま
 せん」と言^いった。イエスは言^いわれた。
 「『夫^{おとこ}はいません』とは、まさ^まにその
 とおりだ。

18 あなたには五人^{ごにん}の夫^{おとこ}がいたが、今
 連^つれ添^そっているのは夫^{おとこ}ではない。あな
 たは、ありのままを言^いったわけだ。」

19 女は言^いった。「主^{しゆ}よ、あなたは預^あ言^{げん}
 者^{しや}だとお見^み受けします。

20 わたしどもの先^{せん}祖^そはこの山^{やま}で礼^{らい}拝^{はい}
 しましたが、あなたがたは、礼^{らい}拝^{はい}すべ
 き場所^{ばしょ}はエルサレムにあると言^いって
 います。」

21 イエスは言^いわれた。「婦^め人^{にん}よ、わた
 しを信^{しん}じなさい。あなたがたが、この
 山^{やま}でもエルサレムでもない所^{ところ}で、父^{ちち}を
 礼^{らい}拝^{はい}する時^{とき}が来る。

22 あなたがたは知^しらないものを礼^{らい}拝^{はい}
 しているが、わたしたちは知^しっている
 ものを礼^{らい}拝^{はい}している。救^{すく}いはユダヤ人^い
 から来るからだ。

23 しかし、まことの礼^{らい}拝^{はい}をする者^{もの}た
 ちが、霊^{たま}と真^ま理^りをもつて父^{ちち}を礼^{らい}拝^{はい}する
 時^{とき}が来る。今^{いま}がその時^{とき}である。なぜな
 ら、父^{ちち}はこのように礼^{らい}拝^{はい}する者^{もの}を求め
 ておられるからだ。

24 神^{かみ}は霊^{たま}である。だから、神^{かみ}を礼^{らい}拝^{はい}
 する者^{もの}は、霊^{たま}と真^ま理^りをもつて礼^{らい}拝^{はい}しな
 ければならぬ。」

25 女^めが言^いった。「わたしは、キリスト

おんことば か たち ぎょうてん
御言葉を交^わし給^{たま}うことを仰^{おほ}天^{てん}せらる。
されども、一人としてその故^{ゆえ}をいかに
と問^とわるる人もなし。

28 さるほどに、彼の女房水^{にようぼうみず}の器^{うつわ}をそ
の所に置き、その身は件の在所^{ところ}へ帰^{かえ}り、
諸^{しよ}人に披露^{ひろう}しければ、

29 「我^{われ}修^{しゆう}しけることを願^{ねが}ひ給^{たま}う人を見
んために来^きたらた^{たま}え給^{たま}え。キリシトにて
や御座^{おわ}すらん」と言^いいければ、

30 万^{ばん}民^{みん}、件^{くだん}の在所^{ざいしょ}を出^いでて、ゼズス
の在^{まし}す所^{ところ}に来^きたれり。

31 その間に、御弟子^ま達^みは「いかに、
師匠^{ししやう}、食^{しょく}し給^{たま}えかし」と申^{もう}されければ、

32 ゼズス、「我^{われ}別^{べつ}の食物^{しょくぶつ}を持^もちけれど
も、汝^{なんだち}達^{だち}、さら^しに知ら^{のたま}ざるなり」と宣^{のたま}
えば、

33 御弟子^み達^{でしたち}互^いひに訝^{いぶか}りけるは、「誰^{たれ}人^{びと}
か御食^{おんしょくじ}事を参^{まい}らせけるや」と申^{もう}されけ
れば、

34 ゼズス宣^{のたま}いけるは、「我^わが食物^{しょくぶつ}は我^{われ}
を遣^{つか}わし給^{たま}う尊^{そんしゆ}主^{しゆ}の御言^{おんことば}葉^はを成^{じやうじゆ}就^{じゆ}せし
めんため、御望^{おんのぞみ}を達^{たつ}すること我^わが食物^{しょくぶつ}
なり。

35 汝^{なんじ}らに言^いわずや、『耕^{こうさく}作^{さく}の時^じ分^{ぶん}まで
は未^{いま}だ四^{しか}ヶ^{つき}月^{げつ}あり』と。汝^{なんじ}らに言^いうな
り、眼^{がん}目^{もく}を見^み上^あげて田^{でん}畠^{ばく}見^みよ、刈^かるべ
きために白^{しろ}くなりけることを。

36 刈^かりける者^{もの}は、その賃^{ちん}を受け取^うる
べし。その上^{うえ}に量^{はか}りき寿^{じゆ}命^{みよ}に実^みを集^{あつ}
むるなり。これ即^{すなわ}ち、蒔^まきける者^{もの}と刈^か

と呼ばれるメシアが来られることは知っ
ています。その方が来られるとき、わ
たしたちに一切のことを知らせてくだ
さいます。』

26 イエスは言われた。「それは、あな
たと話をしているこのわたしである。」

27 ちょうどそのとき、弟子たちが帰っ
て来て、イエスが女の人と話をしてお
られるのに驚いた。しかし、「何か御
用ですか」とか、「何をこの人と話し
ておられるのですか」と言う者はいな
かった。

28 女は、水がめをそこに置いたまま
町に行き、人々に言った。

29 「さあ、見に来てください。わたし
が行ったことをすべて、言い当てた人
がいます。もしかしたら、この方がメ
シアかもしれません。」

30 人々は町を出て、イエスのもとへ
やって来た。

31 その間に、弟子たちが「ラビ、食
事をどうぞ」と勧めると、

32 イエスは、「わたしにはあなたがた
の知らない食べ物がある」と言われた。

33 弟子たちは、「だれかが食べ物を持っ
て来たのだろうか」と互いに言った。

34 イエスは言われた。「わたしの食
物とは、わたしをお遣わしになった方
の御心を行い、その業を成し遂げるこ
とである。

たる^{もの}者^{よろこ}を喜^{たま}ばせ給^ぎわんと^のの儀^{なり}なり。

37 ここに^{しんじつ}真^{ことば}実^{あり}の言^{あり}葉^{あり}あり。

38 その^{ゆえ}故^{べつじん}は別^{ろうえき}人は^{なり}勞^{なり}役^{なり}すれども、そ^{こうさく}の^{なんだち}耕^い作^{まじ}に^の汝^の達^のも入^のり交^のわ^のる^のと^の宣^のえ^のり。

39 されば、^に件^のの^に在^の所^のの^に数^の輩^のの^にサ^のマ^のリ^のタ^のノ^のか^のの^に女^の房^のの^に、「^わが^の修^のし^のけ^のる^のほ^のど^のの^にこ^のと^のを^の顕^のし^の給^のう^の」^と申^のさ^のれ^のけ^のる^の言^の葉^のに^よっ^て、^ゼズ^スを^ヒイ^デス^に受^け奉^るなり。

40 ゼズス、^つサ^のマ^のリ^のヤ^のへ^の着^のか^のせ^の給^のえ^ば、^{いましばら}サ^のマ^のリ^のタ^のノ^の今^の暫^のく^とて^の抑^の留^の申^のせ^ば、^{ふつ}二^の日^の御^の留^のあ^つて、

41 尊^の言^のを^の述^のべ^の給^のえ^ば、^な尚^の数^の多^のの^{ひと}人^のゼ^のズ^スを^ヒイ^デス^に受^け奉^るなり。

42 その^の後^の、^の諸^の人^の件^のの^に女^の房^のに^に申^のし^のけ^のる^のは、^わ「^が前^のの^に言^の葉^のを^の実^のに^に受^のく^るに^およ^ばず^{。直}に^に御^の言^の葉^のを^の聴^の聞^のせ^しめ、^せ世^の界^のに^に真^のの^に御^の扶^のけ^の手^のは^のこ^のれ^にて^に渡^のら^せ給^のう[」]と^と存^のず^る由^のを^を言^のい^ける^{なり}。

35 あなたがたは、『刈り入れまでまだ四か月もある』と言っているではないか。わたしは言うておく。目を上げて畑を見るがよい。色づいて刈り入れを待っている。既に、

36 刈り入れる人は報酬を受け、永遠の命に至る実を集めている。こうして、種を蒔く人も刈る人も、共に喜ぶのである。

37 そこで、『一人が種を蒔き、別の人が刈り入れる』ということわざのとおりになる。

38 あなたがたが自分では労苦しなかったものを刈り入れるために、わたしはあなたがたを遣わした。他の人々が労苦し、あなたがたはその労苦の実りにあずかっている。」

39 さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。

40 そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるようにと頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。

41 そして、更に多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。

42 彼らは女に言った。「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で

聞いて、この方が本当に世の救い主である
と分かったからです。」

Quarta sexta feria (第四の金曜日) p.54v

5 Hebrayca no cotoba ni Cicar to iyeru Samaria to yu ua, Jacob Ioseph ni yuzurare tamo reochi no fotori naru zayxo ye IESVS chic̃azuqui tamayeba, 6 Iacob no mizu ari. IESVS coro ni cutabire tamay, cano y ni tachi-yorare tamay queru ni, bofē ni voyode, 7 Samaria no nhobo ichiñ mizzu cumanto ayumi quitarery. IESVS, "Mizu uo nomaxeyo." to notamo nari. 8 Sarufodo ni midexi-tachi ua, von-xocuij uo motomē tote, cudan no zayxo ye vomomuqui tamo. 9 Sono toqui Samaria no nhobo, "Gofen ua Iudeo nareba, ycani xite ca, "Vare ni mizzu uo nomaxey." toua notamo." tozo moxi quereba, 10 IESVS, "*Najjira Deus no go-von uo vaqimaye, mata tare-bito mizzu uo nomaxeyo to coj queru uoto uo xiraba, canarazu nāji nomubequi ayda, iquitaru mizzu uo *najji ni tamauaburu bexi. to notamayeba, 11 Cono nhobo, "Ycani, von-Aruji, mizzu uo nobuqui vccuamono vo mochi tamauazu. Ytei ua fucaquereba, yzucu ny iquitaru mizu uo mochi tamozo? 12 Iacob varera ni cono mizu vo ate tamauaru. Sareba sono mi ychizocu uo saqui to xite, quedamono igue ni itaru made, cono mizu uo nomaxenu. Von-mi ua Jacob yorimo cōjō nariya? ynaya?" to moxi quereba, 13 IESVS "Cono mizu uo nomeru mono ua, cassanete nodo cauacui, 14 mata mizucara ga aturu mizzu uo noman mono ua nagacu nodo cauacu becarazu. Vāga atayu bequi mizu ua, sono mono no vchi ni ximizzu to nari, iumeo mo nagacu vodayaca naru bexi." to notamayeba, 15 cano nhobo, "Ycani, vo-Aruji, mizzu uo noman tame ni cono tocoro ni quitarazu, nodo cauacui uo *todomega tame ni cono mizzu uo ataye tamaye." to moxi queru ni, 16 IESVS, "Nāji ga uotto uo guxite quitare." to voxē quereba, 17 nhobo, "Votto uo motazu soro." to mosu. Sono toqui IESVS, "Yoqui cana! Yoqui cana! Votto uo motazu to iy queru coto. 18 Sono yuye ua maye ni votto vo gonin moccu to iyedomo, ima no votto ua sono mi no votto ni arazu. Xinjit uo iy queru." to notamayeba, 19 cano nhōbo, "Uaga guanquen no voyobu gotocu, gofen ua profeta nite maximasu nari. 20 Varera ga *nōsō ua cono yama nite sonxu uo vogami mosare queredomo, gofen tachi notamay queru faixo no fonji ua Ierusalē nari to voxē queru yo." to moxi quereba, 21 IESVS, "Ycani, nhonin, mizucara vo fides ni vqu bexi. Cono yama to Ierusalem ni uoyte mo D's Pe. vo vōgami mosazaru jicocu toray subexi. 22 *Najjira ua xirazaru coto uo raixi queredomo, varera ua ray suru coto uo xireri. Iudeo yori tasucuru coto aru bexi. 23 Mata jit ni ray suru mono D's Pe. uo spri., jit uo motte vogami tatemaccuran jicocu toray subexi. Core tadaima nari. Sono yuye ua D's Pe. cayo ni raisuru mono uo nosomi tamo. 24 Sore uo ycani to yu ni, D's, Spri nite maximaxeba, vogami tatemaccuru mono ua Spri. jit uo motte rayxi mosu coto canho nari to notamayeba, 25 Cano nhoñ, "Christo to mosu vō-tasquete ide tamauan *toto uo zoji sorayeba, quitari tamo bequi toqui, mina arauaru bexi." to moxi quereba, 26 IESVS, "Sore cosso *najji to cataru mizzucara nari." to notamo quizami, 27 midexi tachi macari cayerare nhonin to vō-cotoba uo cauaxi tamo coto uo guioten xeraru. Saredomo *ychin toxite, sono yuye uo ycani to touaruru fito mo naxi. 28 Sarufodo ni cano nhobo mizzu no vccuamono uo sono tocoro ni voqui, sono mi ua cudā no

zaixo ye cayeri xoñi ni firoxi quereba, 29 "Vare xu xiqueru coto uo arauaxi tamo fito uo min tame ni quitarare tamaye. Christo nite ya uovasuran." to iy quereba, 30 banmin cudan no zayxo uo idete, IESVS no maximasu tocoro ni quitareri. 31 Sono ma ni mi-dexi-tachi ua, "Ycani, xixo, xocuxi tamaye caxi." to mosare quereba, 32 IESVS, "Uare bet no xocubut uo mochi queredomo, nādachi sarani xirazaru nari." to notamayeba, 33 mi-dexi-tachi tangay ni ybucari queru ua, "Tarebito ca vo-xocuji uo mayraxe queru ya?" to mosare quereba, 34 IESVS notamay queru ua, "Vaga xocūbut ua vare uo ccucauaxi tamo sonxu no vō-cotoba uo joju xeximē tame von nosomi uo tassuru coto vaga xocūbut nari. 35 Nājjira ni yuazuya, 'Cosacu no jibun made ua, ymada xicaccuqí ari.' to *nājjira ni yu nari. Ganmocu uo miaguete, dēbacu miyo. caru bequi tame ni, xirocu nari queru coto uo. 36 Cari queru mono ua, sono chin uo vqetoru bexi. Sono vye ni facariqui jumeo ni mi uo accumuru nari. Core sunauachi maqui queru mono to cari taru mono to uo yorocobaxe tamauan tono gui nari. 37 Coco ni xinjit no cotoba ari. 38 Sono yuye ua betjin ua royequi suredomo, sono cosacu ni nādachi mo yri majiuaru." to notamayeri. 39 Sareba cudan no zaixo no sufay no Samaritano cano nhobo no "Uaga xuxi queru fodo no coto uo arauaxi tamo." to mosare queru cotoba ni yotte, IESVS uo fides ni vque tatemaccuru nari. 40 IESVS Samaria ye ccucaxe tamayeba, Samaritano yma xibaracu tote yocuriu moxeba, fuccuca go-toriu atte, 41 songō uo nobe tamayeba, nauo amata no fito IESUS no fides ni vque tatemaccuru nari. 42 Sono nochi xoñi cudan no nhobo ni moxi queru ua, "Vaga jen no cotoba uo jit ni vquru ni uoyobazu. Jiqui ni mi-cotoba uo chomon xexime, xecay ni macoto no von tasuquete ua core nite uataraxe tamo." to zozuru yoxi uo iy queru nari.

5 chicāzuqui=chicazzuqui; 6 botē=boten; 7 ichinī=ichinin; 8 motomē=motomen;

10 *nājjira → nanjjira; nāji=nazji; *nāji → nanjji; 14 vāga=vanga; 15 *todomega todomenga; 16 nājji=nājjji;

20 *nōsō → nōso; Ierusalē=Ierusalem; 21-23 D's Pe.=Deus Padre; 21 vōgami=vongami; 23-24 spri.=spirito;

25 nhoñ=nhonin; vō-tasquete=von-tasquete; *toto → coto; 26 *nāji → nanjji; 27 vō-cotoba=von-cotoba; *ychin → ychinin;

28 cudā=cudan; xoñi=xonin; 32 nādachi=nandachi; 34 xocūbut=xocunbut;

35 nājjira=nājjira; *nājjira → nanjjira; dēbacu=denbacu; 38 nādachi=nandachi; 41 songō=songon; 42 xoñi=xonin;

6 暮天：「日没時、すなわち、日暮れ時分」（『日葡』）。

7 女房：「女」（『日葡』）。

9 御辺：「Qixo（貴所）に同じ。あなた。」（『日葡』）。

10 御恩：『日葡』で「厚恵」を参照とあり、「厚恵」に「大きな恩恵」とある。

音：意味不明。応答か。

11 のぶく：意味不明。「飲むべき」の誤記か？

12 宛て：「割り当てる」（『日葡』）。

高上：「高尚な、あるいは、すぐれたこと」（『日葡』）。

16 具して：「一緒に連れて行く」（『日葡』）。

19 眼見：「眼で見ること」（『日葡』）。

20 曩祖：「先祖、祖先」（『新潮』）。

尊主：「聖なる主。イグレジャ（教会）の書物の中で、デウス（神）について言う以外には用い

られない。(『日葡』)。

拝所：「ある死者のために建てられた礼拝所、または、堂で、中にその人の名前を書いた板(位牌)などを納めてある所」(『日葡』)。とあるが、ここではそのまま「礼拝する場所」と考えた方がよい。

本寺：「中心の、あるいは、主たるイグレジア(教会)」(『日葡』)。ここでは、ユダヤ教の『神殿』。

2 2 礼し：「崇め敬う、または、敬礼する」(『日葡』)。

2 3 実：「真」(『日葡』)。

2 4 肝要：「必要で大切なこと」(『日葡』)。

2 5 扶け手：「救い主、メシア」のこと。

2 6 刻み：おり、際、場合(『新潮』)。

3 2 食物：『日葡』では「ショクモツ」はない。

3 5 眼目：「眼」(『日葡』)。

田島：「田と畑と」(『日葡』)。『日葡』には「デンバタ」はない。

3 6 賃：「賃銭、雇い賃など」(『日葡』)。

量りき寿命：意味不明。

3 8 労役：「身体を使って役務に服すること。力仕事。骨を折って働く仕事」(『新潮』)。

4 2 直に：「面と向かって」(『日葡』)。

聴聞：「聞くこと」(『日葡』)。

46 ある侍カハルナウ^{さぶらい}と言うところ^いに
病^{やまい}を受けたる息子^うを持ちて、^{むすこ}も

47 ゼズス、^{おんい}ジュデアよりガリレアへ^き御出^{まい}でと聞いて、^む参り向^むかい、「死^しす
るにおよびける我が子^わを治^こし給^じわんた
めに御幸^{ごこう}あれかし」と頼^{たの}み申^{もう}されけれ
ば、

48 ゼズス、「御^ご辺^{へん}、奇^き特^{とく}を見^みられざれ
ば、ヒイデスに受^うけられまじき」と宣^{のたま}
えば、

49 侍^{さぶらい}重^{かさ}ねて「いかに、ドミネ、我^わが
子^こ死^しせざる内^{うち}に御幸^{ごこう}あれかし」と申^{もう}
されければ、

50 ゼズス、「その息^{むす}子^こ快^こ気^きなり。帰^{かえ}
れよ」と宣^{のたま}えば、彼^かの人^{ひと}御^{おん}言^{こと}葉^ばをヒイ

46 イエスは、再びガリラヤのカナに
行かれた。そこは、前にイエスが水を
ぶどう酒に変えられた所である。さて、
カファルナウムに王の役人がいて、そ
の息子が病気であった。

47 この人は、イエスがユダヤからガ
リラヤに来られたと聞き、イエスのも
とに行き、カファルナウムまで下って
来て息子をいやしてくださるように
頼んだ。息子が死にかかっていたから
である。

48 イエスは役人に、「あなたがたは、
しるしや不思議な業を見なければ、決
して信じない」と言われた。

49 役人は、「主よ、子供が死なないう

デスに^う受けて^{かえ}帰らるる

51 路次^{ろし}に家人^{けにん}ども馳^はせ向^むかい、「御子^{おんこ}、快気^{かいき}を得^{えた}給^もう」と言^ゆいけるに、

52 「何時^{なんどき}より」と問^とわれければ、「昨日^{きのう}酉^{とり}の刻^{こく}ばかりより熱^ね気^{つき}去^さりぬ」と申^{もう}しけるに、

53 ゼズス宣^{のたま}いたる時^じ分^{ぶん}と思^{おも}い合^あわせ、その身^みを先^{さき}として、家内^{けない}の者^{もの}どもゼズスをヒイデスに^う受^たて^{まつ}奉^{まつ}るなり。

ちに、おいでください」と言った。

50 イエスは言われた。「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」その人は、イエスの言われた言葉を信じて帰って行った。

51 ところが、下って行く途中、僕たちが迎えに来て、その子が生きていることを告げた。

52 そこで、息子の病気が良くなった時刻を尋ねると、僕たちは、「きのうの午後一時に熱が下がりました」と言った。

53 それは、イエスが「あなたの息子は生きる」と言われたのと同じ時刻であることを、この父親は知った。そして、彼もその家族もこぞって信じた。

Dominica xx post Pentecost. (聖霊御降臨後第二十の主日) p.42

46 Aru saburaj Cafarnau to yu tocoro ni yamay vo vquetaru musco vo mochte, 47 IESVS Iudea yori Galilea ye von-ide to quiyte, mayri mucay, "Xisuru ni voyobi queru vaga co uo jjixi tamauan tame ni, goco are caxi." to tanomi mosare quereba, 48 IESVS, "Gofen quidocu vo mirare zareba, fides ni vquerare majiqui." to notamayeba, 49 saburay cassanete, "Ycani, Domine, vaga co xixezaru vchi ni gocô are caxi." to mosare quereba, 50 IESVS, "Sono musuco quaiqi nari. Cayerare yo." to notamayeba, cano fito von-cotoba vo fides ni vquete, cayeraruru 51 roxi ni quenin domo faxe mucaj, "Von co quaiqui vo yetamo." to yuy queru ni, 52 "Nadoqui yori?" to touare quereba, "Quino tori no coqu bacari yori, netqui sarinu." to moxi queru ni, 53 IESVS notamaytaru jibum to vomoy auaxe, sono mi vo saqi to xite, quenay no mono-domo IESVS uo fides ni vque tatemaccuru nari.

46 息子：ローマ字表記では musco, mosuco (50) の異なった表記がある。

50 快気：「元の健康を回復すること」(『日葡』)。ローマ字表記は quaiqi (クァイキ)。

51 路次：「道」(『日葡』)。

家人：「親戚関係とか主従関係とかのつながりなどによって、ある家、または、一族に所属する家来、または、人」(『日葡』)。

52 酉の刻：「午後の六時、または、七時」(『日葡』)。

5.3 時分：「時」(『日葡』)。

家内：「家族、または、家中の人々」(『日葡』)。

5章

1 ジュデウの祝の日、ゼズス、ゼルザレンへ上り給うなり。

2 この在所にエブライカの言葉にベザイダと名付けし羊の淵あり、この淵の入り口五つあり。

3 その水辺の門に腰抜け五体不具なる者、その他数輩の病人と、水の動揺を待ち居けり。

4 その故は御主のアンジョ定まれる時節あって、件の淵へ臨幸あって、水を動かせ給うなり。されば、かの水どうようおのちさいしょふちみとう動揺し終わって後、最初に淵へ身を投ずれば、如何なる病者も厚恵を得けり。

5 さるほどに、その所に三十八年の間大病を愁うる者あり。

6 ゼズス、彼の病人伏せたるを御覧あるに、久しく逗留せしことを知ろし召して、「その病、験氣を得たく存ずるや否や」と宣えば、

7 病者答えて申さく、「いかに、御主、水を動かんとき、我を淵へ入るべき人を持たず候。しかれば、某参り候とき、べちじんわれさきさもう別人我が先へ下がり申す」と奏しければ、

1 その後、ユダヤ人の祭りがあったので、イエスはエルサレムに上られた。

2 エルサレムには羊の門の傍らに、ヘブライ語で「ベトザタ」と呼ばれる池があり、そこには五つの回廊があった。

3 この回廊には、病気の人、目の見えない人、足の不自由な人、体の麻痺した人などが、大勢横たわっていた。

〔†彼らは、水が動くのを待っていた。〕

4 それは、主の使いがときどき池に降りて来て、水が動くことがあり、水が動いたとき、真っ先に水に入る者は、どんな病気にかかっているか、いやされたからである。〕

5 さて、そこに三十八年も病気で苦しんでいる人がいた。

6 イエスは、その人が横たわっているのを見、また、もう長い間病気であるのを知って、「良くなりたいか」と言われた。

7 病人は答えた。「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、

8 ゼズス、「^お ^あ ^{とこ} ^{かた} ^て 起き上がり床を担^かげて
^{ぎょうぶ} 行歩せよ」と

9 宣^の ^{おん} ^{ことば} 御言葉の下^{した}より快^{かい} ^{いき} ^え 気を得^えて、
すなわち床^{とこ}を肩^{かた}に掛^かけて容^た ^{やす} ^{ぎょうぶ} 易^ぎく行歩^{ぎょうぶ}
をなしてけり。されば、その日はサバド
なれば、

10 「我^わ ^ご ^ぜ 御前^{とこ}、床^{とこ}を担^{かた}ぐる^{よろ}こと宜^{よろ}しから
ぬ^{もう}ことぞ」と申^{もう}しければ、

11 病^{びょう} ^{じゃ} ^{こた} 者^い答^{いわ}えて曰^{われ}く、「我^{われ}に験^{げん} ^き ^え 氣^えを得^えさせ
給^{たま}う御^{おん} ^{かた} 方^{とこ}、『床^{とこ}を担^{かた}げて歩^{あり} ^{のたま} け』と宣^{のたま}
い^{たま}つる」と言^いいければ、

12 ジュデウ等^ら、「誰^{たれ} ^{びと} ^{とこ} ^{かた} 人^{ひと}か床^{とこ}を担^{かた}げよと
は言^いいけるぞ」と咎^{とが}めければ、

13 病^{びょう} ^{じゃ} 者^{じん}その人^{たい} ^{ごう} 体^{ごう}を存^{ぞう}ぜざれば、ゼズ
ス^{しよ} ^{にん} 諸^い ^{ところ} 人^{すこ}の居^ひける所^{しり}より少^{たま} ^{たま} し引^ひき退^{しり}き給^{たま}
いて後^{のち}、

14 テンポロにおいて、件^{くだん} ^{びょう} ^{じゃ} の病^{びょう} ^{じゃ} 者^{じゃ}
御^ご ^{らん} 覧^{らん} ^{たま} じつ^{おお} ^{たま} けさせ給^{おお}いて、仰^{おほ} ^{おほ} せけるは、
「病^や ^{まい} ^す 既に^{げん} ^き ^う 験^{げん} ^き ^う を得^えれば、汝^{なん} ^じ ^う ^え が上^わ ^る に悪^{わる}
き^{しゆ} ^{つらい} や、出来^あ ^く ^ぎ せん悪^あ ^く ^ぎ 行^{しゆ} ^う を修^{しゆ} ^う ずべからず」と
宣^{のたま} ^{たま} えば、

15 病^{びょう} ^{じゃ} 者^{じゃ} 即^{すなは} ^ち 退^{たい} ^{さん} 散^{さん} して^{つん} ジュデウ^{つん} に告^{つん}
げ^{つん} て曰^い ^わ く、「ゼズス、我^{われ} ^{げん} ^き ^え に験^{げん} ^き ^え 氣^えを得^えさせ
給^{たま} ^{たま} う」と証^{しょう} ^{げん} 言^{げん} しけり。

ほかの人が先に降りて行くのです。」

8 イエスは言われた。「起き上がりな
さい。床を担いで歩きなさい。」

9 すると、その人はすぐに良くなっ
て、床を担いで歩きだした。

その日は安息日であった。

10 そこで、ユダヤ人たちは病気をい
やしていただいた人に言った。「今日
は安息日だ。だから床を担ぐことは、
律法で許されていない。」

11 しかし、その人は、「わたしをいや
して下さった方が、『床を担いで歩
きなさい』と言われたのです」と答え
た。

12 彼らは、「お前に『床を担いで歩
きなさい』と言ったのはだれだ」と尋ね
た。

13 しかし、病気をいやしていただ
いた人は、それがだれであるか知らなかつ
た。イエスは、群衆がそこにいる間に、
立ち去られたからである。

14 その後、イエスは、神殿の境内で
この人に出会って言われた。「あなた
は良くなったのだ。もう、罪を犯して
はいけない。さもないと、もっと悪い
ことが起こるかもしれない。」

15 この人は立ち去って、自分をいや
したのはイエスだと、ユダヤ人たちに
知らせた。

2a Sexta feria (第二の金曜日) p.52v

1 Iudeo no uyay no fi, IESVS Jerusalem ye nobori tamo nari. 2 Cono zaixo ni Hebraica no cotoba ni Bezayda to nazzuquexi ficcujni no fuchi ari, cono fuchi no yricuchi 5u. ari. 3 Sono suifen no mon ni coxinuque gotay-fugu naru mono, sono foca sufai no beōnin to mizzu no dōyo uo machite y queri. 4 Sono yuye ua von-Aruji no anjo sadamareru jixet atte, cudan no fuchi ye rincō atte, mizzu uo vgoca xe (saxerareta) tamo nari. Sareba cano mizzu dōyoxi *uouate nochi, sayxo ni fuchi ye mi uo tozureba, ycanaru beoja mo coque uo ye queri. 5 Sarufodo ni, sono tocoro ni sanju-fachi nen no ayda taybeo uo vriuoru mono ari. 6 IESVS cano *beoni fuxetaru uo goran aru ni fissaxicu toriu xexi coto uo xiroximexite, "Sono yamay guenqui uo yetaqu zonzuruya yna ya?" to notamayeba, 7 beoja cotayete mosaqu, "Ycani, vō-Aruji, mizzu no vgocan toqui, uare uo fuchi ye yru bequi fito uo motazu soro. Xicareba soregaxi mayri soro toqui, betchi-jin uaga saqui ye sagari mosu." to soxi-quereba, 8 IESVS "Voqui agari, toco uo *catagete, guiōbu xeo." to 9 notamo von-cotoba no xita yori quayqui uo yete, sunauachi toco uo cata ni caquete, tayasuqu guiōbu uo naxite qeri. Sareba sono fi ua sabado nareba, 10 "Vagoje, toco uo cataguru coto yocarano coto zo." to moxi quereba, 11 beoja cotayete yuacu, "Vare ni guenqui uo yesaxe tamo vō-cata, "Toco uo cataguete, arique." to notamay ccuru." to iy quereba, 12 Iudeu-ra, "Tarebito ca toco uo catagueyo toua iy queruzo?" to togame quereba, 13 beoja sono jintay uo zozezareba, IESVS xonin no yqueru tocoro yori sucoxi fiqi xirizoqui tamayte nochi, 14 templo ni uoyte cudan no beoja uo goranji ccuquesaxe tamayte, voxequeru ua, "Yamay sude ni *guequi uo vreba, *najji ga vye ni varuqui ya xutray xen acuguio uo xusu becarazu." to notamayeba, 15 beoja sunauachi taysanxite, Judeu ny ccūguete yuacu, "IESVS vare ni guenqui uo yesaxe tamo." to xoguen xi queri.

4 *uouate → uouatte; 6 *beoni → beonin; 7 vō-aruji=von-aruji; 8 *catagete → cataguete; 11 vō-cata=von-cata;

14 *guequi → guenqui; *najji → nanjji; 15 ccūguete=ccunguete;

roquen/ xoguen?;

2 在所：「ある人が済んでいる所、あるいは、今居る所」(『日葡』)。

エブライカ： 葡 hebraica。「ヘブライ語」。

ベザイダ： 葡 Bezata、伯 Bethzatha。

淵：「川の深い淀み」(『日葡』)。原文では「池」。

3 腰抜け：「腰の立たない者、すなわち足で立っていることのできない者」(『日葡』)。差別語。

不具：「完全にそなわらないこと」(『新潮』)、「五体不具なる者」は「身体の不自由な者」。差別語。

動揺：「動くこと」(『日葡』)。

4 臨幸：「国王がある所へ行くこと」(『日葡』)。

厚恵：ローマ字表記は coqej と見えるがはっきりしない。行間に quaiqi とあり、「快気」とも考えられる。「キ研」では「こけ」としているが、それでは意味不明である。

6 逗留：「とどまる、あるいは、滞在する」(『日葡』)。

彼の： cono (「この」とも読める)。

験気：「病気が治ること、または、快方に向かうこと」(『日葡』)。

7 奏し：「国王へ申し上げる」（『日葡』）。

8 担げ：「肩にかついで持つ、または、かついで運ぶ」（『日葡』）。

行歩：「歩くこと」（『日葡』）。

9 サバド： 葡 sabado、伯 sabbado。「安息日」。ヘブライ語「シャバット」に起源する。元来、週の第7日、すなわち土曜日をそう呼ぶ。キリスト教徒は「日曜日」のことを「安息日」と呼ぶことがあるが、「サバド」とは呼ばない。

1 3 人体：「尊敬すべき人、あるいは、貴人」（『日葡』）。

1 4 テンポロ： 葡 templo。「神殿」。

出来：「何事かが到来したり、発生したりすること」（『日葡』）。

修す：「徳行、学問などをおさめて習練をつむ」（『日葡』）。

1 5 証言：「キ研」は、roquenと取り、「露見」としているが、内容的にも xoguenがふさわしい。

25 ゼズス、ヂシポロとジユデウ等に
のたま 宣わく、^{まこと}「真に汝達に言うなり。デウ
^{こえ}ス・ヒイリヨの声を死人聞くべき時節
^{とうらい}到来する。聞き保つ輩は生き永らゆべし。

26-27 ^{おんおやおんみ}御親御身に^{じゆみょう}寿命^もを持ち^{たも}給うごとく、
^{おんこ}御子の^{おんみ}御身に^{じゆみょう}寿命あるようにと、
またビルゼンの^こ子なる^{ただ}によって、^た糺す
^{いしゆ}べき^{あた}意趣^{たま}を御与え給わるなり。

28 この^ぎ義^{ぎょうてん}を仰天せらるべからず。その
^{かん}ゆえは、^{おさ}棺に収まりたるほどの^{しにん}死人、
デウス・ヒイリヨの^{こえ}声を^き聞く^{じせつ}べき時節
^{とうらい}到来しぬれば、

29 ^{ぜん}善^{しゅう}を修しける^{ともがら}輩は^{じゆみょう}寿命^ゆに行くべけれど、
^{あく}悪^{しゅう}を修しける^{もの}者は^{のたも}ジュイゾの
ために^い生き返る^{かえ}べし」と^{のたも}宣うなり。

25 はっきり言うておく。死んだ者が
神の子の声を聞く時が来る。今やその
時である。その声を聞いた者は生きる。

26 父は、御自身の内に命を持ってお
られるように、子にも自分の内に命を
持つようにしてくださったからである。

27 また、裁きを行う権能を子にお与
えになった。子は人の子だからである。

28 驚いてはならない。時が来ると、
墓の中にいる者は皆、人の子の声を聞き、

29 善を行った者は復活して命を受け
るために、悪を行った者は復活して裁
きを受けるために出て来るのだ。

In commemoratione omnium defunctorum (諸聖人の大の祝日) p.94v

25 IESVS discipolo to Judeu-ra ni notamauacu. "Macoto ni nandachi ni yu nari. Deus Filho no coye uo xinin quiqu bequi jixet toray suru. Quiqui tamoccu tomogara ua yqui-nāgarayu bexi. 26-27 Von-voya von-mi ni jumeō vo mochi tamo gotocu, von-co no von-mi ni jumeō aru yo nito, mata virgen no co naru

ni yotte, tadasu bequy yxu uo ataye tamauaru nari. 28 Cono gui vo guioten xeraru becarazu. Sono yuye ua quã ni vosamaritaru fodo no xinín D's Fo. no coye uo quiqu bequi jixet (toqi) toray xinureba, 29 jẽ uo xuxi (ytaxi) queru tomogara ua jumeõ ni yuqu bequeredomo, acu uo xuxi queru mono ua juizo no tame ni yqui cayeru bexi." to notamo nari.

25 yqui-nãgarayu=yqui-nangarayu; 28 quã=quan; D's Fo=Deus Filho; 29 jẽ=jen;

26-27 寿命：「生命」(『日葡』)。

糺す：「取り調べて、審理する」(『日葡』)。

意趣：「見解、または、意見」(『日葡』)。

29 ジュイゾ：伯juizo。「裁き」。

6 章

1 ゼズス、ガリレアの向かいなるテベリヤデスと言う入り海を渡り給うに、

2 病人の上に顛わし給う御奇特を見るによって、諸人御跡より参り集うなり。

3 されば、ゼズスある高山ヂシポロともに陣し給えば、

4 ジュデヨのパスコアの日、程近くなるなり。

5 ゼズス御両眼を見上げ給い、参り集いたる人を御覽あつて、ヒリペに、「この者共に与うべき食物をばいづ方にて求むべきぞ」と言うなり。

6 以後なし給うべきことをば予て知ろし召すと雖も、ヒリペ心を御覽ぜられんために、かくの如く問い給うに、

7 ヒリペ、「たとい少しずつ与うると言うとも、金銭二百文程にては調い難き」と申されければ、

1 その後、イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸に渡られた。

2 大勢の群衆が後を追った。イエスが病人たちになさったしるしを見たからである。

3 イエスは山に登り、弟子たちと一緒にそこにお座りになった。

4 ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた。

5 イエスは目を上げ、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、フィリポに、「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と言われたが、

6 こう言ったのはフィリポを試みるためであつて、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである。

7 フィリポは、「めいめいが少しずつ

8 シマン・ペドロの^{しゃけい}舎兄^{もう}アンドレ申されけるは、

9 「ここに^{おおばく}大麦の餅^{もちいつ}五つと^{うおに}魚二^{こんも}喉持ちける童^{わらんべ}あり。然れども、^{しか}数多^{あまた}の人数^{じんじゆ}なれば、何^{なに}とあるべきぞ」と申されけるなり。

10 その所^{ところ}に^{ひろ}広き芝原^{しばわら}あり。ゼズス、^{ちようじゆう}「聴衆^{もの}の者どもを^{なお}直すべし」と^{のたま}宣えば、^{おんことば}御言葉^{したが}に従^なって^い並み居^{にんじゆ}ける人数^{ごせん}五千人^{にん}ほどあり。

11 その時^{とき}ゼズス^か彼の餅^{もち}を^あ上げ給^{たま}い、^{おんれい}デウス・ペアデレ^{もう}に御礼^{たま}を申し給^{たま}い、^{わか}割^くり^に砕^{こん}きて^{うお}二喉^{もち}の魚^{おのおの}と餅^そとを^{おのおの}各々^{おの}望^{のみ}みのま^{あた}まに^{たま}与え給^{たま}い、

12-13 服^{ぶく}し、^{あま}余りたる^{じゆうに}を十二^{かご}の籠^もに盛り置^おくなり。

14 この御^{おん}奇特^{きどく}を見る人々^み、「世界^{ひとびと}に出^せでさせ給^かわんずる^い真^まのポロヘエタは、^{たま}これにて^{ましま}在^{たんが}す」と互^{もう}いに申し合^あいけるなり。

15 その人々^{ひとびと}ゼズスを^{ていおう}帝王^{そな}に備^{たてまつ}え奉^まらんために、^い一味^{ちみどうしん}同心^{まい}して^{まい}参^まるべきこと^しを知^めろし^め召^{おん}されて、^{おん}ただ御^{ひと}独^{やま}り山^{おく}の奥^{おく}へ逃^にげ去^さり給^{たま}うなり。

食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」と答えた。

8 弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。

9 「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」

10 イエスは、「人々を座らせなさい」と言われた。そこには草がたくさん生えていた。男たちはそこに座ったが、その数はおよそ五千人であった。

11 さて、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。

12 人々が満腹したとき、イエスは弟子たちに、「少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい」と言われた。

13 集めると、人々が五つの大麦パンを食べて、なお残ったパンの屑で、十二の籠がいっぱいになった。

14 そこで、人々はイエスのなさったしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に来られる預言者である」と言った。

15 イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでもた山に退かれた。

Dominica quarta in quadragessima (四旬節の第四の主日) p.20

1 IESVS Galilea no mucay naru Teberiaades to yu yrivmi vo vatari tamo ni, 2 biõnin no vyeni arauaxi tamo võ-quindocu vo miru ni yotte, xonin võ-ato yori mayri ccudo nari. 3 Sareba JESVS aru cozan discipolo tomo ni jjinxi tamayebe, 4 Judeu no paschoa no fi fodo chicaqu naru nari. 5 IESVS go-roegan vo miague tamay, mayri ccudoy taru fito vo gorã atte, Philippe ni, "Cono mono-domo ni ato bequi xoqubut vo ba, yzucata nite motomu bequi zo?" to notamo nari. 6 Igo naxi tamo bequi coto uoba, canete xiroximesu to *iydomo, Philippe cocoro vo goranje-raren tame ni, caqueno gotocu, toj tamo ni, 7 Philippe "Tatoy sucoxi-zzucco atõru to yutomo, *quixen niffiacu-mon fodo nite va, totonoy gataqui." to mosarequereba, 8 Simão Pedro no xaquiõ Andre mosare queru ua, 9 "Coco ni võbaqu no mochi yecuccu to vuo ni-con mochiqueru varãbe ari. Xicaredomo amata no jjiu nareba, nani to arubequi zo?" to mosare queru nari. 10 Sono tocoro ni firoqui xibauara ari. IESVS "Choju no mono-domo vo navosu bexi." to notamayeba, von-cotoba ni *xitagate, nami yqueru ninju goxen-nin fodo ari. 11 Sono toqui JESUS cano mochi vo ague tamay, Deus Padre ni von-rey vo moxi tamay, vari quadaquite, nicon no vuo to *mochij to vo vono vono nosomi no mama ni ataye tamay, 12-13 buguxi, amaritaru uo juni no cago ni mori voqu nari. 14 Cono võ-quidocu vo miru fitobito, "Xecay ni idesaxe tamaãzuru macoto no profeta va, core nite maximasu." to fãgay ni moxiay-queru nari. 15 Sono fitobito JESVS vo teyvo ni sonaye tatemaccuran tame ni, ichimi *doxon xite, majru bequi coto vo xiroximesarete tada võ-fitori yamano vocu ye nigue sari tamo nari.

2 võ-quindocu=von-quindocu; võ-ato=von-ato; 5 gorã=goran; 6 *iydomo→yyedomo; 7 *quixen→quinxen;
9 varãbe=varambe; jjiu→jjinnju; 10 *xitagate→xitagatte; 11 *mochij→mochi; 14 võ-quidocu=von-quidocu;
15 *doxon→doxin; võ-fitori=von-fitori;

1 入り海：「入海、あるいは、入り江」(『日葡』)。ただし、原典では「湖」。

7 二百文：「文」は江戸時代までの通貨単位。ただし、デナリオンよりは価値は低い。

9 大麦：『日葡』には、「おおばく」の他に「おおむぎ」、「だいばく」の見出しがある。
餅：「パン」。

喉：「女房言葉で、魚または肴。魚を数える助数詞」(『新潮』)。

55 その時代ゼズス、^{じだい}ジュデウらに^{のたま}宣
わ^わく、^わ「^{にく}が^{まこと}肉^{ぜきもつ}真^わの^ち食物^{のい}なり。我が^{まこと}血^のは^{もの}真^{もの}の^{もの}飲^{もの}み^{もの}物^{もの}なり。

56 さ^われば^{にく}我が^{ぶく}肉^わを^ち服^{のい}し、我が^わが^ち血^{のい}を^{のい}飲^{のい}
み^{のい}たら^{のい}ん^{のい}者^{のい}は^{のい}我^{のい}に^{のい}居^{のい}り、我^{のい}また^{のい}そ^{のい}の^{のい}人^{のい}
に^{のい}残^{のい}る^{のい}なり。

57 生^いき^{たも}給^{おや}う^{われ}親^{つか}、我^{われ}を^{つか}遣^{たま}わ^{われ}し^{われ}給^{われ}い、我^{われ}
も^{われ}デ^{われ}ウス^{われ}・^{われ}パ^{われ}ア^{われ}デ^{われ}レ^{われ}によ^{われ}って^{われ}生^{われ}く^{われ}る^{われ}如^{われ}

55 わたしの肉はまことの食べ物、わ
たしの血はまことの飲み物だからであ
る。

56 わたしの肉を食べ、わたしの血を
飲む者は、いつもわたしの内におり、
わたしもまたいつもその人の内にいる。

57 生きておられる父がわたしをお遣
わしになり、またわたしが父によって

く、我が身を服する者は我によって永
ろうべし。

58 これは天よりくだりけるパンなり。
これ天より遣わし給う食物なるが故に、
汝達の先祖マナを服して死なれたる如
くにはあらず。このパンを服せん者は
いつまでも生き永らゆべし」と宣うな
り。

生きるように、わたしを食べる者もわ
たしによって生きる。

58 これは天から降って来たパンであ
る。先祖が食べたのに死んでしまった
ようなものとは違う。このパンを食べ
る者は永遠に生きる。」

In festo Corporis Christi (主キリシトの聖体の祝日) p.29v

55 Sono jidaj JESVS Judeo-ra ni notamauaqu, "Vaga *nitcu macoto no jequimot nari. Vaga chi ua macoto no nomimono nari. 56 Sareba vaga *nitcu vo bucuxi, vaga chi vo nomitaran mono ua vare ni vori, vare mata sono fito ni nocoru nari. 57 Yqui tamo voya vare vo ccucauxi tamaj, vare mo D's Padre ni yotte iquru gotocu, vaga mi vo buqu suru mono va, vare ni yotte, nagaro bexi. 58 *Cori va ten yori qūdari queru pan nari. Core ten yori ccucauxi tamo xoqubut naruga yuye ni, *nadachi no xenso mana vo buquxite xinaretaru gotocu niua arazu. Cono pan vo bucuxen mono va, yccumademo yqui nagarayu bexi." to notamo nari.

55 *nitcu → nicu; 57 D's=Deus; 58 *cori → core; qūdari=qundari; *nadachi → nandachi;

58 パン：「パン」という言葉がここで使われている(9節参照)が、食事としての「糧」を表す場合は「餅」とし、かなり宗教的な意味で用いられているときに「パン」が使われている可能性がある。

マナ： 出エジプト記参照。

8 章

46 ゼズス、ユデウ同じくサセルダ
ウテの司に宣わく、「汝達の中より
なにもものわれとんが あぎむもの
何者か我に咎ありと欺く者あるべきや。
われしんじつ あらわ い か
我真実を顕しければ、如何にしてか
わ ことは まこと う
我が言葉に真に受けられざるや。

47 デウスの御方の者は、デウスの御
ことば き おんかた
言葉を聞くなり。御方にあらざるによつ

46 あなたたちのうち、いったいだれ
が、わたしに罪があると責めることが
できるのか。わたしは真理を語ってい
るのに、なぜわたしを信じないのか。

47 神に属する者は神の言葉を聞く。
あなたたちが聞かないのは神に属して
いないからである。」

て、我が言葉わ ことば きを聞かれぬなり」と宣のたまえば、

48 ジュデウ、「御身おんみ てんぐを天狗あるサマリタノ人にてありと言わざるか」と申しければ、

49 ゼズス、「我天狗われ てんぐ もを持たず、却かえつて御親おんおや あ おんれいに当たる御礼おんれい たてまつをなし奉るに、汝達なんだち恥辱ちじよく あとを与たまうなり。

50 自ら我に当たる栄位みずか われ あ くら い たずを尋ねず。尋ねたずねただ たも おんあるじましまし給う御主おんみ在ありなり。

51 我真実われしんじつ ゆに言うなり。我が言葉わ ことば きを聞き従したがともがら いっう輩しは、何時いつまでも死しすることあるべからず」と宣のたまえば、

52 ジュデウ、「御身おんみ てんぐに天狗あることを今明いまあきらかに知るなり。アバランを初はじめとして諸々もろもろのポロヘエタさえ死しせられるに、『我が言葉わ ことば きを聞き従したがうにおいては死しすることあるべからず』と宣のたまうは、

53 我らが親われ おやアバラン、諸々もろもろのポロヘエタよりおんみ うえも御身おんみは上うにて在ありずか。何と顕あらわし給たまうぞ」と申しければ、

54 ゼズス、「我が身わ みの栄位くら い ほを誉ほむるにおいては我わが栄位くら い あらに非ならず。汝達なんだち我がデウスと言わるる我が御親い わ おんおや、我われを栄位くら いに上げ給たまえども、汝達なんだち見知りみし申もうされぬなり。

55 我われは見知りみし申もうすなり。もし見知りみし申もうさぬと申ゆうにおいては、汝達なんだちのごく虚言人きょごんじんたるべし。さりながら、見知りみし

48 ユダヤ人たちが、「あなたはサマリヤ人で悪霊に取りつかれていると、我々が言うのも当然ではないか」と言い返すと、

49 イエスはお答えになった。「わたしは悪霊に取りつかれてはいない。わたしは父を重んじているのに、あなたたちはわたしを重んじない。

50 わたしは、自分の栄光は求めている。わたしの栄光を求め、裁きをなさる方が、ほかにおられる。

51 はっきり言うておく。わたしの言葉を守るなら、その人は決して死ぬことがない。」

52 ユダヤ人たちは言った。「あなたが悪霊に取りつかれていることが、今ははっきりした。アブラハムは死んだし、預言者たちも死んだ。ところが、あなたは、『わたしの言葉を守るなら、その人は決して死を味わうことがない』と言う。

53 わたしたちの父アブラハムよりも、あなたは偉大なのか。彼は死んだではないか。預言者たちも死んだ。いったい、あなたは自分を何者だと思っているのか。」

54 イエスはお答えになった。「わたしが自分自身のために栄光を求めようとしているのであれば、わたしの栄光はむなし。わたしに栄光を与えてくだ

たてまつおんことば もち

奉り御言葉を用いるなり。

56 汝達なんだちの先祖せんそアバランわ我が日ひを見みた
き願ねがいあつて、見みて喜よろこばるのたまる」と宣まえ
ば、

57 「御身おんみの年ねん齢れい未いまだ五ご十じゅうに足たらず。何なに
としてかアバランを見みられまれるぞ」と
申もうしければ、

58 ゼズス、「汝達なんだちに真しん実じつに言いうなり。
アバランまえなき前まへより“我われ有あり、”と宣のたま
えば、

59 その時ときジユデウつぶて礫とを取あり上うげ、打う
ち奉たてまつらんとしければ、ゼズス彼かれらまなこが眼たま
に見みえ給たまわず、テンプいロちを出だでさせ給たま
うなり。

さるのはわたしの父であつて、あなた
たちはこの方について、『我々の神だ』
と言っている。

55 あなたたちはその方を知らないが、
わたしは知っている。わたしがその方
を知らないと言え、あなたたちと同
じくわたしも偽り者になる。しかし、
わたしはその方を知っており、その言
葉を守っている。

56 あなたたちの父アブラハムは、わ
たしの日を見るのを楽しみにしていた。
そして、それを見て、喜んだのである。」
57 ユダヤ人たちが、「あなたは、まだ
五十歳にもならないのに、アブラハム
を見たのか」と言う、

58 イエスは言われた。「はっきり言っ
ておく。アブラハムが生まれる前から、
『わたしはある。』」

59 すると、ユダヤ人たちは、石を取
り上げ、イエスに投げつけようとした。
しかし、イエスは身を隠して、神殿の
境内から出て行かれた。

Dominica quinta in passione (四旬節の第五、すなわち御受難の主日) p.20v

46 JESVS Judeu vonajicu sacerdote no ccucassa ni notamauaqu, "Nandachi no naca yori nani mono ca
vare ni tōga ari to azamuqu mono aru bequi ya? Vare xinjit vo aruaxiqereba, Ycani to xite ca, vaga
cotoba ni macoto ni vquerare zaru ya? 47 Deus no von-cata no mono va Deus no von cotoba vo quiqu
nari. Von-cata ni arazaru ni yotte vaga cotoba vo quicarenu nari." to notamayeba, 48 Judeu "Von-mi vo
tengu aru Samaritano fito nite ari to yuazaru ca?" to moxi quereba, 49 JESUS "Vare tengu vo motazu.
*Cayete von-voya ni ataru von-rey vo naxi tatemaccuru ni, nādachi chijocu vo atoru nari. 50 Mizucara
vare ni ataru curay vo tazunezu. Tazune tadaxi tamo von-Aruji maximasu nari. 51 Vare xinjit ni yu nari,
uaga cotoba vo quiqu xitago tomogara ua, yccumade mo xisuru coto aru becarazu." to notamayeba, 52

Judeu "*Vo-mi ni tengu aru coto vo ima aquiracani xiru nari. Abrahão vo fajime toxite, momomoro no profeta saye xixerare queru ni uaga cotoba vo quiqui xitago ni uojet va xisuru coto aru becarazu." to notamo va, 53 varera ga voya Abrahã momomoro no profeta yori mo, von-mi ua vye nite maximasu ca? Nani to arauaxi tamo zo?" to moxiquireba, 54 JESVS "Vaga mi no curay vo fomuru ni uojeteva, vaga curay ni arazu. Nandachi vaga Deus to yuaruru vaga von-voya, vare vo curay ni ague tamayedomo, nãdachi mixiri mosarenu nari. 55 Vare va mixiri mosu nari. Moxi mixiri mosanu to yu ni uoyteva, nãdachi no gotocu quiogonjin taru bexi. Sarinagara mixiri tatemaccuri von cotoba vo mochiyuru nari. 56 Nandachi no xenso Abraham vaga fi vo mitaqui negay atte, mite yorocobaruru." to notamayeba, 57 "Võ-mi no nenrey ymada goju ni tarazu. Nani to xiteca Abrahão vo mirarequeru zo?" to moxi quereba, 58 JESVS "*Nadachi ni xinjit ni yu nari. Abraham naqui maye yori 'vare ari.'" to notamayeba, 59 Sono toqui Judeu ccubute vo toriague, vchi tatemaccuran to xi quereba, JESVS carera ga manaco ni miye tamauazu, tẽplo vo idesaxe tamo nari.

46 tōga=tonga; 49 *cayete → cayette; nãdachi=nandachi; 52 *vo-mi → von-mi; 53 Abrahã → Abraham/ Abrahão;

54 nãdachi=nandachi; 55 nãdachi=nandachi; 57 vō-mi=von-mi; 58 *nadachi → nandachi; 59 tẽplo=templo;

4 8 天狗：「サタン」。キリシタン時代には、サタンを天狗と呼んでいた。

5 5 虚言人：「嘘をつく人」(『日葡』)。

5 8 我有り：出エジプト3章14節参照。

5 9 礫：「石を投げること」(『日葡』)。

10章

11 ゼズス、ヂシポロに^{のたま}宣^{われ}わく、「我は^よ良^きパ^ストルなり。良^きパ^ストルと^ゆ言^うは、オベリヤのために^{しんめい}身^お命^を惜^しまず。

12 されば^わ我^がオベリヤに^{あら}非^ず、また^{あら}パ^ストルに^{あら}非^ずして^{やと}雇^{もの}わ^れた^る者^は、^おお^かめ^きた^とき^は、^すオベリヤを^す捨^てて^はい^きよ^する^によ^って、^ち散^り散^りに^なり^て狼^のた^めに^く食^い殺^さる^るなり。

13 その^{ゆえ}故^{やと}は^{もの}雇^われ^たる^者は、オベリヤの^{しゅじん}主^にあ^らざ^るに^よっ^て敗^はい^きよ^する

11 わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。

12 羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。——狼は羊を奪い、また追い散らす。——

13 彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。

14 わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。

なり。

14 我われは良よきパストルなるが故ゆえに、我われ
オベリヤを見み知り給たまう如ごとく、

15 我われまたデウス・パアレを見み知り
奉たてまつるなり。我われオベリヤのためいちめいに一命わた
渡わたすなり。

16 この立たちど処ほかよより他余ものオベリヤを持
ちければ、内うちに引ひき入いるべきこと、我われ
がためもつばに専わらなるによつて、我われが言ことば葉
を聞きくべければ、即すなわち一ひとつのパストル、
一ひとつの立たちど処のたもたるべし」と宣のたまうなり。

15 それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨て

16 わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。

Dominica 2a post Pascha (御復活後第二の主日) p.23v

11 JESVS discipolo ni notamauqu, "Vare ua yoqui pastor nari. Yoqui pastor to yu ua, ouelha no tame ni xinmei vo voximazu, 12 sareba vaga ouelha ni arazu, mata pastor ni arazu xite yatouaretaru mono ua, vōcame qitaru toqui ua, ouelha vo sutete, fayqio suru ni yotte, chirijiri ni narite *voncame no tame ni cui corosaruru nari. 13 Sono yuye ua yatouaretaru mono ua ouelha no xujin ni arazaru ni yotte, fajquio suru nari. 14 Vare ua yoqui pastor naruga yuye ni, vare ouelha vo mixiri tamo gotoqu, 15 vare mata Deus Padre vo mixiri tatemaccuru nari. Vare ouelha no tame ni ichimey vo vatasu nari. 16 Cono tachido yori focayo no ouelha vo mochiquereba, vchi ni fiqiru bequi coto, vaga tame ni moppara naruni yotte, vaga cotoba vo quiqu bequereba, sunauachi fitoccu no pastor, fitoccu no tachido taru bexi." to notamo nari.

12 *von-came → vōcame;

1 1 パストル： 葡 pastor。「羊飼い」。

オベリヤ： 葡 ouelha。「羊」。

身命： 「この身の命、または、肉体の生命」(『日葡』)。

1 2 狼： 「おおかめ」の読みが一般的。

1 6 立処： 「鹿や猪などの獣の巣窟。また、人の居所、すなわち、人の居る場所」(『日葡』)。

1 1 章

1 ラザロという病人^{びょうにん}、マリヤ、マルタとして姉妹のベタニヤという櫓^{きょうだい やぐら}に住せらるなり。

2 このマリヤは薫香^{くんこう}の薬^{くすり}を以て尊主^{もつ}を塗^ぬり奉^{たてまつ}り、我が頭髪^{わづはい}をもって御足^{みあし}を拭^{ぬぐ}われけり。さればラザロ大病^{たいびょう}を受けられければ、

3 二人^{ふたり}の姉妹使者^{きょうだいしや}を奉^{たてまつ}りて、「いかに、ドミネ、大切^{たいせつ}に思^{おぼ}ひ召^めす者^{もの}、病苦^{びょうく}を受け待^{まち}る」と申^{もう}されければ、

4 ゼズス宣^{のたま}うは、「この病^{やまい}は死^しすべきには非^{あら}ず。デウスのゴラウリヤ^{ゴローリヤ}の御^{おん}ため、またデウス・ヒイリヨ^{たつと}を貴^{たつと}まんためなり」と宣^{のたま}うなり。

5 ゼズスは、マリヤ・マグダネラ、ラザロ^{しせい}を至誠^{おぼめ}に思^{おぼ}ひ召^めすなり。

6 しかるに、ラザロ所^{しやうろう}勞^{よしきこ}の由^ゆ聞^めし召^めして後^{のち}、その所^{ところ}に二日^{ふつか}御^ご逗留^{とうりゅう}なり。

7 その後^{のち}、御^み弟子^{でし}たち、「いざや、ジュデア^{おむむ}へ赴^{のたま}かん」と宣^{のたま}えば、

8 「いかに、師匠^{ししやう}、ジュデウ^{いま}ただ今^{いま}、尊体^{そんたい}に石^{いし}を投^なんげ撃^うちたく存^{ぞう}ずる所^{ところ}に、またか^ゆしこに行^{たも}かし給^{ちゆう}うべきや」と申^{もう}し上^あげらるれば、

9 ゼズス、宣^{のたま}いけるは、「一日^{いちじつ}は十二^{じゅうに}時^じにあらざや、日中^{ひじゅう}に歩^{あり}く者^{もの}は倒覆^{とうぼく}することなし。これ世界^{せかい}の光^{ひかり}を見ればな

1 ある病人^{びょうにん}がいた。マリヤとその姉妹^{あねいもうと}マルタの村^{むら}、ベタニアの出身^{しゅしん}で、ラザロ^{らざろ}といった。

2 このマリヤは主^{しゆ}に香油^{かうきゅう}を塗^ぬり、髪^{かみ}の毛^けで主^{しゆ}の足^{あし}をぬぐった女^{むすめ}である。その兄弟^{あにがへい}ラザロが病気^{びやうき}であった。

3 姉妹^{あねいもうと}たちはイエスのもとに人^{ひと}をやつて、「主^{しゆ}よ、あなたの愛^{あい}しておられる者^{もの}が病気^{びやうき}なのです」と言^いわせた。

4 イエスは、それを聞^きいて言^いわれた。「この病気^{びやうき}は死^しで終わ^おわるものではない。神^{かみ}の栄光^{えいこう}のためである。神^{かみ}の子^こがそれによつて栄光^{えいこう}を受けるのである。」

5 イエスは、マルタとその姉妹^{あねいもうと}とラザロ^{らざろ}を愛^{あい}しておられた。

6 ラザロが病気^{びやうき}だと聞^きいてからも、なお二日間^{ふたにちかん}同じ所^{おなじところ}に滞^{とど}まされた。

7 それから、弟子^{でし}たちに言^いわれた。「もう一度^{もういちど}、ユダヤ^{ユダヤ}に行^いこう。」

8 弟子^{でし}たちは言^いった。「ラビ、ユダヤ人^{ユダヤじん}たちがついこの間^{このま}もあなたを石^{いし}で打ち殺^{うちころ}そうとしたのに、またそこへ行^いかれるのですか。」

9 イエスはお答^{こた}えになった。「昼間^{ひるま}は十二時間^{じふにじかん}あるではないか。昼^{ひる}のうちに歩^あけば、つまづくことはない。この世^{このよ}の光^{ひかり}を見ているからだ。」

り。
 10 また夜中やちゆうに歩くあるにおいては、倒覆とうぶくすることあるべし」と宣のたまい、
 11 また仰おおせけるは、「われ大切たいせつに思おもうラザロ眠ねむりければ、驚おんどろかさために、我われ行ゆかん」と宣のたまうに、
 12 御弟子おんでし、「いかに、御主おんあるじ、睡眠すいめん致いたさば、助たすかるべし」と申もうされける。
 13 ゼズスは、ラザロ死せい去きよせしことを宣のたまえども御弟子みでしは眠ねむりと思おもわれけり。
 14 その時とき、ゼズス顕あらわれて宣のたまわく、「ラザロは逝せい去きよしつぞ」とよ。
 15 「汝等なんだちがヒイデスに受うけさせんがために、彼かの所ところを居い合あわしよんずことを喜よろこぶなり。我われ赴おもむかん」と宣のたまうなり。
 16 その時ときトマス・ヂヂムス、余よの御弟子みでしに、「我われらも往ゆいてとにも死しすべし」と申もうされける。
 17 ラザロ死しせられけるを棺かんに納おさめてより四日よっか目にゼズス遣つかわし給たまうなり。
 18 されば、ベタニヤはゼルザレンの辺ほとりなれば、
 19 数多あまたのユデウ死しせられたる人ひとの姉妹きょうだい対たいし、マルタ・マグダネラちからに力を添そえんために、来臨らいりんせり。
 20 しかるに、マルタはゼズスの御幸ごこうと承うけたまわり、御迎おんむかいに出いでられけれども、マグダネラは家いえに残のこられけり。
 21 その時ときマルタ、ゼズスに出向いでむかい奉たてまつつて、「いかに、ドミネ、御身おんみこの

10 しかし、夜歩よけば、つまずく。その人の内うちに光ひかりがないからである。
 11 こうお話しはなしになり、また、その後のちで言いわれた。「わたしたちの友ともラザロが眠ねむっている。しかし、わたしは彼かれを起おこしに行く。」
 12 弟子でしたちは、「主しゅよ、眠ねむっているのであれば、助たすかるでしょう」と言いった。
 13 イエスはラザロの死しについて話はなされたのだが、弟子でしたちは、ただ眠ねむりについて話はなされたものと思おもったのである。
 14 そこでイエスは、はっきりと言いわれた。「ラザロは死しんだのだ。
 15 わたしわたしがその場ばに居い合わせなかつたのは、あなたあなたがたにとつてよかつた。あなたあなたがたが信しんじるようになるためである。さあ、彼かれのところへ行いこう。」
 16 すると、ディディモと呼ばれるトマスが、仲間なかまの弟子でしたちに、「わたしわたしたちも行いつて、一緒いっしょに死しのうではないか」と言いった。
 17 さて、イエスが行いつて御覽ごらんになると、ラザロは墓はかに葬くわられて既に四日よっかもたっていた。
 18 ベタニヤはエルサレムに近く、十五スタディオンほどのところにあつた。
 19 マルタとマリアのところには、多くのユダヤ人が、兄弟あにラザロのことで慰なぐさめに来ていた。
 20 マルタは、イエスが来きられたと聞き

ところ ころいこう
所へ御来迎あるにおいては、舎兄ラザ
口死せらるることあるべからず。

22 しかれども、御身デウスに頼ませ
給わば、万事叶わせ給うべしと存じ奉
る」と申されければ、

23 ゼズス、「汝が舎兄生き返るべし」
と宣えば、

24 マルタ、「如何様にも極めの日甦り
なんやと思ひ奉る」と申されければ、

25 ゼズス宣わく、「その活も寿命も自
らなれば、我をヒデスに受くるにお
いては、逝去するとも甦るべし。

26 一命を保つ人、我をヒデスに受
ければ、いつまでも死することあるべ
からず。汝はこの儀をヒデスに受くる
や」と宣えば、

27 「いかに、ドミネ、是非におよばざ
るこの世界に出で給うデウス・ヒイリ
ヨ、ゼズスは御身にて在すとヒデス
に受け奉る」と申されて後、

28 妹マリヤ・マグダネラの許に行い
て、「師匠御幸あって、御辺を呼ばせ
給う」と密かに言われければ、

29 マグダネラ、これを聞いて、起き
上がり、急ぎ御前に参られけり。

30 ゼズス未だ櫓に着かせ給わで、マ
ルタに行き合わせ給うところに在しつ
るよってなり。

31 さればこの家に吊いのために来た
れるユデウら、マグダネラの急ぎ出

いて、迎えに行ったが、マリアは家の
中に座っていた。

21 マルタはイエスに言った。「主よ、
もしここにいてくださいましたら、わ
たしの兄弟は死ななかつたでしょうに。

22 しかし、あなたが神にお願いにな
ることは何でも神はかなえてくださる
と、わたしは今でも承知しています。」

23 イエスが、「あなたの兄弟は復活す
る」と言われると、

24 マルタは、「終わりの日の復活の時
に復活することは存じております」と
言った。

25 イエスは言われた。「わたしは復活
であり、命である。わたしを信じる者
は、死んでも生きる。

26 生きていてわたしを信じる者はだ
れも、決して死ぬことはない。このこ
とを信じるか。」

27 マルタは言った。「はい、主よ、あ
なたが世に来られるはずの神の子、メ
シアであるとわたしは信じております。」

28 マルタは、こう言ってから、家に
帰って姉妹のマリアを呼び、「先生が
いらして、あなたをお呼びです」と耳
打ちした。

29 マリアはこれを聞くと、すぐに立
ち上がり、イエスのもとに行った。

30 イエスはまだ村には入らず、マル
タが出迎えた場所におられた。

で行き給うを見て、件の死骸を埋みけ
る所へ行いて、愁訴せらるると心得て、
後より慕い行きけるなり。

32 その時マリヤ・マグダネラ、ゼズ
スの御足許に跪き、「いかに、ドミネ、
おん身この所に居らせ給うにおいては、
自らが舎兄逝去することあるべからず」
と申されければ、

33 ゼズス、マグダネラを先として、
その座に連なるユデウの悲涙を御覧
あって、御アパレンシヤに悲傷の風情
を躡わし給い、

34 「その人をば何処に埋みける」と問
い給う。御返事に、「いかに、ドミネ、
ごころごらん」と申されければ、

35 ゼズス御涙を流し給う。

36 「今こそラザロを深く勞わらせ給う
よ」と申すユデウもあり。

37 また、「盲人の眼をさえ開かせ給え
ば、この人死せざる様になんど御計ら
いなき」と申すユデウもあり。

38 されば、ゼズス、いよいよ御歎き
の御気色を躡し給い、御涙ともに岩の
ほりに赴き給い、

39 「塚の上に積める石を除けよ」と宣
えば、マルタ、「いかに、ドミネ、早
や四日になり候えば、臭気出でなん」
と申されければ、

40 ゼズス、「ヒイデスに受くるにおい
ては、デウスのゴラウリヤを見奉るべ

31 家の中でマリヤと一緒にいて、慰
めていたユダヤ人たちは、彼女が急に
立ち上がって出て行くのを見て、墓に
泣きに行くのだらうと思い、後を追っ
た。

32 マリヤはイエスのおられる所に来
て、イエスを見るなり足もとにひれ伏
し、「主よ、もしここにいてくださ
いまして、わたしの兄弟は死ななかつ
たでしょうに」と言った。

33 イエスは、彼女が泣き、一緒に来
たユダヤ人たちも泣いているのを見て、
心に憤りを覚え、興奮して、

34 言われた。「どこに葬ったのか。」
彼らは、「主よ、来て、御覧ください」
と云った。

35 イエスは涙を流された。

36 ユダヤ人たちは、「御覧なさい、ど
んなにラザロを愛しておられたことか」
と云った。

37 しかし、中には、「盲人の目を開け
たこの人も、ラザロが死なないように
はできなかったのか」と言う者もいた。

38 イエスは、再び心に憤りを覚えて、
墓に来られた。墓は洞穴で、石でふさ
がれていた。

39 イエスが、「その石を取りのけな
さい」と言われると、死んだラザロの姉
妹マルタが、「主よ、四日もたってい
ますから、もうにおいます」と云った。

しと汝に言わざるや」と宣い、

41 石を取り除けて後、天に向かわせ

給い、「いかに、デウス・パアデレ、

いつも上聞に達することを叶え給う。

かるが故に御礼を申し奉る。

42 しかれば、我が尊敬することを聞
こし召すとは分別せしむれども、御主

自らをこの世界に出ださせ給う御事を、

彼らに合点させんため、かように言上

せしむる」と宣いて後、

43 大音声を上げ給い、「いかに、ラザ

ロ、外に出でよ」と宣う

44 御言葉の下より、薨ぜしラザロ

手足を絡げ白布に面を包みながら、忽

ち蘇生せらるるなり。その時、ゼズス

御弟子に、「解き、免しておけ」と宣

えば、

45 マルタ・マグダネラとともに列参

しける数輩のユデウら、これを見て

ゼズスをヒイデスに受け奉るなり。

40 イエスは、「もし信じるなら、神の
栄光が見られると、言っておいたでは
ないか」と言われた。

41 人々が石を取りのけると、イエス
は天を仰いで言われた。「父よ、わた
しの願いを聞き入れてくださって感謝
します。

42 わたしの願いをいつも聞いてくだ
さることを、わたしは知っています。
しかし、わたしがこう言うのは、周り
にいる群衆のためです。あなたがわた
しをお遣わしになったことを、彼らに
信じさせるためです。」

43 こう言ってから、「ラザロ、出て来
なさい」と大声で叫ばれた。

44 すると、死んでいた人が、手と足
を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆
いで包まれていた。イエスは人々に、
「ほどいてやって、行かせなさい」と
言われた。

45 マリアのところに来て、イエスの
なされたことを目撃したユダヤ人の多
くは、イエスを信じた。

Quinta feria sexta quadrag. (四旬節の第五の金曜日) p.57

1 Lazaru to yu beonin Maria Marta tote quiodan no Betania to yu yagura ni jjuxeraru nari. 2 Cono Maria ua cunco no cusuri uo motte, sonxu uo nuri tatemaccuri, vaga zzufai vo motte, mi axi uo nogouare queri. Sareba Lazaru taybeo uo vquerare quereba, 3 futari no quioday xixa uo tatemaccurite, "Ycani, Domine, tajxet ni voboximesu mono beocu uo uque famberu." to mosare quereba, 4 IESVS notamo ua, "Cono yamay ua xisu bequi niua arazu. D's no gloria no vō-tame, mata Deus Filho uo tattoman tame nari." to notamo *nari. 5 IESVS ua Maria Magdanella, Lazaru uo *xiyxex ni voboximesu nari. 6 Xicaru

ni Lazaro-xôro no yoxi quicoximexite nochi, sono tocoro ni fuccuca gotoriu nari. 7 Sono nochi mi-dexi ni "Yzaya, Judea ye vomomucan." to notamayeba, 8 "Ycani, xixo, Judeo tadaima sontay ni yxi uo nangue vchi tacu zozuru tocoro ni, mata cacixo ni yucaxi tamo bequi ya?" to moxi aguerarureba, 9 IESVS notamay queru ua, "Ichijit ua juni toqui ni arazuya? Fijju ni aricu mono ua tôbôcu suru coto naxi. Core xecay no ficari uo mireba nari. 10 Mata yachu ni aruqu ni uoyteua, tobucu suru coto aru bexi." to notamayte, 11 mata voxeruru ua, vare tayxet ni vomo Lazaro nemuri quereba vodorocasan tame ni, vare yucan." to notamo ni, 12 v̄-dexi, "Ycani, v̄-Aruji, suymen itasaba, tasucaru bexi." to mosare queru. 13 IESVS ua Lazaro *xequio xexi coto uo notamayedomo, mi-dexi ua nemuri to vomouare queri. 14 Sono toqui IESVS arauarete notamauacu, "Lazaro ua jeiquio *xitcuzo." toyo. 15 "*Najjira ga fides ni vque saxenga tame ni, vare cano tocoro uo iyauaxonzu coto uo yorocobu nari. Vare uomomucan." to notamo nari. 16 Sono toqui Thomas Didimus yo no midexi ni, "Varera mo yuyte, tomo ni xisu bexi." to mosare queru. 17 Lazaro xi-xerare queru uo, quan ni vosamete yori yoccame ni, IESVS ccucauaxi tamo nari. 18 Sareba Bethania ua Ierusalē no fotori nareba, 19 amata no Iudeo xi-xeraretaru fito no quoday ni tayxi, Marta Magdanella ni chicara vo soyen tame ni rayrin xeri. 20 Xicaru ni Marta ua IESVS no goco to vquetamauari, von-mucay ni iderare queredomo, Magdanella ua iye ni nocorare queri. 21 Sono toqui Marta IESVS ni yde mucay *tatematte, "Ycani, Domine! vo-mi cono tocoro ye gorayco aru ni uoyteua, xaqio Lazaro xixeraruru coto aru becarazu. 22 Xicaredomo vo-mi Deus ni tanomaxe tamauaba, banji canauaxe tamo bexi to zoji tatemaccuru." to mosare quereba, 23 IESVS "Nājji ga xaqio iquicayeru bexi." to notamayeba, 24 Martha "Ycassama nimo quiuame no fi, yomigayeri nāya to vomoy tatemaccuru." to mosare quereba, 25 IESVS notamauacu, "Sono quat mo jumeo mo mizzucara nareba, vare uo fides ni vquru ni uoyteua, jeiqio suru tomo yomigayeru bexi. 26 Ichimei uo tamoccu fito, vare uo fides ni vqueba, yccumademo xisuru coto aru becarazu. Nājji ua cono gui uo fides ni vquruya?" to notamayeba, 27 "Ycani, Domine, jefi ni voyobazaru cono xecay ni yde tamo Deus Filho, IESVS ua v̄-mi nite maximasu, to fides ni vque tatemaccuru." to mosarete nochi, 28 Imoto Maria Magdanella no moto ni yuyte, "Xixo goco atte, gofen uo yobaxe tamo." to fisoca ni yuare quereba, 29 Magdanella core uo quijite, voqui agari, ys̄ḡui *vo-maye ni mayrare queri. 30 IESVS ymanda yagura ni ccucaxe tamauade, Martha ni yuqui auaxe tamo tocoro ni voaxi ccuru ni yotte nari. 31 Sareba cono iye ni toburray no tame ni quitareru Judeo-ra, Magdanella no ysogui ide yuqui tamo vo mite, cudan no xigay uo izumi queru tocoro ye yuyte, xuso xeraruru to cocoroyete, ato yori xitay yuqui queru nari. 32 Sono toqui Maria Magdanella IESVS no v̄-aximoto ni fizamaziqui, "Ycani, D'ne, v̄-mi cono toroco ni iraxe tamo ni uoyteua, mizzucara ga xaqio jeiqio suru coto aru becarazu." to mosare quereba, 33 IESVS Magdanella vo saqui toxite, sono za ni ccuranaru Judeo no firuj uo goran atte, von-a'ia ni fixo no fujei uo aruaxi tamay, 34 "Sono fito voba yzuqu ni vzumi queru?" to toy tamo. *V̄o-feji ni, "Ycani, D'ne, goco atte goran are." to mosare quereba, 35 IESVS v̄-namida vo nagaxi tamo. 36 "Yma cosso, Lazaro vo fucaqu itauaraxe tamo yo." to mosu Judeo mo ari. 37 Mata "Monin no manacu uo saye firacaxe tamayeba, cono fito xixezaru yo ni, nãdo von-facaray naqui?" to mosu Judeo mo ari. 38 Sareba IESVS yyo iyo v̄-naguequi no go-quixocu vo aruaxi tamay, von namida tomo ni yua no fotori ni vomomuqui

tamay, 39 "Ccuca no vye ni ccumeru ixi uo noqueyo." to notamayeba, Martha "Ycani, D'ne, faya yocca ni nari sorayeba, xuqi ide nan." to mosare quereba, 40 IESVS "Fides ni vquru ni uoyteua, Deus no gloria uo mi tatemaccuru bexi, to nãjji ni yuazaru ya?" to notamay, 41 yxi uo tori noquete nochi, ten ni mucauaxe tamay, "Ycani, D's Pe. , yccumo xobun ni *tasuru coto uo canaye tamo. Caru ga yuye ni von-rej uo moxi tatemaccuru. 42 Xicareba, vaga songuio suru coto uo quicoximesu toua, fûbet xeximuredomo, ṽ-Aruji mizzucara vo cono xecay ni idasare tamo von coto uo, carera ni gatf̃ saxen tame, cayo ni gonjo xeximuru." to notamayte nochi, 43 Dajvonjo uo ague tamay, "Ycani, Lazaro, foca ni ideyo!" to notamo 44 von-cotoba no xita yori, cojexi Lazaro xusocu uo cařãgue, facufu ni *vomotte uo-*susumi nagara, tachimachi soxey xeraruru nari. Sono toqui IESVS mi-dexi ni, "Toqui, yuruxite voque." to notamayeba, 45 Martha Madanela to tomo ni retsan xiqueru sufai no Judeo-ra, core vo mite, IESVS uo fides ni vqe tatemaccuru nari.

4 D's=Deus; ṽ-tame=von-tame; 5 *xiyxej → xixej; 33 au'a=avarentia; 11 ṽdorocasan=vondorocasan;

12 ṽ-dexi=von-dexi; ṽ-Aruji=von-Aruji; 13 *xequio → xejquio; 14 *xitcuzo → xitcuzo; 15 *nãjira → nanjira;

18 Ierusalê =Jerusalem; 21 *tatematte tatemaccutte; 23 nãjji=nanjji; 24 nãya=nanya; 26 nãjji=nanjji;

27 ṽ-mi=von-mi; 29 ysõgui=ysongui; *vo-maye → von-maye; 32 ṽ-aximoto=von-aximoto; D'ne=Domine; ṽ-mi=von-mi;

33 von-a'ia=von-aparancia; 34 *ṽ-feji=von-fenji; 35 ṽ-namida=von-namida; 37 nãdo=nando;

38 ṽ-naguequi=von-naguequi; 39 D'ne=Domine; 40 nãjji=nanjji; 41 D's Pe.=Deus Padre; *tasuru → tassuru;

42 fûbet=funbet; ṽ-Aruji=von-Aruji; gatf̃=gatten; 44 cařãgue=carangue; *susumi → ccuccumi; *vomotte → vomote;

1 姉妹：『日葡』にも「しまい」という言葉がないわけではないが、一般的には男も女も同じように「きょうだい」と呼ばれていたようである。

櫓：「櫓、または、城砦の高楼」（『日葡』）とあるが、この原典は「村」を表す言葉である。なぜ、このようになったのか分からないが、都市国家は一般的に城壁に取り囲まれており、そこに見張りのために高楼が建てられていたので、「町」を代表するものとして「櫓」が使われたのであろう。

2 薫香：「香ばしい香り、または匂い」（『日葡』）。

頭髮：「頭の髪の毛」（『日葡』）。

拭う：「のごう」は「ぬぐう」の古い形。

5 至誠：「大切に」。「至誠に思召す」は「大変愛する」の意。

6 所労：「病気」（『日葡』）。

8 尊体：「神聖な実体、すなわち、国王や高貴な人などの身体」（『日葡』）。

9 十二時：「日本人には昼間に六つ、夜間に六つの時があつて・・・」（『日葡』）とあるように、日本の一時は今の二時間に当たる。原典の本来の意味は、「昼間には十時間ある」と言う意味である。

倒覆：「倒れ、ころぶ」。

1 1 大切に思う：「愛する」の意で使われている。

1 5 居合わしよわずこと：「居合せなかつたこと」の意。ローマ字表記は「イアワシヨウズ」。

2 4 如何様にも：「もしかすると」（『日葡』）。

極めの日：「極め」は「極致、終末、あるいは、究極」（『日葡』）。「極めの日」は「終末の日」の意。

25 活：「生きること。いきいきとしていること」（『新潮』）の説明の後、「一の字よみがへるとよむ」（狂・磁石）が引用されている。『日葡』には見出しにはない。

逝去：「死ぬこと。これは良い言葉であり、死去というよりも尊敬した言い方である。公方や屋形などに対して用いるべきであろう」（『日葡』）。「ぜいきよ」の読みはない。

31 埋み：『日葡』に「埋め」と「埋み」の両方が見出しにある。ただし、「いずみ」はない。

愁訴：「悲しみを抱いて嘆きかこつこと」（『日葡』）。

心得て：「人から言われた事を了解し、または、人の心や意思を感じとり、それに同意する」（『日葡』）。

33 悲涙：「悲しみの涙」（『日葡』）。

アバレンシヤ：葡 *aparencia*。ローマ字表記は *a'ia* と読める。省略の部分が不明であるが、「キ研」の解釈に従う。「外見、様子」の意であり、全体的には、「表情に悲しみの様子を見せ」ということになるろう。

悲傷：「悲しみのために心が痛むこと、あるいは、悲嘆にくれること」（『日葡』）。

風情：「格好、あるいは、様子」（『日葡』）。

36 勞らせ：「憐れむ、治療する、また、弱い者や幼児などを、愛情をこめて手厚く取り扱う」（『日葡』）。

37 盲人：「盲目の人」（『日葡』）。「もうじん」の見出しはない。差別語。

38 御気色：「顔色・表情」（『日葡』）。

39 塚：「墓や墓所などのように、土を高く盛り上げた所」（『日葡』）。本来はイエスの墓は洞穴であった。

41 上聞：「国王、公方、あるいは屋形に何かを申し上げること」（『日葡』）。「じょうぶん」の読みもあり。

42 尊敬：「尊崇、あるいは、崇敬」（『日葡』）。ローマ字表記は「そんぎよう」。「そんけい」の見出しはない。

合点：「了解すること」（『日葡』）。

言上：「貴人に話すこと」（『日葡』）。

43 大音声：「大声」（『日葡』）。

44 薨ぜし：「病気が次第に重くなる、あるいは、次第に悪化する」（『日葡』）。ここでは、「死する」の意。ちなみに、『新潮』では、「死ぬの尊敬語。皇族または三位以上の人についていう」とある。

包み：ローマ字表記では *susumi*。「ツ」音のないポルトガル語の影響による誤記。

47 ポンチヒセスとハリゼウども、ゼ
ズを^{せんぎひょうじょう}詮議評定しけるは、「^か彼の^{ひと}人
^{あまた}多数の^{きんずい}奇瑞をなせり。我らは何の^{われ}奇特
^{なん}奇特
^{きんごく}をかなすべき。

48 このまま張行^{ちやうぎやう}するにおいては、ゼ

47 そこで、祭司長たちとファリサイ
派の人々は最高法院を召集して行った。
「この男は多くのしるしを行っている
が、どうすればよいか。

48 このままにしておけば、皆が彼を

ズスをヒイデスに受くべきなれば、忽ち
ローマちラウマの人数蜂起し来たって、我ら
しそん おんなが子孫、同じく住所をも没収すべし」
 と詮議をなせり。

49 さるほどに、なかジュデウの中にその
とし年のポンチヒセスなるカイハス申され
ごへん なにごとけるは、「御辺たちは何事をも思惟せ
 ず。

50 その遠慮なき面々なり。その故は、
えんりよ めんめん一切人間を補うべきために、人一人死
いっさいにんげん おぎのすべきこと専らなり」と申されたり。

51 この事その身より言い出されず。
としその年のポンチヒセなれば、ゼズス
にんげん たい し たま人間に対して、死し給わんことを告げ
 られたるなり。

52 しかのみならず、にんげん人間のためなる
さたことは沙汰におよばず、さんざい散在せられし
おんこ いちみデウスの御子たちを一味になさせられ
おんためん御為なり。

53 その日よりひジュデウらなかゼズスを害
もうし申さんとたくの工みをなせり。

54 その日よりして、なかジュデウの中を
あり たまあらわに歩き給わず。デゼルトの近辺
ゆ ざいしよ み だしなるエヘレンと言う在所に御弟子とと
ごじゅうきよ たももに御住居なされ給うなり。

信じるようになる。そして、ローマ人が来て、我々の神殿も国民も滅ぼしてしまうだろう。」

49 彼らの中の一人で、その年の大祭司であったカイアフアが言った。「あなたがあたは何も分かっていない。

50 一人の人間が民の代わりに死に、国民全体が滅びないで済む方が、あなたがたに好都合だとは考えないのか。」

51 これは、カイアフアが自分の考えから話したのではない。その年の大祭司であったので預言して、イエスが国民のために死ぬ、と言ったのである。

52 国民のためばかりでなく、散らされている神の子たちを一つに集めるためにも死ぬ、と言ったのである。

53 この日から、彼らはイエスを殺そうとたくらんだ。

54 それで、イエスはもはや公然とユダヤ人たちの間を歩くことはなく、そこを去り、荒れ野に近い地方のエフラムという町に行き、弟子たちとそこに滞在された。

Vltima Sexta feria (最後の第六の金曜日) p.59v

47 Pontifices to Phariseu domo IESVS uo xengui fiojjo xiqueru ua, "Cano fito amata no quinzuj uo naxeri. Varera ua nanno q̄idocu uoca nasu bequi? 48 Cono mama chōguio suru ni uoyteua, IESVS uo fides ni vqu bequi nareba, tachimachi Roma no n̄ju foqi xi quitatte, varera ga xison, vōnajicu jjuxo uomo motxu subexi." to x̄ḡui uo naxeri. 49 Saruf. Iudeo no naca ni, sono toxi no Pontifices naru Caif. mosare queru

ua, "Gofen tachi ua nanigoto uomo xiyuy xezu. 50 Sono yenreo naqui menmen nari. Sono yuye ua ytsay n̄nguē uo voguinō bequi tame ni, fito ichin̄ xisu bequi coto moppara nari." to mosare tari. 51 Cono coto sono mi yori yydasarezu. Sono toxi no Pontifice nareba, IESVS n̄nguē ni tayxite, xixi tamauā coto uo ccuguerare taru nari. 52 Xica nominarazu, n̄nguen no tame naru coto ua, sata ni voyobazu, s̄zay xerarexi Deus no von-co tachi uo ychimi ni nasaxeraren von-tame nari. 53 Sono fi yori, Iudeura JESVS uo gayxi mosan tono tacumi uo naxeri. 54 Sono fi yori xite, Iudeo no naca vo araua ni ariqui tamauazu. Deserto no quinpen naru Efen to yu zayxo ni mi-dexi to tomo ni gojjuqio nasare tamo nari.

47 q̄docu=qindocuu; 48 n̄ju=ninju; v̄naju=vonnajicu; x̄ngui=xengui; 49 saruf.=sarufodoni; Caif.=Caifas;

50 n̄nguē=ninguen; ichin̄=ichinin; 51 n̄nguē=ninguen; tamauā=tamauan; 52 n̄nguen=ninguen; s̄zay=sanzay;

4 7 奇瑞：「奇跡、あるいは、不思議なこと」(『日葡』)。

4 8 張行：「自分が頭になって、ある仕事に関して、ほかの人を説いて勧めたり導いたりする」(『日葡』)。

ラウマ：ローマ字表記はRoma。「ラウマ」は「ローマ」と読まれたと思われる。

住所：「居所、または、居住する場所」(『日葡』)。

4 9 ポンチヒセ：葡 pontifice。「司教・大司教などの高位聖職者；教皇」

思惟：「思慮」(『日葡』)。

5 0 遠慮：「将来のことを考えめぐらすこと、または、将来に備えて用意すること」(『日葡』)。

一切(の)：「すべての」(『日葡』)。

5 3 沙汰：「話、または、噂」(『日葡』)。

散在せられし・・・：地中海地域各地に在住していたユダヤ人を表す。ギリシア語でディアスポラと言う。

一味：「一体、または、結合」(『日葡』)。

1 2 章

24 ゼブス、ヂシポロに宣わく、「我
しんじつ なんだち ゆ 眞実のたまに汝達われに言うなり、しょうばく たね小麦じの種、
 地に落つると言うとも、腐らずんば、何
お時ゆまでもいちりゆうのこ一粒くさ残り、腐るにおいては、
あまた み数多の実となるものなり。

25 されば、我がわんアニマたいせつを大切おもに思う
もの者は、アニマうしを失わい、我が身みのアニマ
せかいを世界にくにて憎む者は、終おわりなきじゆみょう寿命

24 はっきり言うておく。一粒の麦は、
 地に落ちて死ななければ、一粒のまま
 である。だが、死ねば、多くの実を結
 ぶ。

25 自分の命を愛する者は、それを失
 うが、この世で自分の命を憎む人は、
 それを保って永遠の命に至る。

26 わたしに仕えようとする者は、わ

に収めおくものなり。

26 我われに仕つこうる者ものは、我わが後あとを来きたるべし。我われに仕つこうる者ものは、我わが在ある所ところに住じゆうすべし。我われに仕つこうる者ものは、天てんに在まします。我わが御おん親おやより崇あがめ給たまうべし」。

たしに従え。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にしてくださる。」

In festo sancti Laurentij Mar. (殉教者聖ラウレンチオの祝日) p.90v

24 IESVS discipolo ni notamauaqu, "Vare *xinxit ni nādachi ni yu nari, xōbacu no tane, jji ni voccuru to yu tomo, cusarazumba, yccu mademo ychiriu nocori, cusaru ni uoiteua, amata no mi to naru mono nari. 25 Sareba vāga anima uo tajxet ni vomo mono va, anima vo vxinay, vaga mi no anima vo xecay nite nicumu mono ua, vouari naqui jūmeō ni vosame voqu mono nari. 26 Vare ni ccucoru mono ua, vaga ato vo quitaru bexi. Vare ni ccucoru mono ua, vaga aru tocoro ni jju su bexi. Vare ni ccucoru mono ua, ten ni maximasu vaga von-voya yori agame tamo bexi."

24 *xinxit → xinjtit; nādachi=nandachi; 25 vāga=vanga;

24 小麦：「こむぎ」の見出しもある。

25 アニマ：羅 anima。「霊、生命」。

13章

1 ゼズス、この世界せかいよりデウス・パアレに渡り給う時節わた たも じせ つちか近くなると知ろし召しめして、この世界せかいにありける御方おんかたの者共ものどもを大切たいせつに思い給おもえば、極たまめに大切きわに思たいせつし召おぼすなり。

2 セア過すぎて後のち、ジュダス・エスカリオテスの心こころにゼズスを渡り奉わた たてまつらんと天狗てんぐ工たくまれんければ、

3 ゼズスあるほどのこと、デウス・ペアアレより任せ給まか たまい、デウスより出いださせられ、デウスに帰かえり給たまうと知ろし召しめして、

1 さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。

2 夕食のときであった。既に悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた。

3 イエスは、父がすべてを御自分の子にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、

4 その座を立ち給い、御衣を脱がさせられ、白き布を帯にさせられ、

5 盥に湯を召し寄せ、ヂシポロの足を洗い給い、帯にし給う布を以て拭い給う。

6 ペドロに近づき給えば、「いかに、ドミネ、我が足を洗い給うべきや」と申されければ、

7 ゼズス、「御辺ただ今この儀を知らずと言うとも、以後知らるべし」と宣うに、

8 ペドロ、「いつまでも我が足を洗い給うべからず」と申されければ、「われ洗わぬにおいては、我が方に来たるべからず」と宣えば、

9 ペドロ、「いかに、ドミネ、足は申すにおよばず、手をも頭をも洗い給え」と申されければ、

10 ゼズス、「清き人の足より他に洗うにおよばず。汝達清けれども、悉く清きにあらざ」と宣うなり。

11 これ御身を渡し奉るべき者を知りし召すよってなり。

12 されば、ヂシポロの足を洗い給いて後、御衣を召され、重ねて飯台に向かわせ給いて宣わく、「なしつる事を御辺達知らるなり。

13 汝達我を師匠、主とはよく名付けられたり。これ真なり。

14 師匠、主なる我さえ、足を洗いけ

4 食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。

5 それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。

6 シモン・ペトロのところに來ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」と言った。

7 イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。

8 ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。

9 そこでシモン・ペトロが言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も。」

10 イエスは言われた。「既に体を洗った者は、全身清いだから、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」

11 イエスは、御自分を裏切ろうとしている者がだれであるかを知っておられた。それで、「皆が清いわけではない」と言われたのである。

12 さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び席

うえ、^{なんだちが} 汝達互いに^{あし} 足を^{あら} 洗わ^{べし}。
 15 我、^{われ} なしつる^{ごと} 如く^{かがみ} せらるべき^{かがみ} 鑑^を
 顕^{あらわ}すなり」と^{のたま} 宣^{のち}いて後、

に着いて言われた。「わたしがあなたがたにしたことが分かるか。

13 あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。

14 ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。

15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。

Quinta feria Mandato no Eūag. (聖木曜日の洗足式の福音) p.46v

1 IESVS cono xecay yori Deus Pe. ni vatari tamo jiset chicaqu naru to xiroxi mexite, cono xecay ni ariqueru v̄ō-cata no mono-domo vo tayxet ni vomoy tamayeba, quiame ni tayxet ni vboxi mesu nari. 2 Cea suguite nochi, Iudas Escariotes no cocoro ni IESVS uo uataxi tatemaccuran to, tengu taqumarē quereba, 3 IESVS aru fodo no coto, Deus Pe. yori macaxe tamay, Deus yori indasaxerare, D's ni cayeri tamo to xiroxi mexite, 4 sono za uo tachi tamay, von-coromo vo nugasaxerare, xiroqui nuno uo vobi ni saxerare, 5 taray ni yu uo mexi yoxe, discipolo no axi uo aray tamay, vobi ni xitamo nuno vo motte, nogoy tamo. 6 Pedro ni chicazuqui tamayeba, "Ycani, Domine, v̄āga axi uo aray tamo bequi ya?" to mosare quereba, 7 IESVS, "Gofen tadaima cono gui vo xirazu to yu tomo, igo xiraruru bexi." to notamo ni, 8 Pedro "Yccu made mo vaga axi vo aray tamo becarazu." to mosare quereba, "Vare arauanu ni uoyte ua, vaga cata ni quitaruru becarazu." to notamayeba, 9 Pedro, "Ycani, Domine, axi ua mosu ni voyobazu, te uomo cobe vomo aray tamaye." to mosare quereba, 10 IESVS "Quiyoqui fito ua axi yori foca ni aro ni voyobazu. Nandachi quiyoquere domo, cotogotocu quiyoqui ni arazu." to notamo nari. 11 Core von-mi vo uataxi tatemaccuru beqi mono uo xiroxi mesu ni yotte nari. 12 Sareba, discipolo no axi vo aray tamayte nochi, v̄ō-coromo vo mesare, cassanete fanday ni mucauaxe tamayte, notamauaqu, "Naxi ccuru coto vo, gofen-tachi xiraruru nari. 13 Nandachi vare vo xixo, Aruji to ua yoqu nazuquerare tari. Core macoto nari. 14 Xixo, Aruji naru vare saye axi uo aray queru vye ua, nandachi tagay ni axi uo arauaru bexi. 15 Vare naxi ccuru gotocu xeraru bequi cagami uo arauasu nari." to notamayte nochi,

1 Pe.=Padre; v̄ō-cata =von-cata; 2 taqumarē=taquamaren; 3 Pe.=Padre; D's=Deus; 6 v̄āga=vanga;

12 v̄ō-coromo=von-coromo;

2 セア： 葡、「夕食」。

5 湯： 原典では「水」。

1 2 飯台： 「食事用の丈の高い卓」（『日葡』）。

1 5 鑑： 「善徳などの鏡、すなわち、模範」（『日葡』）。

1 ゼズス、この世界よりデウス・パ
 アデレに渡り給う時節近くなるとし
 し召して、この世界にありける御方の
 人々を大切に思い給えば、極めになお
 大切に思し召すなり。

2 省略

3 されば、ゼズス、あるほどのこと
 をデウス・パアデレより任せられ給い、
 デウスより出でさせられ、デウスに帰
 り給うと知ろし召され、

4 その座を立ち給い、御衣を脱がせ
 られ、白き布を帯にさせられ、

5 鹽に湯を召し寄せ、ヂシポロの足
 を洗い給い、帯にし給う布をもって拭
 い給う。

6 ペドロに近づき給えば、「いかに、
 ドミネ、わが足を洗い給うべきや」と
 申されければ、

7 ゼズス、「御辺、ただ今、この儀を
 知られずとも、以後知るべし」と宣
 うに、

8 ペドロ、「いつまでも我が足を洗い
 給うべからず」と申されければ、ゼズ
 ス、「我洗わぬにおいては、わが方に
 来たるべからず」と宣えば、

9 ペドロ、「いかに、ドミネ、足は申

1 さて、過越の前のことである。イ
 エスは、この世から父のもとへ移る御
 自分の時が来たことを悟り、世にいる
 弟子たちを愛して、この上なく愛し抜
 かれた。

2 省略

3 イエスは、父がすべてを御自分の
 子にゆだねられたこと、また、御自分
 が神のもとから来て、神のもとに帰ろ
 うとしていることを悟り、

4 食事の席から立ち上がって上着を
 脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれ
 た。

5 それから、たらいに水をくんで弟
 子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬ
 ぐいでふき始められた。

6 シモン・ペトロのところに来ると、
 ペトロは、「主よ、あなたがわたしの
 足を洗ってくださるのですか」と言っ
 た。

7 イエスは答えて、「わたしのしてい
 ることは、今あなたには分かるまいが、
 後で、分かるようになる」と言われた。

8 ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イ
 エスは、「もしわたしがあなたを洗わ

すにおよばず、^て手をも^{かしら}頭をも^{あら}洗い^{たま}給え」
と申されければ、

10 ゼズス、「^{きよ}清き人は^{あし}足より^{あら}外に洗う
におよばず、^{なんだちきよ}汝達清けれども、^{ことごと}悉く^{きよ}淨
きに^{のたま}あらず」と^{のたま}宣うなり。

11 ^{おんみ}これ^{わた}御身を^{たてまつ}渡し奉る^{もの}べき^し者を知ろ
し^め召す^{のたま}によってなり。

12 されば、^{あし}ヂシポロの^{あら}足を^{たま}洗い給い
て^{のち}後、^{ぎょい}御衣を^め召され、^{かさ}重ねて^{はんたい}飯台に向
かわせ^{のたま}給いて^{のたま}宣わく。「^{わたし}我、^ななしつる
ことを^{ごへん}御^し辺^したち^し知らるるなり。

13 ^{なんだちわれ}汝達^{ししやう}我を^{あるじ}師匠、^な主とは^なよく^な名^づ付け
られたり。これ^{まこと}真なり。

14 ^{ししやう}師匠、^{あるじ}主なる^{われ}我^{あし}さえ^{あら}足を^{われ}洗い^{われ}ければ、
^{なんだちが}汝達^{あら}互いに^{われ}洗^{われ}わるべし。

15 ^わこれ^{ごと}我が^{ごと}しつる^{かがみ}如く^{かがみ}せらるべき^{かがみ}鑑
を^{あらわ}顕^{のたま}すなり」と^{のち}宣^{のち}いて後、

ないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。

9 そこでシモン・ペトロが言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も。」

10 イエスは言われた。「既に体を洗った者は、全身清いだから、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」

11 イエスは、御自分を裏切ろうとしている者がだれであるかを知っておられた。それで、「皆が清いわけではない」と言われたのである。

12 さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び席に着いて言われた。「わたしがあなたがたにしたことが分かるか。

13 あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。

14 ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。

15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。

Passio Domini (主の御受難) p.63

1 IESVS cono xecay yori Deus Padre ni uataritamo jixet, chicaqu naru to xiroximexite, cono xecay ni ariqueru von-cata no fitobito uo taixet ni vomoy tamayeba, quiuameni nauo tayxet ni voboximesu nari.

3 Sareba IESVS arufodo no coto uo Deus Pe. yori macaxerare tamay, Deus yori yde saxerare, Deus ni

cayeri tamo to xiroximesare, 4 sono za uo tachi tamay, guioy uo nugaxerare, xiroqui nuno uo vobi ni saxerare, 5 taray ni yu uo mexi yoxe, discipolo no axi uo aray tamay, vobi ni xi-tamo nuno uo motte nogoy tamo. 6 Po. ni chicazuqui tamayeiba, "Ycani, Domine, vaga axi uo aray tamo bequi ya? to mosarequereba, 7 IESVS "Gofen tada-yma cono gui uo xirarezu tomo, ygo xiraru bexi." to notamo ni, 8 Po. "Yccu made mo, axi uo aray tamo becarazu." to mosare quereba, IESVS, "Vare arauanu ni uoyte ua, vaga cata ni qitaru becarazu." to notamayeba, 9 Po. "Ycani, D'ne, axi ua mosu ni voyobazu, te uomo caxira uomo aray tamaye." to mosare quereba, 10 IESVS, "Quioqi fito ua axi yori foca ni aro ni voyobazu. *Nadachi *quiyo-qiredomo, cotogotocu quioqi ni arazu." to notamo nari. 11 Core von mi uo vataxi tatemaccuru bequi mono uo xiroximesu ni yotte nari. 12 Sareba discipolo no axi uo aray tamayte nochi, guioy uo mesare, casanete fanday ni mucauaxe tamayte, notamauagu, "Vare naxiccuru coto uo gofen tachi xiraruru nari. 13 Nandachi vare uo xixo, Aruji toua yoqu nazuqe raretari. Core macoto nari. 14 Xixo, Aruji naru vare saye axi uo aray quereba, nandachi tagay ni arauaru bexi. 15 Core vaga xiccuru gotocu xeraru beqi cagami uo arauasu nari." to notamaite nochi,...

3 Pe.=Padre; 6 Po.=Pedro; 8 Po.=Pedro; 9 D'ne=Domine; 10 *nadachi=nandachi; *quiyo-qiredomo=quyo-queredomo;
この部分は、前のものと一致する。

14章

23 ゼズス、^{のたま}チシポロに^{われ}宣わく、「我^{たいせつ}を^{おち}大切に^{ともがら}思ふ輩は、^わ我が^{ことば}言葉^{たち}を保つべければ、^わ我が^{おや}親^{ひと}その^{たいせつ}人を^{おち}大切に^{たち}思ひ給うべし。また、^{われ}我^{とも}と共に^{ひと}その^き人に^{ましま}来たり^{たち}在し給うべし。

24 我^{われ}を^{たいせつ}大切に^{おち}思わぬ人は、^{ひと}我が^わ言葉^{ことば}を保たぬなり。汝^{たち}達の^{なんだち}聞か^きる事^{こと}は、^わ我が^{ことば}言葉^{あら}に^{われ}非^{つか}ず。我^{たち}を^{おんおや}遣^{おんことば}わし給^{おんことば}う御^{おんことば}言葉^{なり}なり。

25 「汝^{なんだち}達^いともに^い居^いけるとき、この^{ことば}言葉^いを^い言^いいつるなり。

26 飲^{よろこ}び^{あた}を^{たち}与^{たち}え給^{たち}うべき^{たち}スピ^{たち}リト・サ^{たち}ント^{たち}御^{おんおや}親^わより^な我が^{もつ}名^{つか}を^{たま}以^{たま}て^{たま}遣^{たま}わし給^{たま}わん^{たま}時^{たま}、^{とき}一切^{いっさい}の^{こと}事^{おし}を^わ教^わえられ、^い我が^い言^いひ

23 イエスはこう答えて言われた。

「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。

24 わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。

25 わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。

26 しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖

つる事ことを悉く見せ給うべし。
 27 汝達なんだちに無事ぶじを置き、我が無事わがぶじを
 汝達なんだちと与あうるなり。世界せかいより与あうる如
 くわれに我あた与あえず。『我行いきて汝達なんだちに来る
 べき』と言いいつる事ことを聞きかるるによつ
 て、心こころを恐おそれ乱みだるべからず。
 28 その故ゆえは、我われを大切たいせつに思おもわるるに
 おいては、我われより大おおきに在まし御親おんおやに到
 ることよろこを喜よろこばるべし。
 29 この義ぎを致いたさぬ先さきに、ただ今いま言ゆ
 なり。それを如何いかにと言ゆうに、致いたさん
 時真ときまことに受うけらるべきためなり。
 30 数多あまたの事ことを汝達なんだちに言ゆうべからず。
 されば、世界せかいの主あるじ来すこたつて、少しも我
 が上うえを進しん退たいすることあらず。
 31 その故ゆえは御親おんおやを大切たいせつに思おもい奉たてまつると
 世界せかいより見み知るために、御親おんおや我われに授さんず
 給たまうことたちを保たもつなり」と宣のたまうなり。

霊が、あなたがたにすべてのことを教
 え、わたしが話したことをことごとく
 思い起こさせてくださる。

27 わたしは、平和をあなたがたに残
 し、わたしの平和を与える。わたしは
 これを、世が与えるように与えるので
 はない。心を騒がせるな。おびえるな。

28 『わたしは去って行くが、また、あ
 なたがたのところへ戻って来る』とわ
 たしが言ったのをあなたがたは聞いた。
 わたしを愛しているなら、わたしが父
 のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。
 父はわたしよりも偉大な方だからであ
 る。

29 事が起こったときに、あなたがた
 が信じるようにと、今、その事の起こ
 る前に話しておく。

30 もはや、あなたがたと多くを語る
 まい。世の支配者が来るからである。
 だが、彼はわたしをどうすることもで
 きない。

31 わたしが父を愛し、父がお命じに
 なったとおりに行っていることを、世
 は知るべきである。さあ、立て。ここ
 から出かけよう。」

Dominica Pentecoste (聖霊御降臨大祝日の主日) p.27v

23 JESVS discipolo ni notamauacu, "Vare vo taixet ni vomo tomogara ua, vaga cotoba vo tamoccu bequereba, vaga voya sono fito vo taixet ni vomoy tamo bexi. Mata vare to tomo ni sono fito ni quitar maximaxi tamo bexi. 24 Vare vo tayxet ni vomouanu fito ua, vaga cotoba vo tamotanu nari. Nādachi no quicaruru coto ua, vaga cotoba ni arazu. Vare vo ccucauaxi tamo von-voya no von-cotoba nari." 25

Nādachi tomo ni yqueru toqui, cono cotoba vo yccuru nari. 26 Yorocobi vo ataye tamo bequi Spirito Sanc. vo voya yori vaga na vo motte, ccucauaxi tamauan toqui yssay no coto vo voxiyerare, vaga yccuru coto vo cotogotocu mixe tamo bexi. 27 Nādachi ni buji vo voqui, vaga buji vo nādachi ny atoru nari. Xecay yori atoru gotocu ni vare atayezu. 'Vare yuquite nādachi ni quitaru bequi' to yccuru coto vo quicaruru ni yotte, cocoro vo vosore midaru becarazu. 28 Sono yuye ua, vare vo taxet ni vomouaruru ni uojte va, vare yori voqui ni maximasu von-voya ni ytaru coto vo yorocobaru bexi. 29 Cono gui vo itasanu saqui ni, tadaima yunari. Sore vo ycani to yu ni, itasan toqui macoto ni vqueraru bequi tame nari. 30 Amata no coto vo nādachi ni yu becarazu. Sareba, xecay no aruji quittance, sucoximo vaga vye vo xindai suru coto arazu. 31 Sono yuye va von-voya vo taxet ni vomoy tatemaccuru to xecay yori mi xiru tame ni vō-voya vare ni sanzuque tamo coto vo tamoccu nari." to notamo nari.

24 nādachi=nandachi; 25 nādachi=nandachi; 27 nādachi=nandachi; 30 nādachi=nandachi; 31 vō-voya=von-voya;

27 無事：「平和、静穏」（『日葡』）。

30 進退：「誰であれ、人の境涯、または、支配権」（『日葡』）。

15章

17 ゼズス、ヂシポロにのたま宣わく、
なんだちたがい「汝達互いに大切にたいせつ思い合おもわるべし」
さずと授くるなり。

18 世界より憎まにくば、汝達より我われを始はじめに憎むにくと知しるべし。

19 汝達、この世界せかいの者ものなるにおいて
 は、世界より大切に思たいせつうべけれども、
せかい世界の者ものに非あらず、結句けつこ、世界より選せかいび
い出いだすによって、世界より憎にくむなり。

20 我わが言いいつる言ことば葉おもを思いだい出いさるべ
げし。下人げにんは主あるじよりも高たかきに非あらず。我われに
てき敵てきをななさば、汝達なんだちにもななすべし。我わが
ことば言ことば葉もちを用もちいば、汝達なんだちの言ことば葉もちをも用もちいる
 べし。

21 さりながら、我われ遣つかわし給たまう御方おんかたを

17 「互いに愛し合いなさい。これが
 わたしの命令である。」

18 「世があなたがたを憎むなら、あ
 なたがたを憎む前にわたしを憎んでい
 たことを覚えなさい。」

19 あなたがたが世に属していたなら、
 世はあなたがたを身内として愛したは
 ずである。だが、あなたがたは世に属
 していない。わたしがあなたがたを世
 から選び出した。だから、世はあなた
 がたを憎むのである。

20 『僕は主人にまさりはしない』と、
 わたしが言った言葉を思い出さなさい。
 人々がわたしを迫害したのであれば、
 あなたがたをも迫害するだろう。わた

見^み知^しり^{たてまつ}奉^ならぬ^なによつて、これ皆^{みな}我^わが^な名^な
 対^{たい}して^{なんだち}汝^{いた}達^{いた}にも致^{いた}す^{べし}べし。

22 もし、我^{われ}来^きたら^ず、言^{こと}葉^ばをも交^かわ
 さぬ^かにおいて^{とが}は、咎^{とが}ある^べか^らず。し
 かり^いと^えど、今^{いま}身^みの^{とん}咎^がを^は晴^はる^くる^こと
 叶^かう^べか^らず。

23 我^{われ}を^{にく}憎^{とも}む^が輩^らは、我^わが^{おん}御^お親^{おや}を^{にく}憎^{たてまつ}み^奉
 る^{なり}なり。

24 我^{われ}誰^{たれ}も^{いた}致^{しよ}さ^きぬ^{かれ}所^{なか}作^なを^{なか}彼^{なか}ら^が中^{なか}に^{なか}せ
 ぬ^かにおいて^{とが}は、咎^{とが}ある^べか^らず。今^{いま}は
 見^みながら^{われ}我^わと^{おん}我^おが^お御^お親^{おや}を^{にく}憎^{たてまつ}み^奉
 る^{なり}なり。

25 さり^{われ}なん^{にく}が^{にく}ら、我^{われ}を^{にく}ゆ^えな^く憎^む
 と^ゆ言^{こと}葉^ば、そ^おの^き掟^{きて}に^し記^しけ^るる^とを^と遂^と
 げ^がた^のめ^たなり」と^の宣^のう^{なり}なり。

しの言葉を守ったのであれば、あなたがたの言葉をも守るだろう。

21 しかし人々は、わたしの名のゆえに、これらのことをみな、あなたがたにするようになる。わたしをお遣わしになった方を知らないからである。

22 わたしが来て彼らに話さなかったなら、彼らに罪はなかったであろう。だが、今は、彼らは自分の罪について弁解の余地がない。

23 わたしを憎む者は、わたしの父をも憎んでいる。

24 だれも行ったことのない業を、わたしが彼らの間で行わなかったなら、彼らに罪はなかったであろう。だが今は、その業を見たうえで、わたしとわたしの父を憎んでいる。

25 しかし、それは、『人々は理由もなく、わたしを憎んだ』と、彼らの律法に書いてある言葉が実現するためである。

In festo Apostolorum Simonis et Iudae (聖シモン聖ユダ両使徒の祝日) p.93

17 IESVS discipolo ni notamauaqu, "Nandachi tagay ni taixet ni vomoy auaru bexi." to sazzuquru nari.
 18 Xecay yori nicūmaba *nadachi yori vare vo fajime ni nicumu to xiru bexi. 19 Nandachi cono xecay
 no mono naru ni uoyteua, xecay yori tayxet ni vomo bequerēdomo, xecay no mono ni arazu. Quetqu xecay
 yori yerabi idasu ni yotte, xecay yori nicumu nari. 20 Vaga yuccuru cotoba vo vomoy idasaru bexi.
 Guenin ua aruji yorimo tacaqui ni arazu. Vare ni tequi uo nasaba, nandachi nimo nasu bexi. Vaga cotoba
 vo *mochiyyba (mochij qeru gotocu), *nadachi no cotoba vomo mochiiru bexi. 21 Sarinagara vare
 ccuacuaxi tamo von-cata vo mixiri tatemaccuranu ni yotte, core mina vaga na ni tayxite nādachi nimo ytasu
 bexi. 22 Moxi vare quitarazu, cotoba vomo causanu ni uoyteua, toga aru becarazu. Xicari to yyedomo,
 ima mino iōga uo faruquru coto cano becarazu. 23 Vare uo nicumu tomogara ua, vaga von voya uo

nicumy tatemaccuru nari. 24 Vare taremo ytasanu (betnin no chicara ni canauanu coto uo carera ga naca ni xenu ni uojteva) xosa uo carera ga naca ni xenu ni uojteua, toga aru becarazu. Ima ua minagara vare to vaga vō-voya vomo nicumi tatemaccuru nari. 25 Sarināgara vare uo yuye naqu nicumu to yu cotoba sono voquite ni xiruxi queru uo toguen ga tame nari." to notamo nari.

18 nicūmaba=nicunmaba; *nadachi → nandachi; 19 bequerēdomo=bequerendomo;

20 *mochiybya → mochiyba; *nadachi → nandachi; 21 nādachi=nandachi; 22 tōga=tonga; 24 vō-voya=von-voya;

25 sarināgara=sarinagara;

19 結句：「むしろ、あるは、反対に」（『日葡』）。

20 下人：「従僕・家来、または、奉公人」（『日葡』）。

22 晴るくる：「自分に疑いなどを押しつけられたことから免れて、申し開きをする」（『日葡』）。

26 ゼズス、ヂシポロに宣く、「デウス・バアデレより出で給う真のスピリトを、我デウス・バアデレより汝達に遣わすべきパラケレイト来たり給う折節、我が証拠にて立たるべし。

27 汝らも初めより我と共にありければ証拠に立つべし。

16章

1 スカンダロを受けまじきために、この理を言いおくなり。

2 その故は汝達をシナゴウガより追い出だすべきのみならず、殺害すべきをデウスへ奉公すると思ふ時節到来すべし。

3 かくのごとく汝らを致すべきこと御親と我を見知らざるによってなり。

4 汝らに言うなり、その時に臨うで、我が言葉を思い出だすべきために、予てこの理を示す」と言うなり。

26 わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。

27 あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのだから、証しをするのである。

16章

1 これらのことを話したのは、あなたがたをつまづかせないためである。

2 人々はあなたがたを会堂から追放するだろう。しかも、あなたがたを殺す者が皆、自分は神に奉仕していると考える時が来る。

3 彼らがこういうことをするのは、父をもわたしをも知らないからである。

4 しかし、これらのことを話したのは、その時が来たときに、わたしが語ったということをあなたがたに思い出させるためである。」

Domina in fra octanam ascētionis (御昇天後の主日) p.26v

26 JESVS discipolo ni notamauacu, "Deus Pe. yori ide tamo macoto no Spirito vo vare Deus Pe yori *nadachi ni ccuauasu bequi Paracleto quitari tamo vorifuxi, vaga xoco nite tataru bexi. 27 *Najjira mo fajime yori vare to tomo ni ariqereba, xoco ni taccu bexi. 16/1 Scandalo vo vque majiqui tame ni, cono cotouari vo yyvoqu nari. 2 Sono yuye va nādachi vo sinagoga yori voyidasu bequi nominarazu, xetgaysu bequi vo Deus ye foco suru to vomo jixet toray su bexi. 3 Caqu no gotocu *najjira vo ytasu bequi coto *vo-voya to vare vo mixirazaru ni yotte nari. 4 Najjira ni yu nari, sono toqui ni nozode, vaga cotoba vo vomoy-idasu bequi tame ni, canete cono cotouari vo *ximezu." to notamo nari.

26 Pe.=Padre; *nadachi → nandachi; 27 *najjira → nanjira; 6/2 nādachi=nandachi;

3 *najjira → nanjira; *vo-voya → von-voya; 4 nājira=nanjira; *ximezu → ximesu;

26 パラケレイト： 羅 paracitus. もともと「側へ呼ぶ」という意味からできた語であって、「助け手」「なぐさめ主」「弁護人」などの意味で使われている。ここでは「聖霊」を表わしている。

16章

5 ゼズス、ヂシポロに宣わく、「我を遣わし給う所に帰ると雖も、汝達『いづくに行くぞ』と問われざるに、

6 この理を顕しければ心中に悲しみ満ちたり。

7 真に言うなり。我汝達のために離るること専らなり。その故は我行かずんば、飲びを与えらるるスピリト・サント来たり給うべからず。我到るにおいては、汝達にスピリト・サントを与ゆべし。

8 さればスピリト・サント来たり給う時は、咎、ジュスチイサ、ジュイゾについてこの世界を嫌き給うべし。

9 咎とは我をヒイデスに受けざるによつてなり。

5 「今わたしは、わたしをお遣わしになった方のもとに行こうとしているが、あなたがたはだれも、『どこへ行くのか』と尋ねない。

6 むしろ、わたしがこれらのことを話したので、あなたがたの心は悲しみで満たされている。

7 しかし、実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところに送る。

8 その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする。

10 ジュスティサとは御親に渡るべければ、重ねて我を見らるべからず。

11 ジュイゾとはこの世界の司早や糺し伏せられるによってなり。

12 汝達に知らすべきこと多しと雖も、今受け保ち難し。

13 真のスピリト来たり給うべき時、一切の真を汝達に教え給うべし。さればその身より宣うべからず。ただ聞かざるべき事を躓し、以後あらん事を汝ら告げ給うべし。そのゆえは、言わるべき事は我が身より受けらるべければ、我を明らかに知られ、また汝らに明らかに告げ給うべし」と宣うなり。

9 罪についてとは、彼らがわたしを信じないこと、

10 義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなること、

11 また、裁きについてとは、この世の支配者が断罪されることである。

12 言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。

13 しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。」

Dominica quarta post Pas. (復活後第四の主日) p.24v

5 JESVS discipolo ni notamauaqu, "Vare vo ccucauxi tamo tocoro ni cayeru to yyedomo, nãdachi 'izucu ni iuquzo?" to touarezaru ni, 6 cono cotouari vo aruaxi quereba, xinju ni canaximi michi tari. 7 Macoto ni yu nari. Vare nãdachi no tame ni, fanaruru coto moppara nari. Sono yuye va, vare yucazũba, yorocobi vo atayeraruru Spirito Santo quitari tamo becarazu. Vare itaru ni uoyte va nadachi ni Spu S. vo atayu bexi. 8 Sareba Spirito Sanct. quitari tamo toqui ua, toga, justica, juizo ni ccujte, cono xecay vo modoqui tamo bexi. 9 Toga toua vare vo fides ni vquezaru ni yotte nari. 10 Justica tova von-voya ni vataru bequereba, cassanete vare vo miraru becarazu. 11 Juizo tova cono xecay no ccucassa faya tadaxi fuxerere queru ni yotte nari. 12 Nandachi ni *xirazu bequi coto vovoxi to yyedomo, ima vque tamochi gataxi. 13 Macoto no Spirito quitari tamo bequi toqui, yssay no macoto vo nandachi ni voxieye tamo bexi. Sareba, sono mi yori notamo becarazu. Tada quicarur bequi coto vo aruaxi, ygo aran coto vo *naujira ccũgue tamo bexi. Sono yuye ua, yuaru bequi coto va, vaga mi yori vqueraru bequereba, vare vo aquiracani xirare, mata *naujira ni aquiraca ni ccugue tamo bexi." to notamo nari.

5 nãdachi=nandachi; 7 nãdachi=nandachi; yucazũba=yuczumba; 12 *xirazu → xirasu;

13 *naujira → nanjira; ccũgue=ccunge;

8 嫌き：「咎め、非難する」(『日葡』)。

16 ゼズス、ヂシプロ^{のたま}に宣^{われ}わく、「我
デウス・ペアデレ^{いた}に到^{すこ}るべければ少し
見^みらるべからず、また少し見^みらるべし」
と宣^{のたま}えば、

17 ギシプロ、「『デウス・ペアデレ^{いた}
に到^{すこ}るべければ、少し見^みべからず、また
少し見^みべし』と宣^{すこ}う意^{のたま}は如何^いに。

18 中^{なか}にも我^{われ}らに對^{たま}し給^{たま}ひ、『少し』と
宣^{すこ}う

19 意^{こころ}を得^えがたきと申^{もう}し合^あわせ、尋^{たず}
ね申^{もう}さんと到^{いた}されけるを、ゼズス知^しろ
し召^めして、『少し見^みべからず、少し見^み
らるべし』と宣^いいつることを議^ぎせら
れことや」。

20 真^{まこと}に汝^{なんだち}達^{なみだ}涙^{なが}を流^よして呼^よばわるべけ
れども、世^せ界^{かい}は喜^{よろこ}ぶべし。しかれども
汝^{なんだち}達^{かな}の悲^{かな}しみは喜^{よろこ}びなり替^かわるべし。

21 譬^{たと}えば女^{にょ}人^{にん}産^{さん}に臨^{のぞ}まば、我^{われ}が時^{とき}来^{きた}
る上^うに哀^{あな}しむと雖^いも、産^うみ終^おわれば、
世^せ界^{かい}に人^{ひと}生^{しょう}ずる喜^{よろこ}びにそ^{しん}の辛^{しん}勞^{ろう}を忘^{わす}る
るなり。

22 その如^{ごと}く、今^{いま}汝^{なんだち}達^{だち}一^{いつ}旦^{たん}悲^{かな}しみを受^う
けらるると雖^いも、重^{かさ}ねて我^{われ}見^みべければ
喜^{よろこ}ぶるべし。その喜^{よろこ}びを奪^{うば}い取^とる者^{もの}あ
るべからず』と宣^{のたま}うなり。

16 「しばらくすると、あなたがたは
もうわたしを見なくなるが、またしば
らくすると、わたしを見るようになる。」

17 そこで、弟子たちのある者は互い
に言った。「『しばらくすると、あな
たがたはわたしを見なくなるが、また
しばらくすると、わたしを見るように
なる』とか、『父のもとに行く』とか
言っておられるのは、何のことだろう。」

18 また、言った。「『しばらくすると』
と言っておられるのは、何のことだろ
う。何を話しておられるのか分からな
い。」

19 イエスは、彼らが尋ねたがってい
るのを知って言われた。「『しばらく
すると、あなたがたはわたしを見なく
なるが、またしばらくすると、わたし
を見るようになる』と、わたしが言っ
たことについて、論じ合っているのか。

20 はっきり言うておく。あなたがた
は泣いて悲嘆に暮れるが、世は喜ぶ。
あなたがたは悲しむが、その悲しみは
喜びに変わる。

21 女は子供を産むとき、苦しむもの
だ。自分の時が来たからである。しか
し、子供が生まれると、一人の人間が
世に生まれ出た喜びのために、もはや
その苦痛を思い出さない。

22 ところで、今はあなたがたも、悲
しんでいる。しかし、わたしは再びあ

あなたがたと会い、あなたがたは心から
喜ぶことになる。その喜びをあなたが
たから奪い去る者はいない。

Dominica 3a post Pacha (御復活後の第三主日) p.24

16 JESVS discipolo ni notamauaqu, "Vare D's Pe. ni itaru bequereba, sucoxi miraru becarazu. Mata sucoxi miraru bexi." to notamayeba, 17 discipolo "'Deus Pe. ni itaru bequereba, sucoxi mi becarazu, mata sucoxi mi bexi.' to notamo cocoro ua ycani? 18 Naca nimo varera ni taixi tamaj, 'sucoxi' to notamo 19 cocoro vo yegataqui." to moxi avaxe, tazune mosã to itasare queru vo, JESVS xiroximexite, "'Sucoxi mi becarazu, sucoxi miraruru bexi.' to yycuru coto vo gui xerare coto ya. 20 Macoto ni *nadachi namida vo nagaxite yobauaru bequeredomo, xecay ua yorocobu bexi. Xicaredomo nandachi no canaximi ua yorocobi nari cauaru bexi. 21 Tatoyeba nhonin san ni nozomaba, vaga toqui quitaru vye ni canaximu to yyedomo, vmi vouare ba, xecay ni fito xozuru yorocobi ni, sono xinro vo vasururu nari. 22 Sono gotocu ima nãdachi ittan canaximi vo vqueraruru to yyedomo, casanete vare mi bequereba, yorocobaru bexi. Sono yorocobi vo vbay toru mono aru becarazu." to notamo nari.

16 D's Pe.=Deus Padre; 17 Pe.=Padre; 19 mosã=mosan; 20 *nadachi → nandachi; 22 nãdachi=nandachi;

23 ゼズスデシポロに^{のたま}宣わく、「真^{まこと}に
言^いうなり。何事^{なにごと}なりとも我^わが名^なを以^{もつ}て
御親^{おんおや}に請^こい申^{もう}されば賜^{たま}わるべし。

24 今^{いま}まで我^わが名^なを以^{もつ}て、請^こい申^{もう}さる
ることなしと雖^{いえど}も、汝^{なんだち}達の喜^{よろこ}びを遂^とげ
んがために、請^こい申^{もう}さるるにおいては、
受^うけ取^とらるべし。

25 されば譬^{たと}いを以^{もつ}て、この儀^ぎを述^{のん}ぶ
ると雖^{いえど}も、譬^{たと}えを取^とらずして、御親^{おんおや}の
御内証^{ごないしよう}を明^{あき}らかに顯^{あらわ}すべき時^じ節^せ近^{つちか}づき
ければ、

26 その日^ひ我^わが名^なを以^{もつ}て、請^こい申^{もう}さる
べし。我^{われ}汝^{なんだち}達^{うえ}の上^{おんおや}を御親^{もう}に申^{かな}し叶^{かな}ゆべ
きと言^いうには非^{あら}ず。

27 その故^{ゆえ}は汝^{なんだち}達^{われ}我^いデウスより出^いでた

23 「・・・。はっきり言っておく。
あなたがたがわたしの名によって何か
を父に願うならば、父はお与えになる。

24 今までは、あなたがたはわたしの
名によっては何も願わなかった。願ひ
なさい。そうすれば与えられ、あなた
がたは喜びで満たされる。」

25 「わたしはこれらのことを、たと
えを用いて話してきた。もはやたとえ
によらず、はっきり父について知らせ
る時が来る。

26 その日には、あなたがたはわたし
の名によって願うことになる。わたし
があなたがたのために父に願ってあげ
る、とは言わない。

ることをヒイデスに^う受け、^{われ}我を^{たいせつ}大切に
^{おも}思^{おほ}わ^める^める^めによ^{おほ}って、^{おん}御^{おん}親^{おん}汝^{おん}達^{おん}を^{たいせつ}大切に
 思^{おほ}し^め召^めす^めなり。

28 我^{われ}御^{おん}親^{おん}より^{おん}この^{おん}世界^{おん}に^{おん}来^{おん}たり^{おん}ぬ^{おん}れ
 ば、^{いま}今^{いま}この^{いま}世界^{いま}を^{いま}差^{いま}し^{いま}置^{いま}いて、^{おん}御^{おん}親^{おん}に
^{かえ}帰^{かえ}る」^のと^の宣^のい^のければ、

29 デシ^{いま}ポ^{いま}ロ、^た「今^たこ^たそ^た譬^たえ^たなく^た明^たら^たか
 に^の宣^のう^のな^のれ、^い一^い切^いの^い事^いを^い知^いろ^いし^い召^いす^いと、
 た^{いま}だ^{いま}今^{いま}弁^{いま}へ^{いま}申^{いま}し^{いま}ければ、

30 御^{おん}身^{おん}に^{おん}尋^{おん}ね^{おん}奉^{おん}る^{おん}及^{おん}ば^{おん}ぬ^{おん}なり。この
 儀^ぎを^{もつ}以^{もつ}て^{もつ}御^{おん}身^{おん}デ^{おん}ウス^{おん}より^{おん}出^{おん}で^{おん}給^{おん}う^{おん}こと
 を^うヒ^うイ^うデ^うス^うに^う受^うけ^う奉^うる」^のと^の申^のされ^のけ^のる
 なり。

27 父御自身が、あなたがたを愛して
 おられるのである。あなたがたが、わ
 たしを愛し、わたしが神のもとから出
 て来たことを信じたからである。

28 わたしは父のもとから出て、世に
 来たが、今、世を去って、父のもとに
 行く。」

29 弟子たちは言った。「今は、はつき
 りとお話しになり、少しもたとえを用
 いられません。

30 あなたが何でもご存じで、だれも
 お尋ねする必要のないことが、今、分
 かりました。これによって、あなたが
 神のもとから来られたと、わたしたち
 は信じます。」

Dominica quinta post Pascha (御復活後第五の主日) p.25v

23 JESVS discipolo ni notamauaqu, "Macoto ni yu nari, nani-goto nari tomo, vaga na vo motte, von voya ni coj mosareba, tamauaru bexi. 24 Yma made vaga na vo motte, coi mosaruru coto naxi to yyedomo, nãdachi no yorocobi vo toguen ga tame ni, coy mosaruru ni uoyte va, vquetoraru bexi. 25 Sareba tatoy vo motte cono gui vo nõburu to yyedomo, tatoye vo torazuxite, von-voya no go-nayxo uo aquiraca ni arauasu bequi jixet chicazuqui quereba, 26 sono fi vaga na vo motte coy mosaru bexi. Vare *nadachi no vye vo von-voya ni moxi canayu bequi to yu niua arazu. 27 Sono yuye va nãdachi vare D's yori ydetaru coto vo fides ni vque, vare no taixet ni vomouaruru ni yotte, von-voya *nadachi vo taixet ni vboximesu nari. 28 Vare von-voya yori cono xecay ni quitari nureba, ima cono xecay vo saxivoyte, von-voya ni cayeru." to notamay quereba, 29 discipolo, "Ima cosso tatoye naqu aquiraca ni notamo nare, yssay no coto vo xiroximesu to tadaima vaquimaye moxi quereba, 30 v̄o-mi ni tazune tatemaccuru voyobanu nari. Cono gui vo motte, von-mi Deus yori yde tamo coto vo fides ni vque tatemaccuru." to mosare queru nari.

24 nãdachi=nandachi; 25 nõburu=nonburu; 26 *nadachi → nandachi; 27 nãdachi=nandachi; D's=Deus; *nadachi → nandachi; 30 v̄o-mi=von-mi;

25 御内証：「内心、または、意志」(『日葡』)。

18章

1 ゼシポロを召し連れられ、セドロ
ンと言う川を渡り給い、ゼシポロとも
に森の内に差し入り、宣いけるは、

1 こう話し終わると、イエスは弟子
たちと一緒に、キドロンの谷の向こう
へ出かけて行かれた。そこには園があ
り、イエスは弟子たちとその中に入ら
れた。

Passio Domini (主の御受難) p.64

1 Discipolo uo mexi ccurerare, Cedron to yu caua uo uatari tamay, discipolo tomo ni, mori no vchi ni saxi yri, notamay queru ua,

1 森： 当時から庭園はあったであろうが、一般の公園はなかったのであろうか。「鎮守の森」のよ
うな木の繁った場所をイメージしたのであろう。

4 ゼズス御身の上にあるほどの事を
知ろし召され、ジュデウら来たれる途
に出で向かわせ給い、「誰を尋ねらる
るぞ」と宣えば、

4 イエスは御自分の身に起こることを
何もかも知っておられ、進み出て、
「だれを捜しているのか」と言われた。

5 「ナザレトのゼズス」と答うるに、
「我なり」と宣う。折節、ジュダス以
下の者共御言葉を承り、

5 彼らが「ナザレのイエスだ」と答
えると、イエスは「わたしである」と
言われた。イエスを裏切ろうとしてい
たユダも彼らと一緒にいた。

6 後退り仰げに転びけるなり。
7 重ねて、「誰を尋ねらるるぞ」と宣
えば、「ナザレトのゼズス」と答う。

6 イエスが「わたしである」と言わ
れたとき、彼らは後ずさりして、地に
倒れた。

8 ゼズス、「我既に露わしければ、
我を訪ねらるるにおいては、我ととも
に来たれる者共を帰されよ」と宣う。

7 そこで、イエスが「だれを捜して
いるのか」と重ねてお尋ねになると、
彼らは「ナザレのイエスだ」と言った。

9 これスキリツウラに、「我に賜る者
を一人も失わざる」とのポロヘシヤを
遂げさせられんためなり。

8 すると、イエスは言われた。
「『わたしである』と言ったではない
か。わたしを捜しているのなら、この

10 ペドロ^{けんぬ}剣を抜き、ポンチヒセの
 郎等^{ろうどう}マルコと言う者^ゆの右^{もの}の耳^{みぎ}を切り離^{みみ}
 さるれば、

11 ゼズス、「ペドロ、^{けん}剣を^{さや}鞘^さに差され
 よ。御親^{おんおや}より我^{われ}に与え給^{あた}うカリスを、
 我^{われ}飲^{のぞ}むことを望^{のぞ}まれざるや」。

人々は去らせなさい。」

9 それは、「あなたが与えてくださった人を、わたしは一人も失いませんでした」と言われたイエスの言葉が実現するためであった。

10 シモン・ペトロは剣を持っていたので、それを抜いて大祭司の手下に打ってかかり、その右の耳を切り落としました。手下の名はマルコスであった。

11 イエスはペトロに言われた。「剣をさやに納めなさい。父がお与えになった杯は、飲むべきではないか。」

Passio Domini (主の御受難) p.65v

4 IESVS von-mi no vye ni aru fodo no coto uo xiroxi mesare, Iudeu-ra quitareru michi ni yde mucauaxe tamay, "Tare uo tazune-raruruzo?" to notamayeba, 5 "Nazaret no IESVS!" to cotoru ni, "Vare nari," to notamo. Vorifuxi, Iudas ygue no mono-domo mi-cotoba uo vquetamauari, 6 vxiro xizari noque ni, corobi-queru nari. 7 Casanete, "Tare uo tazuneraruru zo?" to notamayeba, "Nazaret no IESVS!" to coto. 8 IESVS, "Vare sude ni aravaxi quereba, vare uo tazuneraruru ni uoite ua, vare to tomo ni quitareru mono-domo uo cayesareyo." to notamo. 9 Core scriptura ni, "Vare ni tamauaru mono uo ychinin mo vxinauazaru." to no profesia uo togue saxeraren tame nari. 10 Po. quen uo nuqui, pontifice no rodo Malco to yu mono no migui no mimi uo quiri fanasareba, 11 IESVS, "Pedro, quen uo saya ni sasareyo. Von-voya yori vare ni ataye tamo calix uo, vare nomu coto uo nozomarezaru ya?"

10 Po.=Pedro;

6 後しざり：『日本語国語大辞典』に「うしろじさり」の見出しがあり、「前を向いたまま後ろへさがること、あとじさり」とある。同辞書の「あとじさり」の項には、「あとしさり、あとしざり」とも言うところあり、さらに、あとずさり、に同じ」とある。

仰けに：「のけざまに、あおのけに」(『新潮』)。全体では「後ずさりして、仰反って(のけぞる)倒れた」の意。

1 0 郎等：「ある主君の臣下たる武士」(『日葡』)。

1 1 カリス：calix。「杯」

13 されば、^{サセルドーテ}ジュデウらサセルダウテ

13 まず、アンナスのところへ連れて

つかさ しょうと もと
の司カイハスの姑アナスの許へゼズス
ひ たてまつ
を曳き奉れば、

行った。彼が、その年の大祭司カイア
ファのしゅうとだったからである。

Passio Domini (主の御受難) p.67

13 Sareba Judeura sacerdote no ccucassa Cayfas no xuto Anas no motoye IESVS uo fiqui tatemaccureba,
姑：「キ研』では、「衆と」。

15 ペドロともに一人のヂシポロ遙か
へだ
に隔たり、ゼズスを見送り参られける
み おく まい
なり。かの一人のヂシポロはアナスを
いちにん
知る人にて、ゼズスとともに奥に入ら
し ひと おく い
れ、

15 シモン・ペトロともう一人の弟子
は、イエスに従った。この弟子は大祭
司の知り合いだったので、イエスと一
緒に大祭司の屋敷の中庭に入ったが、

16 門の役者に断り、ペドロをも内へ
もん やくしゃ ことわ うち
入れられたるなり。

16 ペトロは門の外に立っていた。大
祭司の知り合いである、そのもう一人
の弟子は、出て来て門番の女に話し、
ペトロを中に入れた。

Passio Domini (主の御受難) p.67

15 Pedro tomo ni ichinin no discipolo faruca ni fedatari, IESVS uo miuoquri mayrare queru nari. Cano
ychinin no discipolo ua Anas uo xiru fito nite, IESVS to tomo ni voqu ni yrare, 16 mon no yacuxa ni
cotouari, Pedro uomo vchi ye yrerare taru nari.

15 アナスを知る人： このヂシポロは「ヨハネ」（チオアン）とされている。

16 役者： 「何か役目にたざさわる人」（『日葡』）。

19 その時、アナス出で合い、御教え
とき い あ おんおし
とヂシポロのことを問い申さるれば、

19 大祭司はイエスに弟子のことや教
えについて尋ねた。

20 ゼズス、「我世界に現れて知らせ、
われせ かい あらわ し
テンポロ、シナゴウガにおいて諸々の
ところ つね おし かく
ジュデウ集まる所にて常に教え、隠し
いちごん い
て一言を言わざりければ、

20 イエスは答えられた。「わたしは、
世に向かって公然と話した。わたしは
いつも、ユダヤ人が皆集まる会堂や神
殿の境内で教えた。ひそかに話したこ
とは何もない。

21 我に問わるるまでもなし。この
われ と
人々に尋ねられよ。言いける事を聞か
ひとびと たざ い こと き
れし人々答えられん」と宣うところを、
ひとびとた たも

21 なぜ、わたしを尋問するのか。わ
たしが何を話したかは、それを聞いた

22 アナスの^{ろうどう}郎等、「ポンチヒセに^{たい}対して左様に^{さよう}返答し^{へんとう}けるか」とて^{おんかお}御顔を^う打ち^{たてまつ}奉れば、

23 ゼズス、「我^{われ}言^いいける事^{こと}悪^あしきならば、その理^{ことわり}を言^いわれよ。良^よきならば、何^{なに}とて我^{われ}を打^うたれ^おけるぞ」と仰^{おほ}せければ、

24 搦^{から}め申^{もう}ししながら、棟梁^{とうりょう}なるカイハスの^{もと}許^ひへ^{たてまつ}曳^ひき奉^{たてまつ}るなり。

人々に尋ねるがよい。その人々がわたしの話したことを知っている。」

22 イエスがこう言われると、そばにいた下役の一人が、「大祭司に向かつて、そんな返事のしかたがあるか」と言っ、イエスを平手で打った。

23 イエスは答えられた。「何か悪いことをわたしが言ったのなら、その悪いところを証明しなさい。正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか。」

24 アンナスは、イエスを縛ったまま、大祭司カイアファのもとに送った。

Passio Domini (主の御受難) p.67

19 Sono toqui Anas ideay, von-voxiye to discipolo no coto uo toy mosarureba, 20 IESVS "Vare xecay ni arauarete xiraxe, templo, sinagoga ni uojte, moromoro no Judeu accumaru tocoro nite, ccune ni voxiye, caquxite ychigon uo yuazari quereba, 21 vare ni touaruru made mo naxi. Cono fitobito ni tazune rareyo. Iyqeru coto uo quiqarexi fitobito cotaye raren." to notamo tocoro uo, 22 Anas no rodo, "Pontifice ni tayxite, sayo ni fento xiqueru ca?" tote von-cauo uo vchi tatemaccureba, 23 IESVS "Uare iyqeru coto axiqui naraba, sono cotouari uo yuareyo. Yoqi naraba, nani tote, vare vo vtare qeruzo?" to voxe-quereba, 24 carame moxi nangara tôriô naru Caifas no moto ye fiqui tatemaccuru nari.

24 棟梁：「ある職業、特に大工などの頭、あるいは、長」(『日葡』)。

28 さるほどに、^{もと}ジデウら^ひピラトス^{わた}の^み許^ひへ^{たてまつ}ゼズスを^お引き^い渡し、その^う身は^うパスコアの^{ぶく}コルデイロ^{けんが}を^う服^うする^う穢^うれ^うを受^うけ^うま^うじ^うき^うとて、^{おく}奥^いへ^い入^いら^いざ^いり^いければ、

29 ^いピラトス^む出^うで^う向^うかい、「^うゼズス^うの上^うに^な何^なたる^な題^な目^なを^な訴^なえ^な申^なさ^なる^なぞ」と^と問^とわれ^とければ、

30 ^{ざいかにん}ジデウら、「^{わた}罪^も科^も人^{いら}にあらずんば、^{わた}いか^もで^もか^もか^もよ^もう^もに^も渡^もし^も申^もす^もべき」と^{いら}応^{いら}

28 人々は、イエスをカイアファのところから総督官邸に連れて行った。明け方であった。しかし、彼らは自分では官邸に入らなかった。汚れないで超越の食事をするためである。

29 そこで、ピラトが彼らのところへ出て来て、「どういう罪でこの男を訴えるのか」と言っ、

30 彼らは答えて、「この男が悪いこと

えけるなり。

31 ピラトス、「面々^{めんめん}のもとへ引^ひ具^ぎして、
 おきて^{おきて}掟^{ぎゆうめい}のごとく糾^{きう}明^{めい}あれ^{もう}と申^{もう}されければ、
 サセル^{サセル}ドーテ^{ドーテ}、人^{ひと}を殺^{ころ}すこと我^{われ}らに
 似^に合^あわぬ儀^ぎなり」と申^{もう}しけるなり。

32 これすなわちゼズス^し死^{した}し給^{たま}うべき
 世^よを知^しらせ給^{たま}うことを遂^とげさせられん
 ためなり。

をしていなかったら、あなたに引き渡
 しはしなかったでしょう」と言った。

31 ピラトが、「あなたたちが引き取っ
 て、自分たちの律法に従って裁け」と
 言うと、ユダヤ人たちは、「わたした
 ちには、人を死刑にする権限がありま
 せん」と言った。

32 それは、御自分がどのような死を
 遂げるかを示そうとして、イエスの言
 われた言葉の実現するためであった。

Passio Domini (主の御受難) p.69v

28 Sarufodo ni, Iudeu-ra Pilatos no motoye IESVS uo fiqui uataxi, sono mi ua paschoa no cordeiro uo buqusuru quēgare uo vque majiqi tote, voqu ye yrazari quereba, 29 Pilatos ide mucay, "IESVS no vye ni nani taru daymocu uo vttaye mosaruru zo?" to touare quereba, 30 Iudeura zayquanin ni arazumba, ycadeca cayo ni vataxi mosu beqi?" to yraye qeru nari. 31 Pilatos menmen no moto ye fiqiguxite, voquite no gotocu quiuamey are." to mosare quereba, sacerdote, "Fito uo corosu coto, varera ni niauanu gui nari." to moxi qeru nari. 32 Core sunauachi IESVS xixi tamō bequi yo uo xiraxe tamō coto uo togue saxerare tame nari.

28 quēgare=quengare; 32 saxerare=saxeraren;

29 題目：「条件、箇条」(『新潮』)。

30 罪科人：「罪人」(『日葡』)。

31 引き具し：「(群勢を引率する)」(『日葡』)。

糾明：「裁判、または、審問」(『日葡』)。

36 ゼズス、「我が国^{わくに}はこの世界^{せかい}より
 出^いでず。そのゆえは、この世界^{せかい}より出^い
 ずる国^{くに}なるにおいては、ジデウ^{わた}に渡^{わた}
 すまじきために、我^{われ}に仕^{つか}へける者^{もの}ども
 障^{ささ}りゆべし。さりながら、我が国^{わくに}はこの
 世界^{せかい}より出^いでず」と宣^{のたま}えば、

37 ピラトス、「しからば帝王^{ていおう}にて在^{ましま}す

36 イエスはお答えになった。「わた
 しの国は、この世には属していない。
 もし、わたしの国がこの世に属してい
 れば、わたしがユダヤ人に引き渡され
 ないように、部下が戦ったことだろう。
 しかし、実際、わたしの国はこの世に
 はこの世には属していない。」

や」と申されければ、ゼブス「我を
帝王とは御辺申さるるなり。この世界
に生まれ来たることは、真を顕す証拠
に立つべきためなり。真を用いる輩は、
我が言葉を聞くなり」と答え給う。

38 ピラトス、「真とは何事ぞ」と申し
捨て、

重ねて、ジュデウに出で合い、「彼
の人に少しも咎の題目なし」と申され
ければ、

37 そこでピラトが、「それでは、やは
り王なのか」と言うと、イエスはお答
えになった。「わたしが王だとは、あ
なたが言っていることです。わたしは
真理について証しをするために生まれ、
そのためにこの世に来た。真理に属す
る人は皆、わたしの声を聞く。」

38 ピラトは言った。「真理とは何か。」
ピラトは、こう言ってからもう一度、
ユダヤ人たちの前に出て来て言った。
「わたしはあの男に何の罪も見いだせ
ない。」

Passio Domini (主の御受難) p.70

36 IESVS, "Vaga cuni ua cono xecay yori idezu. Sono yuye va, cono xecay yori izzuru cuni naru ni uojteua Judeu ni uatassu majiqui tame ni, vare ni ccucaye queru mono-domo sasayu bexi. Sarinagara vaga cuni va cono xecay yori idezu." to notamayeba, 37 Pilatos, "Xicaraba, Teyuð nite maximasu ya?" to mosare quereba, IESVS, "Vare uo teyuo toua gofen mosaruru nari. Cono xecay ni vmare quitaru coto ua, macoto uo arauasu xoco ni taccu bequi tame nari. Macoto uo mochijru tomogara ua vaga cotoba uo quiqu nari." to cotaye tamo. 38 Pilatos, "Macoto toua, nani gotozo?" to moxi sute, casanete, Judeu ni ideay, "Cano fito ni sucoxi mo toga no daymocu naxi." to mosare qereba,

3 6 障ゆ：「さし止める、あるいは、阻止する」(『日葡』)。

3 7 証拠に立つ：「証しする」。

3 8 申し捨て：原典には、「捨て」の意味は含まれていない。

19章

5 ただ今、ここへ出し奉るとて、赤
き衣装、棘の輪を召されながら、万民
の前に引き出し、ピラトス、「この人
を見られよ」と申されければ、

5 イエスは茨の冠をかぶり、紫の服
を着けて出て来られた。ピラトは、
「見よ、この男だ」と言った。

6 祭司長たちや下役たちは、イエス

6 ポンチヒセスを先として、雑人原
 に至るまで、御有様を見奉り、なお
 大音声^{だいおんじょう}を響^{ひび}かせて、「クルスに掛けら
 れよ」と声々に喚き叫びけるなり。そ
 のとき、ピラトス、「我ゼズスを害し
 奉るべき道理なし。面々受け取って、
 クルスに掛けられよ」と申されければ、
 7 ジュデウ、「その身デウス・ヒイリ
 ヨと言わる上は、我らが法度に害す
 ること専らなり」と申しければ、

8 ピラトス、このことを聞かれ、恐
 れをなし奉り、

9 重ねて奥に入り、ゼズスに「御辺
 はいづくより来たり給うぞ」と問い奉
 られけれども、とこの御返事し給わ
 ねば、

10 ピラトス申されけるは、「クルスに
 掛け奉ることも、免し申すべきことも、
 某が計らいなるに、何とて、御返事な
 きぞ」と申されければ、

11 ゼズス、「上より免されずんば、我
 を計ろうこと叶わるべからず。我を渡
 す者の咎はなお深き」と宣うなり。

12 そのとき、ピラトスなおゼズスを
 免し申すべき道を求められけれども、
 ジュデウら大音声上げ、「ゼズスを免
 し給うなれば、セザルの御方にてある
 べからず。そのゆえは、我が身を帝王
 と顕す人は皆セザルの朝敵なり」と申
 しければ、

を見ると、「十字架につけろ。十字架
 につけろ」と叫んだ。ピラトは言った。
 「あなたたちが引き取って、十字架に
 つけるがよい。わたしはこの男に罪を
 見いだせない。」

7 ユダヤ人たちは答えた。「わたした
 ちには律法があります。律法によれば、
 この男は死罪に当たります。神の子と
 自称したからです。」

8 ピラトは、この言葉を聞いてます
 ます恐れ、

9 再び総督官邸の中に入って、「お前
 はどこから来たのか」とイエスに言っ
 た。しかし、イエスは答えようとされ
 なかった。

10 そこで、ピラトは言った。「わたし
 に答えないのか。お前を釈放する権限
 も、十字架につける権限も、このわた
 しにあることを知らないのか。」

11 イエスは答えられた。「神から与え
 られていなければ、わたしに対して何
 の権限もないはずだ。だから、わたし
 をあなたに引き渡した者の罪はもっと
 重い。」

12 そこで、ピラトはイエスを釈放し
 ようと努めた。しかし、ユダヤ人たち
 は叫んだ。「もし、この男を釈放する
 なら、あなたは皇帝の友ではない。王
 と自称する者は皆、皇帝に背いていま
 す。」

13 ピラトスこの訴え聞かれ、ゼズスを引き出し奉り、その身は守護の役として、リコストラトスに座せられける。これをエブライカの言葉にはガバタと言うなり。

14 折節、パスコアのセスタ・ヘイラ、セスタ時の前なるに、ジュデウに、「面々の帝王はこれなり」と申されければ、

15 ジュデウら怒れる声をもって、「そこ退け給え、退け給え、クルスに掛けられよ」と言いければ、「御迎たちの帝王をクルスに掛くべきや」と申されけるに、ジュデウら、「我セザルより他に帝王を持たず」と言いけるなり。

16 そのとき、ピラトス、ゼズスをクルスに掛け奉るべきに到着して、ジュデウの望みに任せ、渡し申されければ、

13 ピラトは、これらの言葉を聞くと、イエスを外に連れ出し、ヘブライ語でガバタ、すなわち「敷石」という場所で、裁判の席に着かせた。

14 それは過越祭の準備の日の、正午ごろであった。ピラトがユダヤ人たちに、「見よ、あなたたちの王だ」と言うとき、

15 彼らは叫んだ。「殺せ。殺せ。十字架につけろ。」ピラトが、「あなたたちの王をわたしが十字架につけるのか」と言うと、祭司長たちは、「わたしたちには、皇帝のほかには王はありません」と答えた。

16 そこで、ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。

Passio Domini (主の御受難) p.72v

5 Tada ima coco ye ydaxi tatemaccuru tote, acaqi yxo, ybara no va uo mesare nagara, banmin no maye ni fiqiu idaxi, Pilatos, "Cono fito uo mirareyo!" to mosare quereba, 6 pontifices uo saqui toxite, zoninbara ni ytaru made, von-arisama uo mi tatemaccuri, nauo dayvonjo uo fibicaxete, "Crus ni caquerareyo!" to coye-goye ni vamequi saquebi qeru nari. Sono toqui Pilatos, "Vare IESVS uo gayxi tatemaccuru bequi dori naxi. men-men vquetotte, crus ni caquerareyo." to mosare quereba, 7 Judeu "Sono mi Deus Filho to yuaruru vye ua varera ga fatto ni gaysuru coto moppara nari." to moxiqereba, 8 Pilatos, cono coto uo quicare, vosore uo naxi tatemaccuri, 9 casanete vocu ni yri, IESVS ni, "Gofen ua yzucu yori qitari tamozo?" to toy tatemaccurare queredomo, toco no von-fenji xitamauaneba, 10 Pilatos mosare qeru ua, "Crus ni caque tatemaccuru coto mo, yuruxi mosu beqi cotomo, soregaxi ga facaraj naru ni, nani tote von-fenji naqui zo?" to mosare quereba, 11 IESVS, "Vye yori yurusare-zumba, vare uo facaro coto canauaru becarazu. Vare uo vatasu mono no toga ua nauo fucaqi." to notamo nari. 12 Sono toqui Pilatos nauo IESVS uo yuruxi mosu bequi michi uo motomerare queredomo, Iudeu-ra dayvonjo ague, "IESVS uo yuruxi tamo nareba, Cesar no micata nite aru becarazu. Sono yuye ua vaga mi uo teyuō to

arauasu fito ua mina Cesar no chotequi nari." to moxi quereba, 13 Pilatos cono vttaye quicare, IESVS uo fiqiu idaxi tatemaccuri, sono mi ua xugo no yaqu to xite, Licostratos ni zaxerare queru. Core uo Hebrayca no cotoba niua Gabbata to yu nari. 14 Vorifuxi Paschoa no sexta feira sexta doqui no maye naru ni, Iudeu ni "Menmen no teyvô ua corenari." to mosare quereba, 15 Iudeu-ra ycareru coye uo motte, "Soco noque tamaye! Noque tamaye! Crus ni caquerareyo!" to iy quereba, "Gofen tachi no teyuo uo crus ni caqu bequiya?" to mosare queruni, Iudeu-ra, "Vare Cesar yori foca ni teyuo uo motazu." to iy qeru nari. 16 Sono toqui Pilatos, IESVS uo crus ni caque tatemaccuru beqi ni raquijaqu xite, Judeu no nosomi ni macaxe uataxi mosare quereba,

5 赤き衣装：

この人を見られよ： 羅 Ecce Homo として知られている言葉。homo は hominem（対格）ではなくて、homo（主格）が用いられているので、誤訳。（「この人を見よ」ではなく、「見よ、この人だ」が正しい）。

9 とうこう： 「これこれかように、または、どんなふうにせよ」（『日葡』）。

1 2 御方： 「味方・側」（『日葡』）。

セザル： Cesar。「カエサル、シーザー、ローマ皇帝」。

朝敵： 「国王の敵」（『日葡』）。

1 3 守護： 「統治者、あるいは、長官」（『日葡』）。

リコストラトス： 羅 lithostrotos。「石畳」。本来ならば「リストラトス」となるはずである。

ガバタ： Gabbatha。上記のヘブライ語。

1 4 セスタ・ヘイラ： 第六日

セスタ時： 第六時

1 6 落着： 「決定すること、または、判決を下すこと」（『日葡』）。

18 クルスに掛^か申^{もう}すなり。次^{つぎ}に盗^{ぬす}人^{びと}二人^{ににん}クルスに掛^かけ、御^{おん}左^{ひだり}右^{みぎ}に立^たて並^{なら}べ、ゼズスの御^{おん}クルスをその真^{まん}中^{なか}に立^たてけるなり。

19-20 そのとき、ピラトス、小^{ちい}さき板^{いた}に、「ナザレトのゼズス、ユダヤの帝王^{ていおう}なり」と、エブライカ、グレカ、ラチイナこの三^み様^{さま}の字^じをもつて、書^かき付^つけ、ゼズスの御^{おん}クルスの上^{うへ}に打^うち付^つけらるるなり。

21 されば諸^{もろもろ}々のサセル^{サセル}ダウテ、ピラ

18 そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。

19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあった。

20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、へ

トスの許^{もと}に行^ゆいて、「帝^{ていおう}王^かと書^かき給^{たま}うべからず。『その身^みジユデウの帝^{ていおう}王^かと

言^いわれける』と書^かき給^{たま}え」と申^{もう}しければ、

22 ピラトス、「書^かくことを書^かく」とありけるなり。

23 されば、クルスの番^{ばん}していける者^{もの}ども、ゼズスの御^{おんいしやう}衣^よ装^わを四^よつに分^わけて取^とり、縫^ぬい目^めなき一^{ひと}つの御^ぎ衣^いの上^{うへ}を申^{もう}し合^あいけるは、

24 「これを分^わけて取^とるべからず、ただ符^ふの勝^{しょう}劣^{れつ}に任^{まか}せよ」とて籤^{くじ}取^とりに致^{いた}しけるなり。これをもつて、「我^わが衣^い装^{しやう}を分^わけて取^とり、我^わが衣^い装^{しやう}を籤^{くじ}取^とりすべし」とのポロヘシヤを遂^とげ給^{たま}うなり。

25 さるほどにクルスのもとに御^{おんはわ}母^ぼサ^んタ・マリヤ御^ご姉^{しやう}妹^{だい}のマリヤ・クレオへ、マリヤ・マグダネラ立^たち並^{なら}びて居^い給^{たま}えば、

26 ゼズス御^{おんはわ}母^ぼと御^ご大^{たい}切^{せつ}に思^{おぼ}し召^めすヂシポロを御^ご覧^{らん}あつて、サンタ・マリヤに、「いかに、女^{にょ}人^{にん}、その身^みの子^こを見^みられよ」と宣^{のたま}い、

27 ギシポロに、「汝^{なんじ}の母^{はわ}はこれなり」と宣^{のたま}えば、それよりヂシポロ、サンタ・マリヤを御^{おんはわ}母^ぼと崇^{あが}め申^{もう}さるるなり。

ブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。

21 ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、『ユダヤ人の王』と書かず、『この男はユダヤ人の王』と自称した』と書いてください」と言った。

22 しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。

23 兵士たちは、イエスを十字架につけてから、その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡すようにした。下着も取ってみたが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。

24 そこで、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは、「彼らはわたしの服を分け合い、わたしの衣服のことでくじを引いた」という聖書の言葉が実現するためであった。兵士たちはこのとおりにしたのである。

25 イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。

26 イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。

27 それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、

この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。

Passio Domini (主の御受難) p.74v

18 Crus ni caque mosu nari. Ccugui ni nusubito ninin crus ni caque, v̄d-fidari, migui ni tate narabe, IESVS no von crus uo sono mannaca ni tate qeru nari. 19-20 Sono toqui Pilatos chisaku ita ni 'NAZARET no IESVS IUDEU no TEYUO nari' to Hebraica, Greca, Latina cono misama no ji uo motte, caqi ccuque, IESVS no von-crus no vye ni vchi ccuque-raruru nari. 21 Sareba moromoro no sacerdote Pilatos no moto ni yuyte, "'Teyuo' to caqui tamo becarazu. 'Sono mi Judeu no Teyuo to yuare queru' to caqui tamaye." to moxi quereba, 22 Pilatos "Qaqu coto uo caqu." to ari-qeru nari. 23 Sareba, crus no ban xite y queru mono-domo IESVS no von-yxo uo yoccu ni vaquete tori, nujme naqui fitoccu no guioy no vye uo moxiay queru ua, 24 "Core uo vaquete toru becarazu. Tada fu no xoret ni macaxeyo." tote, qujidory ni ytaxi queru nari. Core vo motte, "Vaga yxo uo uaquete tori, vaga yxo uo qujidori su bexi." tono profecia uo togue tamo nari. 25 Sarufodoni, crus no moto ni von-faua S. Ma. go-qioday no Ma. Cleofe, Ma. Magdanela tachi narabite y tamaye, 26 IESVS von-faua to gotaycet ni voboximesu discipolo uo goran atte, S. Ma. ni "Ycani, nhonin, sono mi no co uo mirareyo." to notamay, 27 discipolo ni, "*Najji no faua ua core nari." to notamayeba, sore yori, discipolo S. Ma. uo von-faua to agame mosaruru nari.

18 v̄d-fidari=von-fidari; 25 S. Ma.=Sancta Maria; 26 S. Ma.=Sancta Maria; *najji→nanjji; 27 S. Ma.=Sancta Maria;

19-20 ナザレトのゼズス、ユデウの帝王《ていおう》なり： 羅 Iesus Nazarenus Rex Iudaeorum (省略して INRI) は聖画などでも良く用いられる。有名な表現については、ラテン語をそのまま使っている場合が多いのに対して、ここでは日本語に翻訳されている。

エブライカ、ゲレカ、ラチイナ：「ヘブライ語、ギリシア語、ラテン語」。

22 書くことを書く： 変更してはならない旨で用いられる表現。

24 符：「運、あるいは、めぐりあわせ」(『日葡』)。

勝劣：「まさり越えるのと越えられるものと、すなわち、一段すぐれたのと一段劣るのと」(『日葡』)。

31 次の日はユデウの用いるパスコアの日なれば、サバドまで死骸をクルスに置くまじきため、ピラトスの許に行いて申しけるは、「兵を遣わし、クルスに掛かりける者どもの脚を難がせ給え」と頼みければ、

32 すなわち、武士を差し遣わし、

31 その日は準備の日で、翌日は特別の安息日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように、ピラトに願い出た。

32 そこで、兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた最初の男

ぬすびとに^{にん} あし^な な
盗人二人の脚を薙がせ、

33 ゼズスを見奉るに、早^みや御色体^{は おんしきたい}を
離^{はな}れ給^{たま}えば、その儀^ぎに及^{およ}ばざるなり。

34 ここにある^ぶし^し、槍^{やり}をもつてゼズ
スの御右^{おんみんぎ}の脇^{わき}を突き奉^{つ たてまつ}れば、御血^{おんち}と水^{みんず}
を流^{なが}し給^{たま}う。

35 これを見奉^みる人証^{ひとしょうこ}拠^たに立^たつ。この
証^{しょうこまこと}拠^い真^{まこと}なり。言^{まこと}いつる真^しを知るによつ
て、後^{のち}の人のヒイデス^{ひと}のために記^{しる}すなり。

と、もう一人の男との足を折った。

33 イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかつた。

34 しかし、兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出た。

35 それを目撃した者が証ししており、その証しは真実である。その者は、あなたに信じてさせるために、自分が真実を語っていることを知っている。

Passio Domini (主の御受難) p.76v

31 Ccugui no fi ua Judeu no mochijru paschoa no fi nareba, sabado made xīgay uo crus ni voqu majiqi tame, Pilatos no moto ni yuyte, moxi qeru ua, "Ccuuamono uo ccuauaxi, crus ni caqari qeru mono-domo no axi uo nagaxe tamaye." to tanomi qereba, 32 sunauachi buxi uo saxi-ccuauaxi, nusubito ninin no axi uo nagaxe, 33 IESUS uo mi tatemaccuru ni, faya von-xiquitay uo fanare tamayeba, sono gui ni voyobazaru nari. 34 Coco ni aru buxi, yari uo motte, IESVS no vō-mīgui no vaqui uo ccuqui tatemaccureba, von-chi to mīzu uo nagaxi tamo. 35 Core uo mi tatemaccuru fito xoco ni taccu. Cono xoco macoto nari. Iyccuru macoto uo xiru ni yotte, nochi no fito no fides no tame ni xirusu nari.
31 xīgay=xingay; 34 vō-mīgui=von-migui; mīzu=minzu;

3 1 薙がし: 「草を短く刈る」(『漢和大事典』)。(薙刀、草薙参照)。見出し語「薙ぐ」、「横に払って切る」(『新潮』)。

39 そのとき、ジョゼフ^{ぬの}布^ちを持たせ、
クルスの御許^{みもと}へ参^{まい}られければ、夜更^{よふ}け
てゼズス^{まい}へ参^{まい}られつるニコデムスとい
う人^{ひと}も芳^{こう}ばしき薬^{くすり}を合^あわせたるミルラ
五斤^{ごきん}ほど持^ちたせ来^きたって、

40 ジョゼフ・アバリマ^{おんしが}チヤ^{がい}とも
に御死骸^{おんしが}をクルス^おより降^おろし奉^{たてまつ}り、ジュ
デウ^{なら}の慣^{くすり}いのごとく薬^ぬを塗^{しろ}り、白^{ぬの}き布

39 そこへ、かつてある夜、イエスのもとに来たことのあるニコデモも、没薬と沈香を混ぜた物を百りトラばかり持って来た。

40 彼らはイエスの遺体を受け取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包んだ。

41 イエスが十字架につけられた所に

にて巻^まき奉^{たてまつ}り、
 41 その近^{きんべん}辺^{もり}の森^{もり}の内^{うち}に未^{いまん}だ死^{しんがい}骸^いを入^い
 れざる新^{あた}しき石^{せき}棺^{かん}ありしに、
 42 納^{おさ}め奉^{たてまつ}って、各^{おのおのかえ}々^お歸^{かえ}らるるなり。

は園があり、そこにいは、だれもまだ
 葬られたことのない新しい墓があった。
 42 その日はユダヤ人の準備の日であ
 り、この墓が近かったので、そこにイ
 エスを納めた。

Passio Domini (主の御受難) p.77

39 Sono toqui Joseph nuno uo motaxe, crus no mi-moto ye mayrare quereba, yo-fuquete IESVS ye mayrare ccuru Nicodemus to yu fito mo, cobaxiqi cusuri uo auaxe-taru mirrha go-qin fodo motaxe qitatte,
 40 Joseph Abarimathia tomo ni, von-xigay uo crus yori voroxi tatemaccuri, Judeu no naray no gotocu, qusuri uo nuri, xiroqi nuno nite maqui tatemaccuri, 41 sono quinpen no mori no vchi ni, ymanda xingay uo yrezaru ataraxiqi xequqã arixi ni, 42 vosame *tatematte, vono-vono cayeraruru nari.
 41 xequqã=xequqan; 42 *tatematte → tatemaccutte;
 39 ミルラ： 羅 mirrha。「ミルラ、もつ葉」。

五斤： 一斤は、600グラム。五斤は3キロ。原文の100リトラは30キロ余。

20章

11 マリヤ・マグダネラ、森の内、
 御棺の上に涙を流し、首を低れて、
 御棺の内を見られければ、
 12 ゼブスの御死骸を納めける前後を
 守護して、白衣のアンジョ二体御座し
 けるが、
 13 「いかに、女人、何の上にか歎かる
 るぞ」と宣えば、マグダネラ、「我ら
 が主を奪い取られて、その行方を知り
 奉らず」と宣いて、
 14 後を顧み給えば、ゼブス見申され
 けれども、見知り奉られず。
 15 「いかに、女人、誰を尋ねて悲しむ

11 マリアは墓の外に立って泣いてい
 た。泣きながら身をかがめて墓の中を
 見ると、
 12 イエスの遺体の置いてあった所に、
 白い衣を着た二人の天使が見えた。一
 人は頭の方に、もう一人は足の方に座っ
 ていた。
 13 天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いて
 いるのか」と言うと、マリアは言った。
 「わたしの主が取り去られました。ど
 こに置かれているのか、わたしには分
 かりません。」
 14 こう言いながら後ろを振り向くと、

ぞ^{のたま}と宣^{やまもり}えば、マグダネラはただ山守^{やまもり}
と心得^{こころえ}て、「御^ご辺^{へん}取^とり給^{たま}う^もにおいては、
その御^{おん}行^{ゆく}方^えを教^{おし}え給^{たま}え。自^みら取^{ずか}りに行^と
かん」と申^{もう}されければ、

16 ゼズス、「マリヤ」と呼^よび給^{たま}えば、
マダネラ、「いかに、師^し匠^{しょう}」と申^{もう}され、
近^{ちか}づかんとせられければ、

17 ゼズス、「我^{われ}未^いだ^まン^んパ^ぱア^あデ^でレ^れに到^{いた}らざ
れば、手^てを掛^かくべからず。我^{われ}上^あがると
言^いゆ左^さ右^うを告^つげよ」と宣^{たま}えば、

18 マグダネラ御^み弟^で子^しの住^{じゅう}所^{しょ}に到^{いた}つて
御^{おん}主^{あるじ}を見^み奉^{たて}まつ様^{よう}体^{たい}と宣^{たま}いける御^{おん}事^{こと}とを
御^み弟^で子^しに詳^{くわ}しく語^{かた}り申^{もう}されけるなり。

イエスの立^たつておられるのが見^みえた。
しかし、それがイエスだとは分^わからな
かつた。

15 イエスは言^いわれた。「婦^め人^によ、なぜ
泣^ないているのか。だれを捜^たしているの
か。」マリアは、園^{えん}丁^{てい}だと思^{おも}つて言^いつた。「あな^あた^たが^があ^あの方^{かた}を運^はり去^さつたの
でし^したら、ど^どこに置^おいたのか教^{おし}えてく
だ^ださい。わ^わた^たし^しが^が、あ^あの方^{かた}を引^ひき取^とり
ま^ます。」

16 イエスが、「マ^まリ^りア」と言^いわれると、
彼^か女^{にょ}は振^ふり向^むいて、ヘ^へブ^ぶラ^らイ^い語^ごで「ラ
ボ^らニ」と言^いつた。「先^{せん}生^{せい}」とい^いう意^い味^み
で^であ^ある。

17 イエスは言^いわれた。「わ^わた^たし^しに^にす^すが
り^りつ^つく^くのは^はよ^よし^しな^なさ^さい。ま^まだ^だ父^{ちち}の^のも^もと
へ^へ上^あつ^つて^てい^いない^{ない}の^のだ^だか^から。わ^わた^たし^しの^の兄^{あに}
弟^いた^たち^ちの^のと^とこ^ころ^ろへ^へ行^いつ^つて、こ^こう^う言^いい^い
な^なさ^さい。『わ^わた^たし^しの^の父^{ちち}で^であ^あり、あ^あな^あた^たが^が
た^たの^の父^{ちち}で^であ^ある^る方^{かた}、ま^また、わ^わた^たし^しの^の神^{かみ}
で^であ^あり、あ^あな^あた^たが^がた^たの^の神^{かみ}で^であ^ある^る方^{かた}の^のと^とこ^こ
ろ^ろへ^へわ^わた^たし^しは^は上^ある』と。」

18 マグ^まダ^だラ^らのマ^まリ^りア^あは^は弟^で子^した^たち^ちの^のと^とこ^こ
ろ^ろへ^へ行^いつ^つて、「わ^わた^たし^しは^は主^{しゅ}を見^みま^まし^し
た」と告^つげ、ま^また、主^{しゅ}か^から^ら言^いわれ^れた^たこ^こ
と^とを^を伝^たえ^えた。

Quinta post Pascha (御復活後の木曜日) p.49

11 Maria Magdanela mori no vchi miqan no vye ni namida vo nãgaxi, cobe uo vnatarete, mi-quan no vchi uo mirare quereba, 12 JESUS no vñ-xingay uo vosame queru jengo uo xũgo xite, facuye no anjo ni-tay vouaxi queruga, 13 ""Ycani, nhonin, nani no vye nica naguecaruruzo?" to notamayeba, Magdanela,

れられけるに

25 残りのヂシポロ、「御主を見奉る」
と申されければ、トウマ、「御手の疵
を見、釘の御痕に指を差し、御右の疵
に手を入れずば、ヒイデスに受くべか
らず」と申されけるなり。

26 その日より、八日目に当たって、
ヂシポロ、トウマ諸共に一家の門戸を
閉じていられるに、ゼズス来たり給
い、その中に立たせられ、「パス・ポ
ビス」と宣いて、

27 トウマに仰せけるは、「御辺の指を
ここに差して、手の疵を見、右の脇の
疵に手を入れ、疑いなくヒイデスに受
けられよ」と宣えば、

28 その時トウマ、「ドミヌス・メウス、
エト、デウス・メウス」と申されけれ
ば、

29 ゼズス、「いかに、トウマ、我を見
らるるによってヒイデスに受けられた
り。見ずして受ける者はベアトたるべ
し」と宣うなり。

30 されば、ゼズス、ヂシポロの前に
数多の奇特を顕わし給えども、スキリ
ツウラに記し申さず、

31 ただデウス・ヒイリヨに在すこと、
ヒイデスに受け申すべきために、この
理を記しければ、ヒイデスに受くるに
おいては、御名の功力を以てきせつ
の命に極むるべし

あなたがたが赦さなければ、赦されな
いまま残る。」

24 十二人の一人でディディモと呼ば
れるトマスは、イエスが来られたとき、
彼らと一緒にいなかった。

25 そこで、ほかの弟子たちが、「わた
したちは主を見た」と言うと、トマス
は言った。「あの方の手に釘の跡を見、
この指を釘跡に入れてみなければ、ま
た、この手をそのわき腹に入れてみな
ければ、わたしは決して信じない。」

26 さて八日目の後、弟子たちはまた
家の中におり、トマスも一緒にいた。
戸にはみな鍵がかけてあったのに、イ
エスが来て真ん中に立ち、「あなたが
たに平和があるように」と言われた。

27 それから、トマスに言われた。「あ
なたの指をここに当てて、わたしの手
を見なさい。また、あなたの手を伸ば
し、わたしのわき腹に入れなさい。信
じない者ではなく、信じる者になりな
さい。」

28 トマスは答えて、「わたしの主、わ
たしの神よ」と言った。

29 イエスはトマスに言われた。「わた
しを見たから信じたのか。見ないのに
信じる人は、幸いである。」

30 このほかにも、イエスは弟子たち
の前で、多くのしるしをなさったが、
それはこの書物に書かれていない。

31 これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

Dominica in octau paschae (御復活後第一の主日) p.22v

19 Discipolo Judeu ni vosore, ychimi xite Domingo no curegata ni ycque no monco vo tojjite yrare queru tocoro ni, JESVS quitari tamay, discipolo no naca ni tataxerare, "Pax vobis!" to notamay, 20 von-te no quizu to migui no vaqui no von-quizu vo aruaxi tamayeba, discipolo mi tatemaccuri, yorocobi mosare queru ni, 21 casanete, "Pax nobis!" to notamay, "Deus Padre vare vo ccuauaxi tamo gotocu, vare nādachi vo ccuauasu nari." to notamayte, 22 discipolo ni von-iqui vo fuqui caque tamay, "Spirito Sancto vo vque-rare. 23 Nandachi yurusu bequi toga ua yurusaru bexi. Yurusazuba, yurusaru becarazu." to notamo nari. 24 Juichi-nin no vchi ychinin Thoma to yu vtagayjin ari. JESVS quitari tamo vorifuxi, morerare queruni, 25 nocori no discipolo, "Von-Aruji vo mi tatemaccuru." to mosare quereba, Thoma "Von-te no quizu vo mi, qūgui no von-ato ni yubi vo saxi, von-mīgui no quizu ni te vo yrezuba, fides ni vqu becarazu." to mosare queru narj. 26 Sono fi yori yoca me ni atatte, discipolo, Thoma morotomo ni ycque no monco vo tojjite yrare queru ni, JESVS quitari tamaj, sono naca ni *tatexerare, "Pax uobis!" to notamayte, 27 Thoma ni voxer qeru ua, "Gofen no yubi vo coco ni saxite, te no quizu vo mi, migui no vaqui no qūzu ni te vo yre, vtagay naqu fides ni vquerareyo." to notamayeba, 28 sono toqui Thoma, "Dominus meus et D's meus!" to mosare quereba, 29 JESVS, "Ycani, Thoma, vare vo mi-raruru ni yotte, fides ni vquerare tari. Mizu xite vqueru mono ua beato taru bexi." to notamo nari. 30 Sareba JESVS discipolo no maye ni amata no quidocu vo aruaxi *tamayyedomo, scriptura ni xiruxi mosazu, 31 tada D's Filho nite maximasu coto, fides ni vque mosu bequi tame ni, cono cotouari vo xiruxi quereba, fides ni vquru ni uojte ua, von-na no quriqui vo motte quixet no ychimey ni quiuamuru bexi.

21 nādachi=nandachi; 22 vque-rare=vque-rarej; 25 qūgui=qungui; von-nīgui=von-mingui; 26 *tatexerare → tataxerare;

27 qūzu=quinzū; 28 D's=Deus; 30 *tamayyedomo → tamayedomo; D's=Deus;

1 9 ドミンゴ： 葡、domingo。「安息日、日曜日」。

パス・ボビス： 羅 Pas vobis。「平安がお前たちに」の意。

2 2 御息を吹きかけ： 「息」と「靈(スピリト)は、元来同じ言葉であった。創世記のアダム創造の場面をも参照されたい。

2 4 疑い人： この記事から「トマス」は疑い深いと評価されているが、(doubting Thomas)、実際に、「疑い人」という言葉は原典にはない。

2 8 ドミヌス・メウス、エト、デウス・メウス： 羅 Dominus meus et Deus meus。「我が主、我が神」の意。ただし、ここでも主格が用いられており、呼格は用いられていない。

3 1 極むる： 「定める」。

24 十二人の内チヂムスというトウマ、
ゼズス来たり給う折節、

25 残りの御弟子とともに在り合われ
ざるに、残りのヂシポロ、「御主を
見奉りたり」と申されけるに、トウメ
「御手の傷を見、釘の御跡に指を差し、
御右の傷に手を入れずんば、ヒイデス
に受くべからず」と申されけるなり。

26 その日より八日に当たって、ヂシ
ポロ・トウマもろともに、一家の門戸
を閉じていられけるに、ゼズス来たり
給い、その内に立たせられ、「パス・
ボビス」と宣い、

27 トウメに仰せけるは、「御辺の指を
ここに差せ、手の傷を見、右の脇の傷
に手を入れ、疑いなくヒイデスに受け
られい」と宣えば、

28 その時、トウメ、「デウス・メウス、
エト、デウス・メウス」と申されけれ
ば、

29 ゼズス、「いかに、トウメ、我を見
られけるによってヒイデスに受けられ
たり。見ずしてヒイデスに受くる者は
ベアトたるべし」と宣うなり。

24 十二人の一人でディディモと呼ば
れるトマスは、イエスが来られたとき、
彼らと一緒にいなかった。

25 そこで、ほかの弟子たちが、「わた
したちは主を見た」と言うと、トマス
は言った。「あの方の手に釘の跡を見、
この指を釘跡に入れてみなければ、ま
た、この手をそのわき腹に入れてみな
なければ、わたしは決して信じない。」

26 さて八日の後、弟子たちはまた家
の中におり、トマスも一緒にいた。戸
には鍵がかけあつたのに、イエスが
来て真ん中に立ち、「あなたがたに平
和があるように」と言われた。

27 それから、トマスに言われた。「あ
なたの指をここに当てて、わたしの手
を見なさい。また、あなたの手を伸ば
し、わたしのわき腹に入れなさい。信
じない者ではなく、信じる者になりな
さい。」

28 トマスは答えて、「わたしの主、わ
たしの神よ」と言った。

29 イエスはトマスに言われた。「わた
しを見たから信じたのか。見ないのに
信じる人は、幸いである。」

In festo S. Thomae Apost. (使徒聖トマの祝日) p.84v

24 Iuni-nin vo vchi Didimus to yu Thoma, IESVS quitari tamo vorifuxi, 25 nocori no mi-dexi to tomo ni ari auarezaru ni, nocori no discipolo, "Von-Aruji uo mi tatemaccuri tari." to mosare queru ni, Thome "Von-te no quinzu vo mi, cūgui no vō-ato ni yubi vo saxe, vō-migui no quizu ni te vo yrezumba, fides ni vqu becarazu." to mosare queru nari. 26 Sono fi yori yōca ni atatte, discipolo Thoma morotomo ni

ycqe no monco uo tojjite yrare queru ni, IESVS qitari tamaj, sono vchi ni tataxerare, "Pax vobix." to notamay, 27 Thome ni voxē queru ua, "Gofen no yubi uo coco ni saxe, te no quizu vo mi, migui no vaqui no quizu ni te vo yre, vtagay naqu, fides ni vque rarey." to notamayeba, 28 sono toqui Thome, "Deus meus, et Deus meus." to mosare quereba, 29 IESVS, "Ycani, Thome, vare uo mirare queru ni yotte, fides ni vqueraretari. Mizu xite fides ni vquru mono va beato taru bexi." to notamo nari.
 25 cūgui=cungui; vō-ato=von-ato; vō-migui=von-migui;
 この部分は一つ前の部分と一致する。

21章

19 ゼズス、ペトロに、「我が後より
 来たるべし」と宣えば、

20 ペトロ後ろを見らるるに、セアの
 時、御膝に眠り、「いかに、ドミネ、
 誰人が御身を渡し奉らんや」と問い申
 されたる、ゼズス大切に思召すヂシ
 ポロ、御後に参らるを見て、

21 ゼズスへ、「いかに、ドミネ、あれ
 はいかに」と申されければ、

22 「我来るべきまで、そのまま残しお
 きたく思うなり。御辺何の故にか触ら
 れけるぞ。我が後を来るべし」と宣う
 なり。

23 さるほどにヂシポロの中に、この
 ゼシポロは死せられまじきとの沙汰あ
 るなり。さりながら、ゼズス「死せら
 れまじき」と宣わず。ただ、「我来る
 べきまで、そのまま残しおきたく思う
 なり。何の故にか綺われけるぞ」と宣う
 なり。

19・・・このように話してから、ペ
 トロに、「わたしに従いなさい」と言
 われた。

20 ペトロが振り向くと、イエスの愛
 しておられた弟子がついて来るのが見
 えた。この弟子は、あの夕食のとき、
 イエスの胸もとに寄りかかったまま、
 「主よ、裏切るのはだれですか」と言っ
 た人である。

21 ペトロは彼を見て、「主よ、この人
 はどうなるのでしょうか」と言った。

22 イエスは言われた。「わたしの来る
 ときまで彼が生きていることを、わた
 しは望んだとしても、あなたに何の関
 係があるか。あなたは、わたしに従い
 なさい。」

23 それで、この弟子は死なないとい
 ううわさが兄弟たちの間に広まった。
 しかし、イエスは、彼は死なないと言
 われたのではない。ただ、「わたしの

24 さればこのチシポロは、このこと
の証^{しょうこ}拠^たに立ち、この有^{ありさま}様^{しる}を記されける。
これ真^{まこと}の証^{しょうこ}拠^たなる儀^ぎを存^{ぞん}ずるなり。

来るときまで彼が生きていることを、
わたしが望んだとしても、あなたに何
の関係があるか」と言われたのである。

24 これらのことについて証しをし、
それを書いたのは、この弟子である。
わたしたちは、彼の証しが真実である
ことを知っている。

San João Euangelista no Euangelho (福音史家使徒ヨハネの福音) p.8

19 JESVS Pedro ni, "Vaga ato yori quitaru bexi." to notamayeba, 20 Petro vxiro vo miraruru ni, cea no toqui, von fiza ni nemuri, "Ycani, Domine, tare-bito ca von-mi vo vataxi tatemaccuran ya?" to toy mosaretaru JESVS tajxet ni voboximesu discipolo, von-ato ni mairaruru vo mite, 21 JESVS ye, "Ycani, Domine, are va ycani?" to mosare qereba, "Vare quitaru bequi made, sono-mama nocoxi voqitaqu vomo nari. Gofen nani no yuye nica sauarare queruzo? Vaga ato vo quitaru bexi." to notamo nari. 23 Sarufodo ni discipolo no naca ni, cono discipolo va xixerare majiqui, to no sata aru nari. Sarinagara, JESVS "Xixerare majiqui." to notamauazu, tada "Vare quitaru bequi made, sono-mama nocoxi voqitaqu vomo ni, nani no yuye nica yrouare queruzo?" to notamo nari. 24 Sareba cono discipolo va cono coto no xôco ni tachi, cono arissama vo xirusare queru. Core macoto no xôco naru gui vo zôzuru nari.

23 綺われ：「関係がある、または、干渉する」(『日葡』)。

使徒言行

2章

1 ペンテコステの日数達する内に
 もろもろ諸々のヂシポロ一家に集まり居られけるに、

2 俄に大風吹き来たり如くなり下りて、
 ゼシポロの居られける家に入り満ちて

3 火の色にして、人の舌の如くに見え、
 一人ずつの上スピリト・サント掛かり給えば、

4 各々スピリト・サントを満ち満ちて受けられ、
 御与えの如く様々の言葉に語られけるなり。

5 その折節、ユデウ良き人々、その他諸国の
 人数ゼルザレンに集まり居けるが、

6 彼の鳴り下る音を聞いて、その所に群がり、
 何れの人もヂシポロの言葉を分別して、
 互いに驚き申しけるは、

7 「かくの如く語るるは皆ガリラヤの人に非ずや、

8 如何にとして、我らが郷談に量りなき
 デウスの御事を分別致す様に語るるぞ」と
 言いけるなり。

1 五旬祭の日が来て、一同が一つになって
 集まっていると、

2 突然、激しい風が吹いて来るような音が
 天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。

3 そして、炎のような舌が分かれ分かれに
 現れ、一人一人の上にとどまった。

4 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が
 語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

5 さて、エルサレムには天下のあらゆる
 国から帰って来た、信心深いユダヤ人が
 住んでいたが、

6 この物音に大勢の人が集まって来た。そして、
 だれもかれも、自分の故郷の言葉が話さ
 れているのを聞いて、あっけにとられてしまっ

7 た。人々は驚き怪しんで言った。「話をして
 いるこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。

8 どうしてわたしたちは、めいめいが生まれ
 た故郷の言葉を聞くのだろうか。

Dominica Pentecostes (聖霊御降臨大祝日の主日) p.27

1 Pentecoste no ficazu tassuru vchi ni moromoro no discipolo yeqwe ni accumari, yrare queru ni, 2 niuacani tayfu fuqui quitari gotocu nari cūdarite, discipolo no yrare queru yye ni iri michite, 3 fi no yro ni xite, fito no xita no gotocu ni miye, ichiñi zzuco no vye ni Spirito Santo cacari tamayeba, 4 vono-vono Spirito Sancto vo michi michite vquerare, von-ataye no gotocu, samazama no cotoba ni catarare queru nari. 5 Sono vorifuxi, Judeu yoqui fitobito, sono foca xococu no ninju Jerusalem ni accumari y queru ga, 6 cono nari cudaru coye vo quÿte sono tocoro ni muragari, izure no fito mo discipolo no cotoba vo fūbet xite, tagay ni vodoroku moxi queru ua, 7 "Cacu no gotocu catararuru ua, mina Galilea no fito ni arazu ya? 8 Ycani to xite, varera ga quiodã ni, facari naqui Deus no vō-coto vo fumbet itasu yo ni catararuruzo?" to yuy queru nari.

2 cūdarite=cundarite; 3 ichiñi=ichinin; 6 fūbet=funbet; 8 quiodã=quiodan; vō-coto=von-coto;

1 ペンテコステ： 希 pentecoste。「第50番目の」意味で、「過越祭」の方50日目にあたる。この日、教会に「聖霊」が降った。

8 郷談： 「同じ言語が行われてはいるけれども、ある語や発音に相違した点のある、諸国や諸地方の違った言い方」(『日葡』)。

一コリント11：25

25 「汝達我を思い出すために、かくの
ごとく致されよ」と宣うなり。

25 「飲む度に、わたしの記念としてこ
のように行いなさい」と言われました。

25 "Nandachi vare uo vomoy idasu tame ni, caqu no gotocu ytasareyo." to notamo nari.